

Tango lyrics study (Open University Japan Project)

El día que me quieras -35 Edgardo Donato con Juan Alessio	2
Flor de lino -47 Aníbal Troilo con Floreal Ruiz	4
Romance de barrio -47 Aníbal Troilo con Floreal Ruiz.....	7
Tres esquinas -41 Ángel D'Agostino con Ángel Vargas	10
La capilla blanca -44 Carlos Di Sarli con Alberto Podestá	13
Paciencia -37 Juan D'Arienzo con Enrique Carbel	17
Cascabelito -55 Osvaldo Pugliese con Jorge Maciel	21
Remembranza -56 Osvaldo Pugliese con Jorge Maciel	26
Fuimos -46 Osvaldo Pugliese con Roberto Chanel	29
Oigo tu voz -43 Ricardo Tanturi con Enrique Campos	34
Al compás del corazón (Late un corazón) -42 Miguel Caló con Raúl Berón	38
Jamás retornarás -42 Miguel Caló con Raúl Berón	41
Esta noche de luna -55 Osvaldo Pugliese con Jorge Maciel	44
Por una cabeza -35 Carlos Gardel	47
Volver -35 Carlos Gardel	53
El día que me quieras -35 Carlos Gardel	57
Poema -35 Francisco Canaro con Robert Maida	63
Dos Corazones -44 Lucio Demare con Horacio Quintana	66
Ribereña -42 Lucio Demare con Juan Carlos Miranda	71
Se fue -43 Lucio Demare con Raúl Berón	76
Nunca supe porque -42 Lucio Demare con Juan Carlos Miranda	83
Estan Sonando Las Ocho - 44 Lucio Demare con Horacio Quintana.....	90
Y suma y sigue... -55 Juan D'Arienzo con Alberto Echagüe	95
Mendocina -42 Edgardo Donato con Romeo Gavioli	102



El día que me quieras -35 Edgardo Donato con Juan Alessio

Composer: Carlos Gardel Author: Alfredo Le Pera
Artist: Orquesta Edgardo Donato con Juan Alessio
Genre: Canción Recorded: 1935-06-13

EL DÍA QUE ME QUIERAS

El día que me quieras

君が私を愛してくれるその日

- ここが曲の中心となる有名なフレーズです。
- **「もしその日が来たなら」**という願望の形で、まだ完全には叶っていない夢として歌われています。
- だからこそ、切なさや憧れが同時にあります。

La rosa que engalana, 飾り立てる薔薇は

- **rosa** は薔薇。愛、美、情熱の象徴です。
- **engalana** は「華やかに飾る」「美しく装わせる」。
- 薔薇そのものが、祝祭の飾りとして登場します。
- 愛が成就する日は、自然界までも美しく着飾る、という発想です。

Se vestirá de fiesta

祝いの装いをまとい

- **vestirse de fiesta** は直訳すると「祝祭の服を着る」。
- ここでは薔薇が、まるで人間のようにお祝いの衣装を身につける、と擬人化されています。
- 恋人の愛が叶う日は、花さえも祝賀の気分になるのです。

Con su mejor color.

いちばん美しい色になるだろう。

- **su mejor color** は「その最高の色」。
- 薔薇がもっとも美しく咲く、その最上の姿で愛を祝うという意味です。
- 単なる自然描写ではなく、**宇宙全体が祝福する愛**のイメージが広がっています。

Al viento las campanas

風の中で鐘は

- **campanas** は鐘。教会の鐘を思わせます。
- 鐘は祝福、婚礼、吉報の象徴でもあります。
- **al viento** によって、鐘の音が風に乘って広がっていくイメージが出ます。
- 二人の愛が、ひそかなものではなく、世界に響く出来事になるのです。

Dirán que ya eres mía,

もう君は私のものだと言われるだろう。

- ここは現代の感覚だと少し強い表現ですが、古い恋愛詩ではよくある言い方です。
- **eres mía** は所有というより、「君は私の愛する人として結ばれている」という感覚です。
- 愛の成就を、鐘が公に宣言するイメージです。

Y locas las fontanas

そして狂おしい噴水たちは

- **fontanas** は「噴水」。やや詩的・古風な語感です。
- **locas** は「狂ったような」「熱狂した」。
- 噴水が喜びにあふれ、まるで興奮しているように描かれています。
- 水のはねる動きが、愛の高揚感と重なっています。

Me contarán tu amor.

君の愛を私に語ってくれるだろう。

- 噴水が恋人の愛を語る、という非常に幻想的な表現です。
- つまり、自然界のあらゆるものが「彼女も君を愛している」と教えてくれる。

- ・ 話し手の願望がそこまで広がっているわけです。
-

La noche que me quieras

君が私を愛してくれるその夜

- ・ 今度は「その日」ではなく「その夜」。
 - ・ 昼の祝祭的な世界から、夜の神秘的・幻想的な世界へ移ります。
 - ・ 同じ愛でも、昼は祝福、夜は神秘と親密さの時間です。
-

Desde el azul del cielo,

青い空の彼方から

- ・ **azul del cielo** は「空の青」。
 - ・ 夜なのに「青」と言うことで、完全な暗闇ではなく、詩的な天空の広がりを感じられます。
 - ・ 夢のような透明感があります。
-

Las estrellas celosas

嫉妬した星たちが

- ・ **celosas** は「嫉妬している」。
 - ・ 星たちが二人の愛に嫉妬して見つめる、という擬人化です。
 - ・ それほど二人の幸福がまぶしい、という意味でもあります。
 - ・ この歌の特徴である、宇宙までも感情を持つという表現です。
-

Nos mirarán pasar.

私たちが通り過ぎるのを見つめるだろう。

- ・ 星たちが上から二人を見守る光景です。
 - ・ 愛し合う二人が歩く姿は、天上の存在さえ目を留めるほど美しいものとして描かれています。
-

Y un rayo misterioso

そして不思議な一筋の光が

- ・ **rayo** は「光線」「ひとすじの光」。
 - ・ **misterioso** が付くことで、自然現象以上の、運命的・魔法的なものに感じられます。
 - ・ 愛の瞬間に天から降りる祝福のようです。
-

Hará nido en tu pelo,

君の髪に巣をつくるだろう。

- ・ **hacer nido** は「巣を作る」。
 - ・ 光が髪に宿る、留まる、きらめく様子を表しています。
 - ・ とても視覚的で美しい比喻です。
 - ・ 恋人の髪が、星明かりや光に包まれて輝いている情景が浮かびます。
-

Luciérnaga curiosa, que verá

好奇心いっぱいの蛍は、それを見るだろう

- ・ **luciérnaga** は「蛍」。
 - ・ 先ほどの光が、今度はまるで蛍として描かれています。
 - ・ **curiosa** は「好奇心に満ちた」。
 - ・ 光が二人の愛をのぞき込む、小さな証人のような存在になっています。
-

¡Que eres mi consuelo!

君が私の慰めであることを！

- ・ **consuelo** は「慰め」「癒し」「支え」。
- ・ 恋人は単なる愛の対象ではなく、人生の苦しみを和らげる存在です。
- ・ 冒頭の **mi herida** (私の傷) とも響き合っています。
- ・ この歌全体で、愛する人は幸福そのものであると同時に、苦しみを癒す救いでもあります。

[Index](#)

Flor de lino -47 Aníbal Troilo con Floreal Ruiz

この曲は **Homero Expósito** 作詞、**Héctor Stamponi** 作曲のワルツで、**Aníbal Troilo** 楽団/**Floreal Ruiz** の歌唱で **1947 年 4 月 29 日** に録音されています。

なお、掲載されている歌詞には少し異同があり、資料では **“Deshojaba noches cuando la esperaba...”** となっている版も確認できます。大意は変わりません。

題名

Flor de lino

直訳すると「亜麻の花」。

亜麻の花は淡く繊細で、野に咲く、はかなさの象徴として使われています。この歌では、女性そのものを「Flor de lino」と呼んでいるようにも、彼女を亜麻の花に重ねているようにも読めます。

Deshojaba noches esperando en vano que le diera un beso,

むなしく口づけを待ちながら、彼女は夜を一枚ずつむしっていた。

- **deshojar** は「花びらをむしる」。
- **deshojaba noches** は直訳ではなく詩的表現で、「夜を一夜ずつ消費する」「夜を数えながら待つ」という感じです。
- **esperando en vano** は「むだに待ちながら」「かなわぬ期待を抱いて」。
- つまり彼女は、彼からのキスを待っていたのに報われなかった、という出だしです。

Pero yo soñaba con el beso grande de la tierra en celo,

でも僕は、発情した大地の大きな接吻みたいな夢を見ていた。

- **la tierra en celo** はとても強い表現で、「熱を帯びた大地」「生命にうづく大地」。
- 個人的な小さな恋よりも、もっと大きく荒々しい、生の衝動や自然の夢を男が追っていたことを示します。
- ここには、彼女の気持ちに気づけなかった若さと未熟さがあります。

Flor de lino

亜麻の花よ

- 呼びかけです。
- ここで女性が、素朴で清らかな存在として浮かび上がります。

Qué raro destino

なんと奇妙な運命が

Truncaba un camino

ひとすじの道を断ち切っていた

De linos en flor...

花咲く亜麻の野をゆくその道を.....

- **truncaba** は「途中で断ち切る」。
- **camino de linos en flor** は、文字通りには「花咲く亜麻の中の道」。
- でも比喻としては、「咲きかけた恋の道」「幸福へ向かうはずだった人生の道」と読めます。

Deshojaba noches cuando la esperaba por aquel sendero

あの小道で彼女を待ちながら、僕は夜を一枚ずつむしっていた。

- ここでは具体的な情景になります。
- **sendero** は「小道」。田舎の風景が見えます。
- 僕が待つ姿が、いっそう切実になります。

Llena de vergüenza, como los muchachos con un traje nuevo,

新しい服を着た少年たちみたいに、恥じらいでいっぱいになって。

- とても美しい比喻です。
- 晴れ着を着た少年の、落ち着かない照れと初々しさ。
- 彼女の純朴さ、ぎこちなさ、まっすぐさがにじみます。

¡Cuántas cosas que se fueron...!

ああ、どれほど多くのものが去ってしまったことか.....！

- 若さ、機会、言えなかった気持ち、取り返せない時間。
- それら全部をまとめて嘆いています。

Y hoy regresan siempre, por la siempre noche de mi soledad.

そして今ではそれらが、孤独の終わらぬ夜を通して、いつも戻ってくる。

- **la siempre noche de mi soledad** は直訳すると少し不自然ですが、「いつまでも続く孤独の夜」「永遠のような孤独の夜」。
- 思い出は去ったのではなく、孤独の中で何度も戻ってくるのです。

サビ

Yo la vi florecer como el lino

僕は彼女が花開くのを見た、亜麻の花のように

- **florecer** は「花開く」「美しく育つ」。
- 少女が女性として美しくなっていく姿にも重なります。

De un campo argentino maduro de sol,

陽光に熟したアルゼンチンの野原の、その亜麻のように。

- **maduro de sol** は直訳すると「太陽に熟した」。
- 陽をたっぷり浴びて成熟した、豊かな田園のイメージです。
- 土地の匂いがある、とてもアルゼンチン的な表現です。

Si la hubiera llegado a entender

もしあのとき、彼女のことを本当に理解できていたなら

- 後悔の核心です。
- 彼は、愛さなかったというより、理解できなかったのです。

Ya tendría en mi rancho el amor.

今ごろ僕の粗末な家には、愛があっただろうに。

- **rancho** は「小屋」「田舎家」。
- 飾らない、素朴な生活の場です。
- 豪華な幸福ではなく、ささやかな家庭の愛を失った悔いが出ています。

Yo la vi florecer, pero un día

僕は彼女が花開くのを見た。けれど、ある日

¡Mandinga la huella que me la llevó!

ちくしょう、その足跡が彼女を連れ去ってしまった！

- **Mandinga** は悪魔を指す俗な言い方。ここでは「くそっ」「悪魔め」という嘆き。
- **la huella** は「道」「足あと」。
- 彼女は誰かと去ったのか、運命に連れ去られたのか、明示されません。だから余計に詩的です。

Flor de lino se fue

亜麻の花のあの人は去ってしまった

Y hoy que el campo está en flor,

そして今、野には花が咲いているというのに、

¡Ah, malhaya, me falta su amor...!

ああ、なんてことだ、僕には彼女の愛が欠けている……！

- **malhaya** は古風な嘆きの語で、「ああ、なんということか」「ああ、ついていない」。
- 春のように野が花で満ちていても、彼の内側だけは満たされない。
- 外の豊かさと、心の欠落の対比です。

このサビは繰り返されることで、後悔が執拗に胸へ返ってくる感じを強めています。

Flor de lino se fue

亜麻の花のあの人は去ってしまった

Yo la vi florecer, pero un día

僕は彼女が花開くのを見た。けれど、ある日

¡Mandinga la huella que me la llevó!

ちくしょう、その足跡が彼女を連れ去ってしまった！

- **Mandinga** は悪魔を指す俗な言い方。ここでは「くそっ」「悪魔め」という嘆き。
- **la huella** は「道」「足あと」。
- 彼女は誰かと去ったのか、運命に連れ去られたのか、明示されません。だから余計に詩的です。

Flor de lino se fue

亜麻の花のあの人は去ってしまった

Y hoy que el campo está en flor,

そして今、野には花が咲いているというのに、

¡Ah, malhaya, me falta su amor...!

ああ、なんてことだ、僕には彼女の愛が欠けている……！

- **malhaya** は古風な嘆きの語で、「ああ、なんということか」「ああ、ついていない」。
- 春のように野が花で満ちていても、彼の内側だけは満たされない。

- 外の豊かさと、心の欠落の対比です。

このサビは繰り返されることで、後悔が執拗に胸へ返ってくる感じを強めています。

Y hoy que el campo está en flor,

そして今、野には花が咲いているというのに、

¡Ah, malhaya, me falta su amor...!

ああ、なんてことだ、僕には彼女の愛が欠けている……！

- **malhaya** は古風な嘆きの語で、「ああ、なんということか」「ああ、ついていない」。

- 春のように野が花で満ちていても、彼の内側だけは満たされない。

- 外の豊かさと、心の欠落の対比です。

このサビは繰り返されることで、後悔が執拗に胸へ返ってくる感じを強めています。

全体の意味

この歌は、単なる失恋ではなく、

- 相手は自分を待っていた
- でも自分は、その愛を理解できなかった
- 気づいた時にはもう遅かった
- 今は、自分のほうが彼女を待っている

という、“**取り返しのつかない愛への後悔**”を歌っています。

特に美しいのは、

- 亜麻の花
- 夜をむしる
- 孤独を照らす星
- 開いたままの牧柵門

といった田園的で象徴的なイメージが、全部「失った愛」に結びついている点です。

この作品は、Homero Expósitoらしい、知的で詩的な比喻に満ちた名作として知られています。

[Index](#)

Romance de barrio -47 Aníbal Troilo con Floreal Ruiz

Composer: Aníbal Troilo Author: Homero Manzi

Artist : Orquesta Aníbal Troilo con Floreal Ruiz arr. de Argentino Glaván

Genre Vals Recorded 1947-08-19

全体としては「四月の逢瀬」から始まった下町の恋が、意地と恨みで壊れ、後になって二人とも同じ痛みを背負う、というワルツです。Manziらしく、具体的な情景がそのまま記憶の傷になっています。

Romance de barrio

Primero, la cita lejana de abril

まずは、遠い四月の逢い引き。

→ *Primero* は「最初に」。恋の始まりを回想しています。*cita* は約束・待ち合わせ・逢瀬。*lejana* は時間的に「遠い」。四月という季節が、青春や恋の始まりの象徴になっています。

Tu oscuro balcón, tu antiguo jardín,

君の暗いバルコニー、昔ながらの庭。

→ 恋人の家の情景です。*oscuro* は単に暗いだけでなく、夜、秘密、憂いを含みます。*antiguo jardín* は古びた庭、記憶の中に沈んだ場所という感じです。

Más tarde, las cartas de pulso febril

その後には、熱に浮かされた筆跡の手紙。

→ *pulso febril* は「熱っぽい脈」「熱を帯びた手」。つまり激しい感情で書かれた恋文です。冷静ではなく、恋に震えながら書いた感じ。

Mintiendo que no, jurando que sí.

「違う」と嘘をつき、「そうだ」と誓いながら。

→ 恋の駆け引きです。本当は好きなのに否定したり、逆に愛を誓ったりする。矛盾した言葉の中に、若い恋の揺れがあります。

Romance de barrio, tu amor y mi amor

下町の恋物語、君の愛と僕の愛。

→ *barrio* は単なる「地区」ではなく、タンゴでは特別な言葉です。庶民的な町、昔の近所、人生の原風景。ここでは「下町の恋」と訳すと雰囲気が出ます。

Primero un querer, después un dolor,

初めは愛し合う気持ち、やがて痛み。

→ *querer* は「愛すること」「好きでいること」。恋は最初、純粋な思いだったが、最後には苦しみ変わったという流れです。

Por culpas que nunca tuvimos

僕たちには一度もなかった罪のために。

→ *culpas* は「罪」「過ち」「責任」。二人は本当は悪くなかった、という悔しさがあります。

Por culpas que debimos, sufrir los dos.

それでも二人で苦しまなければならなかった罪のために。

→ *debimos sufrir* は「苦しむ運命だった」「苦しまざるを得なかった」。罪はなかったのに、二人とも罰を受けたように苦しんだ、という悲劇です。

Hoy vivirás

今、君は生きているだろう。

→ ここから現在の想像になります。相手が今どこかで暮らしている姿を思い浮かべています。

Despreciándome, tal vez, sin pensar,

たぶん僕を軽蔑しながら、深く考えもせずに。

→ *despreciándome* は「僕を見下して」「僕を蔑んで」。ただし *tal vez* があるので、確信ではなく想像です。彼はまだ彼女の心を気にしている。

Que lamento al no poder tener,

君を手でできないことを、僕が嘆いているとは思わずに。

→ *no poder tener* は「君を持てない」「君と一緒にいられない」。所有というより、もう自分のそばにいない喪失感です。

El dolor de no saber olvidar.

忘れるすべを知らない痛みを。

→ ここがとてもタンゴ的です。「忘れられない」のではなく「忘れ方を知らない」。自分ではどうにもできない苦しみです。

Hoy estarás

今、君はいるだろう。

→ 前の *Hoy vivirás* と呼応しています。彼女の現在を想像し続けています。

Como nunca lejos mío,

かつてないほど、僕から遠くに。

→ 距離だけでなく、心の距離です。昔は近かったのに、今はもう届かない。

Lejos de tanto llorar.

あまりに泣き続けた末に、遠くへ。

→ *de tanto llorar* は「たくさん泣いたせいで」。二人の別れは、涙を重ねた結果として決定的になったという感じです。

Fue porque sí

それは、ただ何となくだった。

→ *porque sí* は難しい表現で、「理由もなく」「ただそうってしまった」「意地で」という感じです。明確な理由のない破局を表します。

Que el despecho te cegó como a mí,

意地と恨みが、君を、僕と同じように盲目にした。

→ *despecho* は失恋の恨み、腹立ち、傷ついたプライド。*cegar* は「目を見えなくする」。怒りや嫉妬で冷静さを失ったという意味です。

Sin mirar que en el rencor del adiós

別れの恨みの中で、気づかずに。

→ *rencor del adiós* は「別れの恨み」。別れ際の怒りが二人を支配していました。

Castigabas con crueldad tu corazón.

君は自分の心を残酷に罰していたのだ。

→ 相手を傷つけているつもりで、実は自分自身の心も傷つけていた、という意味です。ここはとても美しい表現です。

Fue porque sí

それは、ただそうってしまった。

→ もう一度繰り返されます。理屈では説明できない別れだった、という諦めです。

Que de pronto no supimos pensar,

突然、僕たちは考えることができなくなった。

→ *no supimos pensar* は「考え方が分からなかった」「冷静に考えられなかった」。若さ、怒り、傷ついた自尊心が原因です。

Que es más fácil renegar y partir

否定して、背を向けて、去る方が簡単だと。

→ *renegar* は「否認する」「拒絶する」「悪く言う」。愛を認めるより、相手を否定して別れる方が楽だったということ。

Que vivir sin olvidar.

忘れられないまま生きるよりも。

→ ここが核心です。別れるのは一瞬。でも忘れられないまま生きるのは長い苦しみ。二人は別れを選んだが、その後の苦しみの方が深かった。

Retornan vencidas tu voz y mi voz

君の声と僕の声が、敗れたものとして戻ってくる。

→ *retornan* は「戻ってくる」。*vencidas* は「敗れた」「打ち負かされた」。思い出の中で、二人の声がもう勝ち目のないものとしてよみがえります。

Trayendo al volver con tonos de horror,

戻ってくるたびに、恐ろしい響きを連れて。

→ *tonos de horror* はかなり強い表現です。懐かしいだけでなく、後悔や痛みが恐怖のように響く。

Las culpas que nunca tuvimos

僕たちには一度もなかった罪を。

→ 1番と同じフレーズです。罪がなかったのに、記憶の中では罪のように戻ってくる。

Las culpas que debimos pagar los dos.

それでも二人で償わなければならなかった罪を。

→ *pagar* は「支払う」「償う」。1番では *sufrir* 「苦しむ」でしたが、最後は *pagar* 「代償を払う」になっています。恋の終わりの代償を、二人とも払ったという締め方です。

全体の解釈

この歌は、単なる失恋ではなく、**「本当は誰も悪くなかったのに、意地と傷ついた誇りのせいで壊れてしまった恋」**を描いています。

特に重要なのは、次の対比です。

四月の逢瀬、バルコニー、庭、手紙

→ 恋が始まったころの甘く具体的な記憶。

灰、恨み、別れ、罪、償い

→ 時間が経った後に残った後悔。

この作品では、恋人同士が互いを傷つけたというより、

若さ、意地、誤解、別れ際の怒りが、二人を同時に傷つけたという描き方になっています。

タイトルの **Romance de barrio** は、直訳すると「町内の恋物語」「下町のロマンス」ですが、タンゴの感覚では、もっと湿度があります。

日本語タイトル風にするなら：

「下町の恋」

「街角の恋物語」

「バリオのロマンス」

「四月の恋の記憶」

あたりが合います。

個人的には、歌の雰囲気を出すなら

「下町の恋」

が一番自然です

[Index](#)

Tres esquinas -41 Ángel D'Agostino con Ángel Vargas

Composer: Ángel D'Agostino; Alfredo Attadía
Author: Enrique Cadícamo
Artist: Orquesta Ángel D'Agostino con Ángel Vargas
Genre: Tango Recorded: 1941-07-24

この歌は、ブエノスアイレスの下町への郷愁、自分の若さ、そしてタンゴそのものへの自己同一化が強く出ている名曲です。
とくに Cadícamoらしい、懐かしさ・男っぽさ・下町の匂いが濃い歌詞です。

Tres esquinas
トレス・エスキナーナス（「三つ角」）
TRES ESQUINAS

Yo soy del barrio de Tres Esquinas
俺はトレス・エスキナーナスの街の人間だ。

- **Yo soy de...** は「私は の出だ」「 の者だ」。
- ここでは単なる住所ではなく、自分のアイデンティティそのものを言っています。
- **barrio** は「街区、下町、地域」。タンゴではとても重要な言葉です。

Viejo baluarte de un arrabal,
場末の下町の、古い砦のような場所。

- **baluarte** は「砦」「とりで」「拠り所」。
- **arrabal** は「町はずれ」「場末の下町」。タンゴの原風景そのものです。
- つまり、Tres Esquinas は、古きよき下町文化の象徴的な場所だと言っています。

Donde florecen como glicinas
そこでは藤の花のように咲くんだ、

- **florecen** は「花開く」「咲く」。
- **glicinas** は「藤の花」。
- 女性たちの美しさを、たわねに咲く藤にたとえています。
- 柔らかく上品な比喻で、荒っぽい下町に美しさが共存しています。

Las lindas pibas de delantal...
エプロン姿のかわいい娘たちが。

- **pibas** は lunfardo で「娘たち」「女の子たち」。
- **de delantal** は「エプロン姿の」。
- 当時の庶民的な娘の姿、家庭的で素朴な雰囲気を感じさせます。
- つまり、気取らない下町娘たちの美しさを描いています。

Donde en la noche tibia y serena
そこでは、ぬくもりのある静かな夜になると、

- **tibia** は「ぬるい、ほんのり暖かい」。
- **serena** は「静かな、穏やかな」。
- とても映像的で、夏の夜の空気感が出ています。

Su antiguo aroma vuelca el malvón,
ゼラニウムが昔ながらの香りをあたりにこぼしてゆく。

- **malvón** はゼラニウム。ブエノスアイレスの家の中庭や玄関先によくある植物。
- **su antiguo aroma** は「昔からのなつかしい香り」。
- **vuelca** は直訳だと「注ぐ、こぼす」。
- ここでは香りがあふれ出す感じですが、
下町の古い家々の生活臭と郷愁が凝縮された一行です。

Y bajo el cielo de luna llena

そして満月の空の下では、

- **bajo el cielo** は「空の下で」。
 - **de luna llena** は「満月の」。
-

Duermen las chatas del corralón...

荷車たちが資材置き場で眠っている。

- **chatas** は平たい荷車、荷台車のこと。
 - **corralón** は材木置き場、運送業の車庫、資材置き場のような場所。
 - 夜になって仕事道具が休んでいる風景で、労働者の町の静かな夜が見えます。
-

Soy de ese barrio de humilde rango

俺はあの、つましい身分の街の者だ。

- **humilde rango** は「低い身分」「慎ましい格の」。
 - 貧しい街だけれど、それを恥じていない。
 - むしろ誇りを込めて語っているのが重要です。
-

Yo soy el tango sentimental...

俺こそが、その感傷的なタンゴなんだ。

- とても有名な一節です。
 - 「俺はその街の人間だ」だけでなく、俺自身がタンゴそのものだと言っている。
 - 個人と **barrio** と **tango** が一体化しています。
-

Soy de ese barrio que toma mates

俺は、マテ茶を飲むあの街の者だ。

- **mate** はアルゼンチンの生活文化そのもの。
 - ここで言うのは、飾らない庶民の暮らしです。
-

Bajo la sombra que da el parral...

ぶどう棚のつくる木陰の下で。

- **parral** はぶどう棚。
 - 家の中庭や庭先にある、昔ながらの庶民の家の風景。
 - 前の行と合わせて、午後の生活感ある情景が立ち上がります。
-

En sus ochavas compadrié de mozo

そこの街角では、若いころの俺は気取って粋がっていた。

- **ochavas** は街角、建物の角の面取り部分。転じて「角」「街角」。
 - **compadrié** は **compadrón / compadrear** 系で、「気取る」「伊達をきめる」「いなせにふるまう」。
 - **de mozo** は「若いころに」。
 - 下町の若者らしい見栄と粋が出ています。
-

Tiré la daga por un loco amor,

狂おしい恋のために短刀を振るったこともあった。

- **daga** は短剣、短刀。
 - **tirar la daga** は、文字通り投げるより、文脈的には刃物を抜く、使う くらいの荒っぽい響きです。
 - つまり若い頃の血気盛んな恋沙汰。
-

Quemé en los ojos de una maleva

ひとりの気の強い女の瞳に、俺は焼きつけた。

- **maleva** は **lunfardo** 的に、「不良っぽい女」「気丈な女」「危ない色気のある女」。
 - 単なる「悪女」ではなく、下町の荒っぽさを帯びた魅力的な女。
 - **quemé en los ojos** は、「目の中に焼きつけた」＝激しい感情を刻み込んだ、という詩的表現。
-

La ardiente ceiba de mi pasión...

俺の情熱の、熱く煮えたぎる火種を。

- **ardiente** は「燃えるような」。

- **ceba** はやや難しい語ですが、ここでは「餌」「燃料」「煽るもの」から転じて、**情熱を燃え立たせる火種・燃料**のようなニュアンスで取ると自然です。
 - 全体として、**激しい恋情を女の瞳に注いだ**という意味合いです。
-

Donde en la noche tibia y serena

そこでは、ぬくもりのある静かな夜になると、

- ここは繰り返して、情景をもう一度呼び戻します。
- 歌の中で**記憶の場面**が反復される効果があります。

Su antiguo aroma vuelca el malvón,

ゼラニウムが昔ながらの香りをあたりにこぼし、

- 繰り返しのによって、街の香りがさらに印象づけられます。

Y bajo el cielo de luna llena

満月の空の下では、

Duermen las chatas del corralón...

資材置き場の荷車が眠っている。

- ここの反復で、**静かな夜の barrio** の原風景を定着させています。

全体の意味

この歌は単なる「故郷の歌」ではありません。

話し手はこう言っています。

- 俺は Tres Esquinas の人間だ
- その街は貧しくても美しい
- その街には花、香り、夜、荷車、マテ茶、ぶどう棚がある
- そこには噂話も、恋も、刃傷沙汰も、若さの無鉄砲さもある
- そしてその街こそが、**タンゴの精神そのもの**だ

つまり、

「俺はその街の出身だ」ではなく、
「俺はその街が生んだ感傷的なタンゴそのものだ」
という自己宣言の歌です。

この歌で大事な語句

arrabal

場末、下町、町はずれ。
タンゴの原点を感じさせる重要語。

piba

娘、若い女の子。
庶民的で親しみのある言い方。

compadre / compadrié

粹がる、いなせにふるまう、男伊達を見せる。
タンゴの男性像に深く関わる語。

maleva

気の強い、不良っぽい、危険な魅力のある女。
タンゴ特有の女性像。

picaflor

女たらし、色男。
文字通りは「ハチドリ」。

chimentos

うわさ話、井戸端話。
barrio の生活のざわめきを表す言葉。

La capilla blanca -44 Carlos Di Sarli con Alberto

Podestá

Composer: Carlos Di Sarli Author: Héctor Marcó
Artist: Orquesta Carlos Di Sarli con Alberto Podestá
Genre: Tango Recorded: 1944-07-11

白い礼拝堂

題名です。

capilla は「礼拝堂」「小さな教会」。

blanca は「白い」。

つまり、華やかな大聖堂ではなく、地方の静かな小さな礼拝堂を思わせます。
この題名だけで、**素朴・清純・追憶・祈り**という作品全体の空気が出ています。

En la capilla blanca

白い礼拝堂で

En は「で」「の中で」。

物語の舞台提示です。

最初に場所を示すことで、聴き手はすぐに静かな宗教的空間へ入っていきます。
単なる建物ではなく、ここは**思い出の中心**であり、後半では**喪失の象徴**にもなります。

De un pueblo provinciano,

ある地方の町の

pueblo は「村」「町」。

provinciano は「地方の」「都会ではない」。

ここでは「田舎っぽい」という軽い意味ではなく、**素朴で人間味のある土地**という響きがあります。

大都市ブエノスアイレスの洗練とは対照的な、**純朴な原風景**が示されます。

Muy junto a un arroyuelo de cristal

透きとおった小川のすぐそばで

muy junto a は「すぐそばに」「すぐ近くに」。

arroyuelo は **arroyo** (小川) に縮小辞がついた形で、「小さなせせらぎ」「かわいらしい小川」。

de cristal は直訳すれば「水晶のような」ですが、ここでは「澄みきった」「透き通る」水を表します。

情景としては非常に美しく、
礼拝堂、小川、地方の村という並びで、**宗教的な清らかさ**と**自然の純粋さ**が重ねられています。

Me hincaban a rezar, tus manos.

ぼくをひざまずかせて祈らせたのは、君の手だった。

ここは少し詩的で、普通の語順ではありません。

中心になるのは **hincar** で、「ひざまずかせる」「ひざをつかせる」。

me hincaban a rezar で「私を祈るためにひざまずかせた」。

最後の **tus manos** が主語で、倒置によって強調されています。

つまり自然な順にすると、

Tus manos me hincaban a rezar.

「君の手が、私を祈りへと導いた」。

ここでの「手」は単なる身体の一部ではなく、

導き・やさしさ・保護・愛の最初の記憶です。

宗教的な祈りと恋愛感情の芽生えが、すでに重なっています。

Tus manos que encendían

その君の手は、火を灯していた

encender は「火をつける」「燃え立たせる」。

ここでは比喩的に、「心を目覚めさせる」「感情を灯す」。

前の行の **tus manos** を受けて、手の持つ力がさらに説明されます。

つまり、祈りへ導く手であると同時に、
その手は話者の心を初めて愛や感動に目覚めさせた手でもあります。

Mi corazón de niño,
幼いぼくの心に。
corazón de niño は直訳すると「子どもの心」。
ここでは「子どもらしい無垢な心」「幼い私の心」です。
つまりこれは大人の恋ではなく、少年時代の純粋な記憶です。
この一語で作品のトーンが決まります。
情熱的というより、純潔で痛ましい回想です。

Y al pie de un Santo Cristo
そして聖なるキリスト像の足もとで
al pie de は「の足もとで」。
Santo Cristo は「聖なるキリスト像」「十字架のキリスト」。
礼拝堂の中の具体的な場面が見えてきます。
宗教的空間の中心、つまり神聖な場所で、
二人の思い出が結びついているわけです。
恋愛の記憶なのに、そこに敬虔さが混じるのがこの歌の美しさです。

Las aguas del cariño
君は愛情の水を
las aguas は「水々」「水」。
del cariño は「愛情の」「慈しみの」。
直訳すると「愛情の水」。かなり詩的な表現です。
これは実際の水というより、
やさしさ・ぬくもり・愛撫・精神的な潤いの比喻です。
宗教的には、洗礼や恵みの水を思わせる響きもあります。

Me dabas a beber.
ぼくに飲ませてくれた。
dar a beber は「飲ませる」。
前の行と合わせると、
「君はぼくに愛情の水を飲ませてくれた」。
非常に母性的でもあり、恋愛でもあります。
相手は恋人であると同時に、
話者の魂を育てた存在でもあるように描かれています。
このあたりに、単純な男女の恋を超えた救済・慈愛の感じがあります。

Feliz nos vio la luna
幸せなぼくたちを、月は見ていた。
feliz はここでは単数形ですが、詩ではこうした用法があります。意味としては「幸せな私たちを」。
nos vio la luna は「月が私たちを見た」。
月が二人を見守る、というロマンティックな表現です。
自然が二人の愛の証人になっています。
タンゴでは月はしばしば、愛・夜・追憶・悲しみの目撃者です。

Bajar por la montaña,
山を下っていくのを。
これは前行とつながっています。
「月は見ていた、私たちが山を下っていくのを」と読めます。
情景としては、山あいの村、夜、月明かりの中の二人です。
都市タンゴにはない、田園的・牧歌的な空気がここにあります。

Siguiendo a las estrellas
星を追いながら
siguiendo は「追いながら」「従いながら」。
星に導かれるように歩く二人。
宗教的にも詩的にも、星は道しるべです。
このあたりは非常に幻想的で、
現実の記憶というより、美化された幸福の記憶として響きます。

Bebiendo entre tus cabras

君の山羊たちのあいだで飲みながら

cabras は「山羊」。

ここで一気に、この相手が都市の女性ではなく、山村の自然の中に生きる娘であることが感じられます。

「山羊たちのあいだで」というのは素朴で田舎らしく、前の宗教的イメージと混ざって、独特の清純さを生んでいます。

Un ánfora de amor.

愛の壺を。

ánfora は「アンフォラ」「壺」「古風な大きな器」。

ここでは「愛の壺を飲む」という比喻で、二人が愛そのものを味わっていたことを表します。

実際の酒や水とも読めますが、本質的には

愛の豊かさをたっぷり分け合うイメージです。

聖なる水のイメージともつながっています。

Y hoy son aves oscuras

そして今日では、それは黒い鳥たちになってしまった。

ここで一気に雰囲気が変わります。

y hoy は「そして今では」。

幸福な回想から現在の喪失へ移る転換点です。

aves oscuras は「暗い鳥」「黒い鳥」。

不吉さ、死、悲しみの象徴です。

何が黒い鳥なのかは次行で明らかになります。

Estas tímidas campanas,

このかすかな鐘の音は。

campanas は「鐘」。教会の鐘です。

tímidas は本来「内気な」「控えめな」。

鐘の音に対して使うことで、

「かすかに鳴る」「遠慮がちに響く」ような繊細な感じになります。

前行と合わせると、

「この控えめな鐘の音は、今では黒い鳥のようだ」。

かつて祈りや愛に結びついていて鐘が、

いまは不吉で哀しいものとして聞こえるのです。

Que doblan a lo lejos

はるか遠くで鳴っている

doblar は鐘について使うと「鳴る」。

特に葬送や祈りのために鐘が鳴る感じを持つことがあります。

a lo lejos は「遠くで」「遠方に」。

音が遠くから聞こえることで、

時間的にも空間的にも失われたものへの距離感が強まっています。

El toque de oración.

祈りの鐘を。

toque de oración は「祈りの合図の鐘」「祈祷の鐘」。

教会で祈りの時間を知らせる音です。

しかし今の話者には、それが慰めではなく、

むしろ喪失を思い出させる音になっています。

Tu voz murió en el río

君の声は川の中で死んでしまった。

非常に美しい一行です。

murió は「死んだ」。

もちろん文字通りではなく、

「もう聞こえない」「永遠に失われた」という詩的表現です。

en el río が効いています。

川は流れ去るもの、戻らない時間、自然への回帰を連想させます。

つまりこの一行は、
君がもうこの世にいない、あるいは完全に失われたことを強く示唆します。

Y en la capilla blanca,

そして白い礼拝堂には
最初の舞台に戻ってきます。

幸福な思い出の場所が、今度は喪失の場所として現れます。
同じ場所なのに意味が変わっているのが重要です。

Quedó un lugar vacío

ひとつの空いた場所が残った。

quedó は「残った」。

lugar vacío は「空席」「空っぽの場所」。
具体的には、礼拝堂の中の席とも読めますし、
もっと象徴的には失われた存在の痕跡です。

誰かがいなくなったあとに残る空白。

この歌の中心的な悲しみが、簡潔に表れています。

Vacío como el alma

空っぽだ、魂のように

como は「...のように」。

ここでは空席と魂が重ねられています。

単なる物理的空席ではなく、

話者自身の内面も空虚になっているわけです。

De los dos...

ぼくたち二人の。

ここが痛いところです。

一人の魂ではなく、二人の魂。

つまり愛は片方だけのものではなかった。

二人でひとつだった世界が失われてしまったのです。

省略符号 ... によって、言い切れない悲しみが残ります。

全体の意味

この歌は、表面的には

地方の白い礼拝堂にまつわる恋の思い出を歌っています。

でももっと深く見ると、主題は次のように重なっています。

まず、少年時代の純粋な愛の記憶。

次に、宗教的な清らかさと恋愛感情の融合。

そして最後に、失われた相手への追悼です。

礼拝堂、小川、月、星、山羊、鐘、川、枯れた薔薇。

どれも素朴な自然や信仰のイメージですが、

それらが全部、失われた愛を包み込む舞台装置になっています。

特に大事なものはこの流れです。

最初は「祈りへ導く手」「愛情の水」。

中盤で「鐘が黒い鳥になる」「声が川で死ぬ」。

最後に「枯れた薔薇が二人のために祈る」。

つまり、

生きた愛の記憶が、死者への祈りに変わっていく歌

として読むと、とても美しいです。

[Index](#)

Paciencia -37 Juan D'Arienzo con Enrique Carbel

Composer: Juan D'Arienzo

Author: Francisco Gorrindo

Artist: Orquesta Juan D'Arienzo con Enrique Carbel

Genre: Tango Recorded: 1937-10-29

この歌は、昔愛し合った二人が再会したものの、もう過去には戻れないという、非常にタンゴらしい諦念と哀感のある作品です。
題名の **Paciencia** は「忍耐」「辛抱」「受け入れるしかない気持ち」といった意味です。

PACIENCIA

忍耐 / 受け入れるしかないこと

Anoche de nuevo, te vieron mis ojos,

昨夜また、僕の目は君を見た。

解説:

- **Anoche** は「昨夜」。
 - **de nuevo** は「再び」「また」。
 - 直訳すると「昨夜また、私の目が君を見た」ですが、日本語では「昨夜また、君を見かけた」ともできます。
 - ただしここでは、“両目が見た”という少し詩的な言い方が、再会の衝撃をやわらかく表しています。
-

Anoche de nuevo, te tuve a mi lado,

昨夜また、君を僕のそばに感じた。

解説:

- **lado** は **lado** の口語・省略形で、「そば」「隣」。
 - **te tuve a mi lado** は「君を自分のそばに持った」つまり「君が自分のそばにいた」。
 - 単に会っただけでなく、かつての親密さを一瞬取り戻したような感覚があります。
-

Pa' qué te habré visto si después de todo

結局のところ、また君と会ったりして、いったい何になったのだろう。

解説:

- **Pa' qué** は **para qué** の口語で、「何のために」「どうしてわざわざ」。
 - **te habré visto** は、ここでは後悔や自問を含む表現で、「なんでまた君を会ってしまったんだろう」という響き。
 - 再会が嬉しかったというより、かえって傷を広げたという気持ちです。
-

Somos dos extraños mirando el pasao.

僕らは、過去を見つめる二人の他人にすぎない。

解説:

- **pasao** は **pasado** の口語形で「過去」。
 - **dos extraños** は「二人の見知らぬ者」「二人の他人」。
 - かつては恋人だったのに、今ではもう他人。
 - しかもただの他人ではなく、同じ過去だけを共有している他人というのが切ないところです。
-

Ni vos sos la misma, ni yo soy el mismo,

君ももう昔の君じゃないし、僕ももう昔の僕じゃない。

解説:

- **vos** はアルゼンチン・スペイン語の「君」。
 - **la misma / el mismo** は「同じ人」「昔のままの人」。
 - ここでは、外見だけでなく、気持ちも人生も変わってしまったことを示します。
-

Los años... la vida... ¡Quién sabe lo qué!

歳月や.....人生や.....何が人をこんなふうに変えたのか、もうわからない。

解説:

- **Los años** は「歳月」。

- **la vida** は「人生」「暮らし」。
 - **¡Quién sabe lo qué!** は厳密には少し口語的・感情的な言い回しで、「何がそうさせたのか誰にもわからない」「いったい何のせいだろう」といった感じ。
 - 変化の原因を一つに定めず、**時間そのものと人生全体**に責任を預けています。
-

De una vez por todas, mejor la franqueza

もうきっぱり、率直に言ってしまったほうがいい。

解説:

- **De una vez por todas** は「きっぱりと」「これを最後にはっきりと」。
 - **la franqueza** は「率直さ」「正直さ」。
 - 感傷に流されず、**真実を言うべきだ**という決意の一行です。
-

Yo y vos no podemos, volver al ayer.

僕と君は、昨日へ——あの昔へはもう戻れない。

解説:

- **volver al ayer** は直訳すると「昨日へ戻る」。
 - ここでの **ayer** は単なる昨日ではなく、**かつての幸福だった時代**。
 - 歌全体の核心で、「会うことはできても、やり直すことはできない」と言っています。
-

Paciencia...

辛抱だ.....。

または

受け入れるしかない.....。

解説:

- この作品の中心語。
 - ただ「我慢」ではなく、**人生のどうにもならなさを静かに受け止める態度**です。
 - 強く叫ぶというより、**自分に言い聞かせる言葉**として響きます。
-

La vida es así.

人生って、こういうものなんだ。

解説:

- 非常に簡潔ですが重い言葉です。
 - 「仕方がない」で済ませるより、**現実を認める諦観**がこもっています。
-

Quisimos juntarnos

僕らはもう一度、やり直そうとした。

解説:

- **juntarnos** は「一緒になる」「結ばれる」「近づく」。
 - 単に会ったのではなく、**関係を戻そうとした意志**があったことを示します。
-

Por puro egoísmo,

それも、ただの身勝手さから。

解説:

- **puro egoísmo** は「純然たる利己心」「まったくの身勝手」。
 - 愛や運命ではなく、**寂しさを埋めたい、自分のために相手を求めただけだった、と厳しく見えています。**
-

Y el mismo egoísmo

そして、その同じ身勝手さが、

解説:

- 再会した理由も利己心なら、その再会がうまくいかない理由もまた利己心。
 - 同じ言葉を繰り返すことで、**皮肉な対称性**が生まれています。
-

Nos muestra distintos...

僕らがもう別の人間になってしまったことを見せつける.....。

解説:

- **mostrar distintos** は「違って見せる」「違うものとして示す」。

- つまり再会したことで逆に、昔と同じではない現実がはっきりしてしまったのです。
 - 時が二人を変えたのでなくもともと異質な二人であり、それぞれの身勝手さを冷静に見つめてそのことを理解した
-

¿Para qué fingir?

いまさら何を取り繕う必要がある？

解説:

- **fingir** は「偽る」「演じる」「ごまかす」。
 - 「まだ愛しているふり」「昔のままのふり」をする意味はない、ということ。
 - とても苦い一言です。
 - 別々の道を歩むべき二人だということを気づかないかないふり
-

Paciencia...

辛抱だ.....。

解説:

- 一度目よりもさらに、自分を落ち着かせるための呟きに聞こえます。
-

La vida es así.

人生は、そういうものだ。

解説:

- サビの反復によって、個人的な失恋が、人生全体の法則のように語られます。
-

Ninguno es culpable

誰が悪いわけでもない。

解説:

- ここがこの歌の成熟したところです。
 - 相手を責めないし、自分も一方的には責めない。
 - ただ、そうなってしまっただけだと言っています。
-

Si es que hay una culpa,

もし仮に罪と呼べるようなものがあつたとしても

解説:

- **Si es que** は「もし本当に～だとしても」。
 - 本当は「罪」と呼ぶべきものすらないのかもしれない、というニュアンスです。
-

Por eso la mano

だからこそ、あのとき差し出した手も、

解説:

- **la mano** は literal に「手」。
 - 再会の場で交わした握手、あるいは別れの時の手。
 - 二人の関係の最後の接触を象徴しています。
-

Que te di en silencio

黙ったまま君に差し出したその手は、

解説:

- **en silencio** は「沈黙のうちに」。
 - 言葉では説明しきれない関係。
 - 責めも未練も口にせず、ただ静かに手を差し出す。
 - ここに大人の別れ方があります。
-

No tembló al partir.

別れのときにも震えなかった。

解説:

- **al partir** は「別れるとき」「去るとき」。
 - 本当は心が揺れていても、手は震えなかった。
 - つまり、覚悟を決めて別れたのです。
 - とても抑制された、しかし強烈に切ない表現です。
-

全体の意味

この歌は、単なる「復縁できなかった恋の歌」ではありません。
核心は次の点です。

- 昔の恋人と再会した
- 一瞬、やり直せるかもしれないと思った
- しかし現実には、二人とももう変わってしまっている
- 誰が悪いわけでもない
- だから責め合わず、静かに別れる
- そして、現実の再会よりも、昔の美しい記憶を守ることを選ぶ

つまりこれは、

愛が終わったことを嘆く歌というより、終わった愛をどう品位をもって受け入れるかの歌です。

この歌で特に大事な表現

1. Paciencia

「忍耐」「辛抱」ですが、ここでは
どうにもならない人生を受け止める諦観です。

2. dos extraños mirando el pasado

「過去を見つめる二人の他人」

とても有名で、強い表現です。

昔の共有だけがあり、今はもう他人という痛みがあります。

3. No tembló al partir

「別れ際にも手は震えなかった」

涙や絶叫ではなく、静かな別れの強さを表します。

4. seguir creyendo que no hemos cambiado

「変わっていないと信じ続ける」

現実には変わった。

でも記憶の中では変わらないままでいたい。

ここにこの歌の切なさが凝縮されています。

[Index](#)

Cascabelito -55 Osvaldo Pugliese con Jorge Macie

Composer: José Bohr Author: Juan Andrés Caruso
Artist: Orquesta Osvaldo Pugliese con Jorge Maciel
Genre: Tango Recorded: 1955-09-22

Cascabelito

作曲 : José Bohr 作詞 : Juan Andrés Caruso

Cascabelito は **cascabel** (鈴) に指小辞 **-ito** がついた形で、「小さな鈴」「鈴ちゃん」「鈴の子」くらいの、親しみと愛情のこもった呼び方です。この歌では、カーニバルで出会った仮面の女性への愛称として使われています。

CASCABELITO

Entre la loca alegría

狂おしいような歓びの中で

- **entre** は「の中で」
 - **la loca alegría** は直訳すると「狂った歓び」ですが、ここでは熱狂的な喜び、浮かれた祝祭気分 のことです。
 - カーニバル特有の、現実感が薄れるほどの高揚感が出ています。
-

Volvamos a darnos cita,

もう一度、逢う約束をしよう

- **volvamos a ...** は「もう一度 しよう」「再び しよう」
 - **darse cita** は「待ち合わせする」「会う約束をする」
 - つまりここは、また会おう、もう一度あのように逢おうという誘いです。
 - 単なる再会ではなく、ロマンチックな響きがあります。
-

Misteriosa mascarita

不思議な仮面の君よ

- **misteriosa** は「神秘的な」「謎めいた」
 - **mascarita** は **máscara** (仮面) から来た愛称的表現で、「小さな仮面」から転じて仮面をつけた可愛い娘 のようなニュアンスになります。
 - カーニバルでは仮面が、素性を隠すもの であると同時に魅力 を高めるもの でもあります。
 - ここでは、相手が誰なのかははっきり分からない、だからこそ惹かれる、という感じ です。
-

De aquel loco carnaval.

あの狂おしいカーニバルの

- **aquel** は「この」より少し遠い「あの」
 - **loco carnaval** は「狂ったカーニバル」ですが、自然には熱狂のカーニバル、狂乱の祭り くらいです。
 - ここまでで一つながりになっていて、“あの熱狂のカーニバルで出会った、謎めいた仮面の君” という呼びかけになっています。
-

Dónde estás Cascabelito

どこにいるんだい、カスカベリート

- **Dónde estás** は「どこにいるの」
 - **Cascabelito** は相手への愛称です。
 - 祭りのあとに姿を消してしまった相手を探している感じが出ています。
 - 呼びかけに切なさがあり、楽しかった思い出の中の人物を追っている印象です。
-

Mascarita pizpireta,

小粋で愛らしい仮面の君

- **pizpireta** はとてもスペイン語らしい語で、「快活な」「小粋な」「おしゃれで生き生きした」「いたずらっぽく魅力的な」女性を表します。
 - 日本語一語にしにくいのですが、陽気で、小悪魔っぽく、可愛らしく、華やかな感じ です。
 - 単に美人というより、動きや雰囲気まで魅力的 という言葉です。
-

Tan bonita y tan coqueta

とてもきれいで、とてもコケティッシュで

- **tan ... y tan ...** は「こんなにも で、こんなにも 」
 - **bonita** は「かわいい」「きれいな」
 - **coqueta** は「おしゃれな」「なまめかしい」「男心をくすぐる」
 - つまり外見の美しさだけでなく、振る舞いの色っぽさ、愛嬌、異性を惹きつける感じ が入っています。
-

Con tu risa de cristal.

ガラスのように澄んだ君の笑いをたたえて

- **risa** は「笑い」「笑い声」
 - **de cristal** は「水晶のような」「ガラスのような」
 - ここでは、澄んでいて、きらきらしていて、軽やかな笑い声 を表しています。
 - **cascabel** (鈴) の音とも重なり、彼女の笑い声そのものが鈴のように響いている感じです。
-

Estribillo (リフレイン)

Cascabel, Cascabelito,

鈴よ、カスカベリートよ

- ここでは **Cascabel** と **Cascabelito** を重ねて呼びかけています。
 - 鈴の音を持つ娘、あるいは鈴のように明るく響く存在 として相手と呼んでいます。
 - 音としても軽やかで、歌の印象を決定づける部分です。
-

Ríe, ríe y no llores,

笑っておくれ、笑って、泣かないで

- **ríe** は命令形で「笑って」
 - **no llores** は「泣かないで」
 - 祭りの恋には別れや儚さがつきまといますが、話し手は悲しみに沈むより、あの明るい君のままでいてほしい と願っています。
-

Que tu risa juvenil

君の若々しい笑いが

- **juvenil** は「若い」「青春の」
 - ここでは単に年齢が若いというより、生命力にあふれた、みずみずしい笑い を指しています。
 - 彼女の魅力の核が、この“若い笑い”にあるわけです。
-

Tenga perfume de tus amores.

君の恋の香りをまもってほしい

- **tenga** は接続法で、願望や祈りの響きがあります。
 - **perfume** はそのまま「香り」
 - **tus amores** は「君の恋」「君の愛」
 - 直訳すると少し抽象的ですが、笑顔に恋の甘さがにじんでほしい君の笑いが愛の香りを放っていてほしい という非常に詩的な表現です。
 - 視覚や聴覚だけでなく、嗅覚まで使うことで、恋の感覚が豊かに描かれています。
-

Cascabel, Cascabelito

鈴よ、カスカベリートよ

- ・ リフレインの繰り返しです。
 - ・ この繰り返しによって、呼びかけの親密さと、相手への未練が深まります。
-

Ríe y no tengas cuidado,

笑って、心配しないで

- ・ **no tengas cuidado** は「気にしないで」「心配しないで」
 - ・ ここには、別れや距離があっても大丈夫だ、という優しい慰めの気持ちがあります。
 - ・ 彼女を安心させようとしている言い方です。
-

Que aunque no estoy a tu lado

たとえ僕が君のそばにいらなくても

- ・ **aunque** は「たとえ でも」
 - ・ **a tu lado** は「君のそばに」
 - ・ 実際には離れている、会えない、もしくは祭りの夜が終わってしまった。その現実がここで示されます。
 - ・ だからこそこの歌は、単なる陽気な祭り歌ではなく、思い出を抱えた恋の歌 になっています。
-

Te llevo en mi corazón.

君をこの心に抱いている

- ・ **llevar en el corazón** は「心に抱く」「胸にしまっている」という定番表現です。
 - ・ 一緒にいられなくても、
君は今も私の心の中にいる
という、タンゴらしい愛情表現です。
 - ・ とても素直で、やさしい一節です。
-

Mascarita misteriosa

謎めいた仮面の君

- ・ ここで再び **mascarita misteriosa**。
 - ・ 最初の呼びかけに戻るようでありながら、
ここではより親密さが増しています。
 - ・ 相手の正体の曖昧さが、むしろ恋を強めている印象です。
-

Por tener mi alma suspensa,

僕の魂を宙づりにしたその代わりに

- ・ **por tener** はここでは「 したことで」
 - ・ **mi alma suspensa** は直訳的には「私の魂を宙に吊るして」
 - ・ 日本語では
気もそぞろにさせる
心を落ち着かなくさせる
心を奪って宙ぶらりんにする
という感じです。
 - ・ 恋によって心が定まらず、ふわふわと浮いてしまう状態です。
-

Me ofreciste en recompensa

君はそのお返しに差し出してくれた

- ・ **ofrecer** は「差し出す」「与える」
 - ・ **en recompensa** は「償いとして」「お返しに」
 - ・ つまり、
僕をこんな気持ちにさせた代わりに、君はあるものをくれた
という流れです。
 - ・ 少し芝居があった、古いタンゴらしい言い回しです。
-

Tu boca como un clavel.

カーネーションのような君の唇を

- ・ **boca** は文脈によって「口」よりも「唇」と訳した方が自然です。

- **clavel** は「カーネーション」
- 赤くやわらかく、美しい花として、唇の比喩に使われています。
- つまり
花のように美しい口づけの唇
を差し出してくれた、という意味です。
- かなり官能的ですが、下品ではなく、古典的な詩情があります。

Estribillo (リフレイン)

Cascabel, Cascabelito,
鈴よ、カスカベリートよ

- ここでは **Cascabel** と **Cascabelito** を重ねて呼びかけています。
- 鈴の音を持つ娘、あるいは
鈴のように明るく響く存在 として相手と呼んでいます。
- 音としても軽やかで、歌の印象を決定づける部分です。

Ríe, ríe y no llores,

笑っておくれ、笑って、泣かないで

- **ríe** は命令形で「笑って」
- **no llores** は「泣かないで」
- 祭りの恋には別れや儚さがつきまといますが、
話し手は悲しみに沈むより、
あの明るい君のままでいてほしい と願っています。

Que tu risa juvenil

君の若々しい笑いが

- **juvenil** は「若い」「青春の」
- ここでは単に年齢が若いというより、
生命力にあふれた、みずみずしい笑い を指しています。
- 彼女の魅力の核が、この“若い笑い”にあるわけです。

Tenga perfume de tus amores.

君の恋の香りをまもっていてほしい

- **tenga** は接続法で、願望や祈りの響きがあります。
- **perfume** はそのまま「香り」
- **tus amores** は「君の恋」「君の愛」
- 直訳すると少し抽象的ですが、
笑顔に恋の甘さがにじんでいてほしい
君の笑いが愛の香りを放っていてほしい
という非常に詩的な表現です。
- 視覚や聴覚だけでなく、嗅覚まで使うことで、
恋の感覚が豊かに描かれています。

Cascabel, Cascabelito

鈴よ、カスカベリートよ

- リフレインの繰り返しです。
- この繰り返しによって、呼びかけの親密さと、
相手への未練が深まります。

Ríe y no tengas cuidado,

笑って、心配しないで

- **no tengas cuidado** は「気にしないで」「心配しないで」
- ここには、別れや距離があっても大丈夫だ、という
優しい慰めの気持ちがあります。
- 彼女を安心させようとしている言い方です。

Que aunque no estoy a tu lado

たとえ僕が君のそばにいなくても

- **aunque** は「たとえ ても」
- **a tu lado** は「君のそばに」
- 実際には離れている、会えない、もしくは祭りの夜が終わってしまった。
その現実がここで示されます。

- だからこそこの歌は、単なる陽気な祭り歌ではなく、**思い出を抱えた恋の歌** になっています。

Te llevo en mi corazón.

君をこの心に抱いている

- **llevar en el corazón** は「心に抱く」「胸にしまっている」という定番表現です。
 - 一緒にいられなくても、**君は今も私の心の中にいる**という、タンゴらしい愛情表現です。
 - とても素直で、やさしい一節です。
-

全体の意味と雰囲気

この歌は、カーニバルで出会った仮面の女性への恋の思い出 を歌っています。大事な要素は次の通りです。

- **カーニバル**
現実とは少し違う、熱狂と幻の空間
- **仮面**
正体が見えない神秘性、届きそうで届かない魅力
- **鈴 (cascabel)**
軽やかさ、若さ、笑い声、祝祭の響き
- **口づけ**
一瞬だけ現実になった恋
- **別れ**
でもその瞬間はすぐに祭りの音へ消えていく

つまりこれは、

明るく華やかでありながら、最後には儚さが残る歌 です。
タンゴらしい“未練”はありますが、重苦しくはなく、むしろ **きらきらした追憶** として描かれています。

特に美しい表現

この歌で特に印象的なのは、次の三つです。

1. “risa de cristal”

ガラス、水晶のような笑い。
澄んだ笑い声が聞こえてくるようです。

2. “tu boca como un clavel”

カーネーションのような唇。
古典的で華やかな恋愛詩の美しさがあります。

3. “El ruido de nuestro beso / Lo apagó tu cascabel”

口づけの音を鈴がかき消した。
これがこの歌の核心で、
恋の一瞬が祝祭の音に包まれて消える 名場面になっています。

[Index](#)

Remembranza -56 Osvaldo Pugliese con Jorge Maciel

Composer: Mario Melfi Author: Mario Battistella
Artist: Orquesta Osvaldo Pugliese con Jorge Maciel
Genre: Tango Recorded: 1956-07-04

この曲は題名どおり、失われた愛を回想する哀切なタンゴです。語り手は、去ってしまった恋人を忘れられず、部屋に残る物のひとつひとつに思い出を見えています。

Remembranza (思い出／追想)

Cómo son largas las semanas

なんと長く感じられるのだろう、あの幾週間は

- **Cómo son largas** は感嘆表現で、「なんて長いのだろう」。
- **las semanas** は「幾週間」「毎週の日々」。
- 恋人がいない時間が、実際以上に長く感じられる心情を表しています。
- 冒頭から、不在による時間感覚の歪みが出ています。

cuando no estás cerca de mí

君が私のそばにいないときは

- **cerca de mí** は「私の近くに」「そばに」。
- 前の行とつながって、「君がそばにいないと、毎週がとても長い」となります。
- 物理的な距離であると同時に、心の距離も感じさせます。

no sé qué fuerzas sobrehumanas

どんな超人的な力が

- **no sé qué** は「どんな...なのかわからない」。
- **fuerzas sobrehumanas** は直訳すると「超人間的な力」、つまり「並外れた力」。
- それほどまでに、離れて生きるのは耐え難いという大げさな言い方です。
- タンゴらしい、やや芝居がかった感情表現です。

me dan valor lejos de ti.

君から遠く離れていても、私に生きる力を与えているのかわからない。

- **dar valor** は「勇気を与える」。
- **lejos de ti** は「君から遠く離れて」。
- 「こんなに辛いのに、どうして自分はまだ耐えていられるのだろう」という意味。
- 愛する人から離れてなお生きている自分への、半ば驚きでもあります。

Muerta la luz de mi esperanza

私の希望の灯が消えてしまった今

- **Muerta** は「死んだ」「消えた」。
- **la luz de mi esperanza** は「私の希望の光」。
- 希望を光にたとえるのは、スペイン語詩でよくある表現です。
- 恋の望みが絶たれたことを、光の死として語っています。

soy como un náufrago en el mar,

私はまるで海の漂流者のようだ。

- **náufrago** は「難破者」「漂流者」。
- 愛を失った自分を、海であてもなくさまよう人になぞらえています。
- タンゴではよく、人生や愛を海・漂流・沈没のイメージで語ります。

sé que me pierdo en lontananza

私は遠い彼方へ迷い込んでいくのだとわかっている、

- **lontananza** は詩語的で、「遠方」「遠い彼方」。
- **me pierdo** は「私は見失われる」「消えていく」「迷い込んでいく」
- 自分の人生が、愛を失ったまま遠くへ流されていく感じです。
- 響きの美しい言葉で、古い歌詞らしい気品があります。

mas no me puedo resignar.

それでも私はあきらめることができない。

- **mas** は古風な「しかし」。現代語なら **pero** に近いです。
- **resignarse** は「あきらめる」「受け入れてしまう」。
- 絶望していてもなお、完全には恋を手放せない。
- この一行で、未練の深さがはっきり出ます。

¡Ah

ああ、

- 嘆きのため息。
- このあとに続く回想の感情を導く、非常にタンゴ的な間です。

¡qué triste es recordar

思い出すことの、なんと悲しいことか、

- **qué triste es** は「なんと悲しいことか」。
- **recordar** は「思い出す」。
- 思い出は普通、美しいものでもあります、ここでは苦しみそのもの。
- 回想が慰めではなく、傷を広げる行為になっています。

después de tanto amar,

これほどまでに愛したあとでは、

- **tanto amar** は「これほど深く愛すること」。
- 強く愛したからこそ、失った後の痛みも大きい。
- 過去の愛の大きさが、現在の悲しさの理由になっています。

esa dicha que pasó...

過ぎ去ってしまったあの幸福を.....

- **dicha** は「幸福」「至福」。
- **que pasó** は「過ぎ去った」。
- ただの恋ではなく、かつて確かに幸福だった時間が今は消えている。
- 三点リーダーが、言い尽くせない余韻を生んでいます。

Flor de una ilusión

幻想の花、

- **flor** はここでは比喻で、「儂く咲いた美しいもの」。
- **ilusión** は「夢」「幻想」「淡い希望」。
- 二人の愛は一輪の花のように美しく、しかし壊れやすいものだったと示します。

nuestra pasión se marchitó.

私たちの情熱はしおれてしまった。

- **marchitarse** は花が「しおれる」「枯れる」。
- 前の **Flor** の比喻を受けて、愛を花として描いています。
- 激しい情熱も、時間や別離によって枯れてしまった。
- とても視覚的で、タンゴらしい哀美があります。

¡Ah

ああ、

- 再び嘆き。
- ここからは回想だけでなく、相手への呼びかけになります。

¡olvida mi desdén,

私の冷たさを忘れてくれ、

- **olvida** は命令形「忘れてくれ」。
- **desdén** は「軽蔑」「冷淡さ」「つれなさ」。
- 語り手は、かつて自分が相手に対して冷たくした、あるいは素直になれなかったことを悔いています。
- ここで、別れの原因が自分にもあったことがにじみます。

retorna dulce bien,

戻ってきておくれ、いとしい人よ、

- **retorna** は「帰ってきて」。
- **dulce bien** は古風な愛称で、「やさしい私の宝」「いとしい人」。
- 非常に古典的で甘い呼び方です。
- ここはタンゴ・カンシオン特有のロマンティックな語り。

a nuestro amor,

私たちの愛のもとへ、

- 直訳すると「私たちの愛へ」。
- 二人の間にまだ戻る場所がある、と信じている言い方です。
- 愛が場所のように扱われています。

y volverá a florecer

そうすれば再び花開くだろう、

- **volverá a florecer** は「もう一度咲くだろう」。
- ここでも花の比喻が続きます。
- 一度しおれた愛も、戻れば再生すると願っているのです。

nuestro querer

私たちの愛情は

- **querer** は「愛情」「愛する気持ち」。

- **amor** より少しやわらかく、親密で日常的な愛の響きがあります。
- 前行と合わせて、「私たちの愛がまた咲く」となります。

como aquella flor.

あの花のように。

- **aquella flor** は「あの花」。
- 具体的には、後半に出てくるしおれたアジサイも連想させます。
- かつて咲いていた愛の象徴としての花。
- 失われたものが再び咲くことへの願いで、この節は終わります。

¡Ah

ああ、

- 再び嘆き。
- ここからは回想だけでなく、相手への呼びかけになります。

¡olvida mi desdén,

私の冷たさを忘れてくれ、

- **olvida** は命令形「忘れてくれ」。
- **desdén** は「軽蔑」「冷淡さ」「つれなさ」。
- 語り手は、かつて自分が相手に対して冷たくした、あるいは素直になれなかったことを悔いています。
- ここで、別れの原因が自分にもあったことがにじみます。

retorna dulce bien,

戻ってきておくれ、いとしい人よ、

- **retorna** は「帰ってきて」。
- **dulce bien** は古風な愛称で、「やさしい私の宝」「いとしい人」。
- 非常に古典的で甘い呼び方です。
- ここはタンゴ・カンシオン特有のロマンティックな語り。

a nuestro amor,

私たちの愛のもとへ、

- 直訳すると「私たちの愛へ」。
- 二人の間にまだ戻る場所がある、と信じている言い方です。
- 愛が場所のように扱われています。

y volverá a florecer

そうすれば再び花開くだろう、

- **volverá a florecer** は「もう一度咲くだろう」。
- ここでも花の比喻が続きます。
- 一度しおれた愛も、戻れば再生すると願っているのです。

nuestro querer

私たちの愛情は

- **querer** は「愛情」「愛する気持ち」。
- **amor** より少しやわらかく、親密で日常的な愛の響きがあります。
- 前行と合わせて、「私たちの愛がまた咲く」となります。

como aquella flor.

あの花のように。

- **aquella flor** は「あの花」。
- 具体的には、後半に出てくるしおれたアジサイも連想させます。
- かつて咲いていた愛の象徴としての花。
- 失われたものが再び咲くことへの願いで、この節は終わります。

全体のポイント

この歌詞の中心にあるのは、次の3つです。

1. 不在の苦しみ

恋人がいない時間は異様に長く、語り手は漂流者のように感じています。

2. 花の比喻

愛、情熱、希望はすべて「花」にたとえられます。

咲く → しおれる → 再び咲いてほしい、という流れが全体を貫いています。

3. 部屋に残る記憶

写真、飾り、花。

恋人が去ったあとも部屋はそのまま、そこにいるはずのない相手が、あらゆる物の中に
見えてしまう。

この感覚が、とてもタンゴらしいです。

[Index](#)

Fuimos -46 Osvaldo Pugliese con Roberto Chanel

Composer: José Dames Author: Homero Manzi
Artist : Orquesta Osvaldo Pugliese con Roberto Chanel
Genre : Tango Recorded : 1946-03-28

FUIMOS

作曲 : José Dames / 作詞 : Homero Manzi
歌 : Osvaldo Pugliese con Roberto Chanel
録音 : 1946 年 3 月 28 日

タイトル “**Fuimos**” は、スペイン語で 「私たちは だった」。
つまり、今はもう終わってしまった二人の関係を、過去形で振り返る題名です。
この歌は「別れの歌」ですが、単に冷めた別れではなく、**相手**を愛しているから、自分から**離れさせようとする悲痛な別れ**です。

Fui como una lluvia de cenizas y fatigas

私は、灰と疲れの雨のよう（暗いものを降らせる存在）だった。

解説：

「灰」は燃え尽きたもの、「疲れ」は生きる力の消耗を表します。
自分は相手の人生に潤いを与える雨ではなく、**灰のような暗いものを降らせる存在**だったと言っています。

en las horas resignadas de tu vida...

君の人生の、あきらめに満ちた時間の中で。

解説：

“resignadas” は「諦めた」「受け入れてしまった」という意味。
相手はすでに苦しみや孤独を抱えて生きていた。その人生の中に、自分はさらに重く降りかかってしまった、という自責です。

Gota de vinagre derramada,

こぼされた一滴の酢のよう（痛みをさらにしみさせるもの）だった。

解説：

酢は傷にしめるもの。
ここでは、自分の存在が相手にとって慰めではなく、**痛みをさらにしみさせるもの**だったという比喻です。

fatalmente derramada, sobre todas tus heridas.

運命のようにこぼれて、君のすべての傷の上に落ちた。

解説：

“fatalmente” は「宿命的に」「避けられない形で」。
相手にはすでに傷があった。その傷の上に、自分がさらに痛みを与えてしまった。
愛していたのに、結果として相手を苦しめたという告白です。

Fuiste por mi culpa golondrina entre la nieve

君は私のせいで、雪の中のツバメになって（寒さと孤独の中におかれて）しまった。

解説：

ツバメは春や希望の象徴です。
でも雪の中にいるツバメは、本来いるべき場所を失った存在。
相手は本来なら明るく飛べる人だったのに、自分のせいで寒さと孤独の中に置かれてしまった、という意味です。

rosa marchitada por la nube que no llueve.

雨を降らせない雲に枯らされたバラ（愛の形をしていたのに、救いになれなかった愛）だった。

解説：

バラは愛、美しさ、命。
雲は水を与えるはずなのに、雨を降らせない。

つまり、自分は相手愛しているようであり、実際には相手を潤すことができなかった。
愛の形をしていたのに、救いになれなかった愛です。

Fuimos la esperanza que no llega, que no alcanza

私たちは、届かない希望、たどり着けない希望だった。

解説：

二人には希望があった。
でもその希望は現実にならなかった。
“no llega” は「到着しない」、 “no alcanza” は「届かない」「足りない」。
二人の愛は、幸福になるには力が足りなかったのです。

que no puede vislumbrar su tarde mansa.

穏やかな夕暮れを見通すこともできない希望だった。

解説：

“tarde mansa” は「静かな午後・穏やかな晩年」のようなイメージ。
愛の先にある安らぎ、落ち着いた未来を指します。
二人の関係には、その平穏な未来が見えなかった。

Fuimos el viajero que no implora, que no reza,

私たちは、すがること、祈ることもしない旅人だった。

解説：

“viajero” は旅人。人生を歩く人間の比喩です。
“implora” は「懇願する」、 “reza” は「祈る」。
つまり、助けを求めることさえできないほど、もう諦めきっている状態です。

que no llora, que se echó a morir.

泣くこともなく、ただ死ぬように身を投げ出した旅人だった。

解説：

非常に暗い表現です。
泣く力も、願う力も残っていない。
二人の愛は、争って終わったというより、力尽きて倒れたように終わっていくのです。

¡Vete...!

行ってくれ.....！

解説：

“Vete” は「行け」「去れ」。
しかし冷たい命令ではありません。
本心では引き止めたい。でも相手を守るために、無理に突き放している言葉です。

¿No comprendes que te estás matando?

君は自分を殺しているんだ、わからないのか？

解説：

このまま自分のそばにいたら、相手は壊れてしまう。
愛し続けることが、相手にとって自滅になると感じています。

¿No comprendes que te estoy llamando?

私が君に呼びかけているのが、わからないのか？

解説：

ここは少し複雑です。
「去れ」と言いながら「呼んでいる」。
つまり、表面では離れろと言っているけれど、心の奥ではまだ相手を求めている。
この矛盾がこの歌の苦しさです。

¡Vete...!

行ってくれ.....！

解説：

繰り返しによって、自分に言い聞かせているようにも聞こえます。
本当は言いたくない。けれど言わなければならない。

No me beses que te estoy llorando

私に口づけしないでくれ、私は君のことで泣いているのだから。

解説：

相手がキスをすれば、別れの決意が崩れてしまう。

“te estoy llorando” は直訳すると「君を泣いている」。

つまり「君のために泣いている」「君を失うことを泣いている」という表現です。

¡Y quisiera no llorarte más!

そして、もう君のために泣きたくないのだ！

解説：

愛しているから泣く。

でも泣き続けることにも疲れている。

ここには、愛の終わりだけでなく、**苦しみから解放されたい**願いもあります。

¿No ves?,

わからないのか？

解説：

相手に理解してほしい、という叫びです。

ただ別れたいのではなく、「この別れが必要なのだ」と伝えようとしています。

es mejor que mi dolor

私の苦しみは、そのまま

解説：

ここから「私の苦しみは私のものとして残した方がいい」という流れになります。

相手を巻き込みたくないのです。

quede tirado con tu amor

君の愛とともに、投げ捨てられて残るほうがいい。

解説：

“quede tirado” は「放り出されたまま残る」。

自分の痛みと相手の愛を、もう回収しようとしなない。

過去のものとして置き去りにしようとしている感じです。

librado de mi amor final

私の最後の愛から解き放たれて。

解説：

“mi amor final” は「私の最後の愛」。

美しい言葉ですが、ここでは重い愛です。

自分の愛が相手を縛るなら、そこから解放してやりたい、という意味になります。

¡Vete!,

行ってくれ！

解説：

また繰り返されます。

この言葉は相手への命令であると同時に、**自分自身への命令**でもあります。

¿No comprendes que te estoy salvando?

君を救おうとしているのが、わからないのか？

解説：

ここで核心が出ます。

別れは拒絶ではなく、救済。

「私のそばにいてはいけない。君を守るために、私は君を追い出す」という悲しい愛です。

¿No comprendes que te estoy amando?

君を愛しているからだ、と、わからないのか？

解説：

この一行がこの歌の中心です。

「去れ」と言う理由は、愛がないからではない。
むしろ愛しているからこそ去らせる。
タンゴらしい、矛盾した愛の表現です。

¡No me sigas, ni me llames, ni me beses

私について来ないでくれ、呼ばないでくれ、口づけしないでくれ。

解説：

相手からの接触をすべて拒もうとしています。
ついて来られたら、呼ばれたら、キスされたら、自分はまた戻ってしまう。
だから強く拒むのです。

ni me llores, ni me quieras más!

私のために泣かないでくれ、もう私を愛さないでくれ！

解説：

最も残酷で、最も優しい言葉です。
「愛するな」と言うのは、相手を自由にするため。
しかし本心では、愛されなくなることが何よりもつらい。
ここに、この曲の悲劇があります。

es mejor que mi dolor

私の苦しみは、そのまま

解説：

ここから「私の苦しみは私のものとして残した方がいい」という流れになります。
相手を巻き込みたくないのです。

quede tirado con tu amor

君の愛とともに、投げ捨てられて残るほうがいい。

解説：

“quede tirado” は「放り出されたまま残る」。
自分の痛みと相手の愛を、もう回収しようとしなない。
過去のものとして置き去りにしようとしている感じです。

librado de mi amor final

私の最後の愛から解き放たれて。

解説：

“mi amor final” は「私の最後の愛」。
美しい言葉ですが、ここでは重い愛です。
自分の愛が相手を縛るなら、そこから解放してやりたい、という意味になります。

¡Vete!,

行ってくれ！

解説：

また繰り返されます。
この言葉は相手への命令であると同時に、自分自身への命令でもあります。

¿No comprendes que te estoy salvando?

君を救おうとしているのが、わからないのか？

解説：

ここで核心が出ます。
別れは拒絶ではなく、救済。
「私のそばにいてはいけない。君を守るために、私は君を追い出す」という悲しい愛です。

¿No comprendes que te estoy amando?

君を愛しているからだと、わからないのか？

解説：

この一行がこの歌の中心です。
「去れ」と言う理由は、愛がないからではない。

むしろ愛しているからこそ去らせる。
タンゴらしい、矛盾した愛の表現です。

¡No me sigas, ni me llames, ni me beses

私について来ないでくれ、呼ばないでくれ、口づけしないでくれ。

解説：

相手からの接触をすべて拒もうとしています。
ついて来られたら、呼ばれたら、キスされたら、自分はまた戻ってしまう。
だから強く拒むのです。

ni me llores, ni me quieras más!

私のために泣かないでくれ、もう私を愛さないでくれ！

解説：

最も残酷で、最も優しい言葉です。
「愛するな」と言うのは、相手を自由にするため。
しかし本心では、愛されなくなることが何よりもつらい。
ここに、この曲の悲劇があります。

全体のまとめ

この歌の主人公は、相手を嫌いになったわけではありません。
むしろ、まだ深く愛しています。

でも、自分の愛が相手を傷つけていると感じている。

だから、

「行ってくれ」

「私を愛さないでくれ」

「それが君を救うことなんだ」

と叫びます。

この曲の悲しさは、別れの理由が「愛がなくなったから」ではなく、
愛しているから別れなければならないところにあります。

“Fuimos”という過去形の題名も重いです。

二人は「愛している」ではなく、もうすでに **“fuimos”** — かつてそうだった 存在になっ
てしまった。

希望も、未来も、救いも、すべて過去形になっているのです。

[Index](#)

Oigo tu voz -43 Ricardo Tanturi con Enrique Campos

Música: Mario Canaro

Letra: Francisco García Jiménez

Orquesta Ricardo Tanturi con Enrique Campos

Recorded: 1943-11-17

この歌詞は、忘れられない相手の声がふと蘇り、失った愛や希望が胸の中によみがえる、とても感傷的なタンゴです。

Oigo tu voz

「君の声が聞こえる」

題名そのものが、この作品の核心です。

実際に相手がそこにいるのか、それとも記憶や幻なのか曖昧なまま、「声」が主人公の心を揺さぶります。視覚ではなく声であるところに、より親密で内面的な記憶の強さが出ています。

Miedo de morir,

「死ぬことへの恐れ、」

ここでは文字どおりの死の恐怖もありますが、同時に、希望を失って生きる意味をなくすことへの恐れとも読めます。歌い出しから強い不安が置かれています。

ansia de vivir,

「生きたいという切なる思い、」

前行と対になっています。

「死への恐れ」と「生への渴望」が同時に存在していて、主人公の心が激しく揺れていることを示します。

絶望しながらも、まだ生きる力を求めている状態です。

¿sueño o realidad?...

「夢なのか、それとも現実なのか...?」

自分に起きている感情や気配が、現実なのか幻想なのかわからない。

失った恋人の気配を感じているのか、ただ心がそう思い込んでいるのか、その境目が曖昧です。

この作品全体に漂う幻影的な雰囲気をよく表しています。

Algo quiere ser

「何かが生まれようとしている」

はっきり名前はつけられないけれど、心の中で何かが動き出している。

消えていた感情、希望、記憶、愛情などが再び形になろうとしている感じです。

とても詩的で、直接言い切らない美しさがあります。

un amanecer

「ひとつの夜明けとして」

“amanecer” は夜明け、夜の終わりと新しい始まり。

つまり主人公の孤独の中に、再生の気配が差し込んでくるのです。

暗闇から光へ、という象徴がここで現れます。

en mi soledad...

「私の孤独の中に...」

その夜明けが訪れる場所は、にぎやかな世界ではなく「私の孤独」の中です。

つまり主人公はずっとひとりで、愛を失ったまま生きてきた。

その内面世界に、突然変化が起きようとしているのです。

Canto que olvidé,

「忘れていた歌、」

昔の幸福な時代を思い出させる歌、あるいは心の中の歌。

かつては自然に口ずさんでいた喜びや感情を、もう忘れてしまっていたのでしょうか。

ここでは失われた感情の記憶がよみがえっています。

sitios que dejé,

「置き去りにしてきた場所々、」

過去に去った場所、二人の思い出の場所、もう戻れない世界。
“dejé”には「後にした」「捨ててきた」という響きがあります。
単なる地名ではなく、人生の一部としての場所です。

dicha que perdí...

「失ってしまった幸せ...」

“dicha”は深い幸福、恵まれた喜び。

主人公は明確に、自分が幸福を失ったことを認めています。
ここまでの流れで、歌・場所・幸福という、過去の大切なものの総体が並べられています。

¡Hoy en la emoción

「今日、この胸の高まりの中で」

“Hoy”が重要です。

過去の回想ではなく、まさに今この瞬間、感情が湧き上がっている。
何かが主人公の心を動かしている現在進行形の場面です。

de mi corazón

「私の心の中で」

理性ではなく心そのものが揺さぶられている。

“corazón”はタンゴで非常に重要な言葉で、愛、痛み、情熱の中心です。

todo vuelve a mí!

「すべてが私のもとに戻ってくる！」

忘れていた歌も、去った場所も、失った幸せも、全部が心の中によみがえる。
実際に戻ってきたのではなく、記憶と感情が一気に蘇ったのです。
この最初の段落のクライマックスです。

Oigo tu voz

「君の声が聞こえる」

ここで題名が繰り返されます。

それは単なる聴覚情報ではなく、主人公の全記憶を呼び起こす合図です。

¡la que mi oído no olvida!

「私の耳が決して忘れない、その声が！」

耳は忘れない、という表現が美しいです。

頭で忘れようとしても、身体が覚えている。
恋人の声の記憶が、それほど深く主人公に刻み込まれているのです。

Me trae tu voz

「君の声は私に運んでくる」

その声が、ただ聞こえるだけではなく、何かを連れてくる。

声が感情や光景を呼び戻す媒介になっています。

hasta mi pena escondida

「私の隠された悲しみのところまで」

“pena escondida”は隠された悲しみ、胸の奥にしまい込まれた苦しみ。

普段は見ないようにしていた痛みの場所まで、その声が届いてしまう。
とても繊細で切ない表現です。

la luz y la vida

「光と命を」

声が運んでくるものは、ただ悲しみではなく、

そこへ光と生気をもたらすものでもあります。
つまりその相手は、主人公にとって苦しみの原因であると同時に、救いでもあるのです。

de un rayo de sol...

「一筋の陽光のような」

“rayo de sol” は暗い場所に差し込む一条の光。
絶望の中に、ほんの一瞬でも生を感じさせるものです。
恋人の声が、それほど鮮烈な救いとして感じられているわけです。

Vuelvo a escuchar

「私は再び聞く」

“vuelvo a” で「再び する」。

過去のある時期に何度も聞いていたものを、もう一度聞く感覚です。
記憶の反復でもあり、再会の予感でもあります。

el nombre mío en tu acento,

「君の口調の中で、自分の名を」

相手が自分の名前を呼ぶ、その声色やアクセントまで思い出している。
ただ「名前」ではなく、“tu acento” なのが重要で、
その人らしい言い方そのものが忘れられないのです。

sin descifrar

「見極めることもできずに」

主人公は、それが本当に相手の言葉なのかどうか判断できません。
現実か幻か、まだ確信が持てない状態です。

si es la palabra que siento

「それが私の感じているその言葉なのか」

自分が心で感じている言葉なのか、実際に相手が言った言葉なのか。
外から聞こえる声と、自分の内面の願いが重なってしまっています。

mentira del viento,

「風のつくる偽りなのか、」

風が声を運んできたように思える、でもそれは幻かもしれない。
自然現象を使って幻聴や思い込みを詩的に表しています。

delirio, no más...

「ただの妄想にすぎないのか...」

“delirio” は妄想、錯乱、熱に浮かされたような幻覚。
主人公は、自分が希望を抱きたいために幻を聞いているだけかもしれない、と疑っています。
このあたりが非常にタンゴらしい、理性と感情のせめぎ合いです。

Oigo tu voz

「君の声が聞こえる」

再度の反復です。
その声への執着、忘れられなさ、そして抗いがたさが強調されます。

¡la que mi oído no olvida!

「私の耳が忘れない、その声が！」

繰り返しのによって、記憶の消えなさがさらに深まります。
耳に残る声は、愛の傷跡でもあります。

Me trae tu voz

「君の声は私に運んでくる」

ここでも、声が過去の世界の扉を開くものとして描かれています。

hasta mi pena escondida

「私の隠された悲しみの奥まで」

悲しみは消えたのではなく、隠れていただけ。
そしてその声は、そこへまっすぐ届いてしまうのです。

la luz y la vida

「光と命を」

傷に触れるだけでなく、そこに再び生きる感覚を与える。
この相反する感じがとても美しいです。

de un rayo de sol...

「一筋の太陽の光のような...」

ほんの短い、でも決定的な明るさ。
絶望の中の微かな希望を象徴しています。

この歌詞は、

失った愛の相手の「声」がよみがえり、忘れていた幸福や痛みが一気に胸に戻ってくる歌です。

特に重要なのは次の流れです。

- 最初は、死への不安と生への渴望が交錯する
- 孤独の中に夜明けのような気配が差し込む
- 相手の声が、隠していた悲しみを呼び覚ます
- それが現実なのか幻なのかわからない
- もし本当に相手が来たなら救われるかもしれない
- だが、確かめるのが怖くて扉を開けられない

つまりこれは、

「再会の希望」と「再び傷つく恐怖」のあいだで震える心を描いたタンゴです。

[Index](#)

Al compás del corazón (Late un corazón) -42 Miguel Caló con Raúl Berón

Composer: Domingo Serafin Federico Author: Homero Aldo Expósito

Artist : Orquesta Miguel Caló con Raúl Berón

Genre : Tango Recorded : 1942-04-29

AL COMPÁS DEL CORAZÓN

この曲は、別名 “**Late un corazón**” と呼ばれます。直訳すると「心臓が鼓動する」ですが、ここでは単なる心拍ではなく、**再会を信じて高鳴る心、別れを越えてなお愛を刻むリズム**として使われています。

AL COMPÁS DEL CORAZÓN

心の鼓動に合わせて

Late un corazón...

ひとつの心が鼓動している.....

解説：

late は動詞 *latir*「鼓動する」の三人称単数です。

「心臓が鳴っている」という意味ですが、ここでは主人公の心が、愛する人の帰還を予感して高鳴っている感じです。

冒頭から、音楽のリズムと心臓の鼓動が重ねられています。

Déjalo latir...

そのまま鼓動させておくれ.....

解説：

déjalo は「それを させておいて」という命令形です。

「この胸の高鳴りを止めないでくれ」という意味です。

現実には別れや苦しみがあっても、心だけはまだ愛を信じて動いている、というニュアンスです。

Miente mi soñar...

僕の夢は嘘をついている.....

解説：

mentir は「嘘をつく」。

mi soñar は直訳すると「私の夢見ること」。

つまり「僕の夢は現実ではないかもしれない」という意味です。

相手が戻ってくると信じたいけれど、それはただの幻想かもしれない、という切なさがあります。

Déjame mentir...

それでも、僕に嘘をつかせておくれ.....

解説：

ここでの「嘘」は、悪意のある嘘ではなく、自分自身に言い聞かせる希望です。

「彼女は戻ってくる」と信じるのが、たとえ幻想でも、生きる支えになっているのです。

タンゴらしい、現実と夢の間で揺れる表現です。

Late un corazón porque he de verte nuevamente

心が鼓動している、なぜなら君にまた会えるはずだから

解説：

he de verte は「君に会うことになるだろう」「君に会わずにはいられない」という感じです。

単なる未来形よりも、運命や確信のような響きがあります。

主人公は、再会を信じて心を高鳴らせています。

Miente mi soñar porque regresas lentamente.

僕の夢は嘘をついている、君がゆっくり戻ってくるのだと

解説：

regresas lentamente は「君はゆっくり戻ってくる」。

しかし前の行で「夢は嘘をつく」と言っているのが、これは現実ではなく、主人公の願望

かもしれません。
彼の心の中では、去った恋人が少しずつ戻ってくる姿が見えているのです。

Late un corazón...

心が鼓動している.....

解説：

冒頭の反復です。
同じ言葉が繰り返されることで、実際の心拍のようなリズムを作っています。
曲名の「compás＝拍子、リズム」と強く結びつく部分です。

Me parece verte regresar con el adiós.

別れの言葉を抱えたまま、君が戻ってくるように見える

解説：

me parece verte regresar は「君が戻ってくるように見える」。
con el adiós は直訳すると「さよならとともに」。
ここが非常にタンゴ的です。再会なのに、そこにはまだ「別れ」がまわりついていま
す。
つまり、完全な幸福ではなく、過去の別れの痛みを抱えた再会なのです。

Y al volver, gritarás tu horror

そして戻ってきた時、君は自分の恐れを叫ぶだろう

解説：

al volver は「戻る時に」。
gritarás tu horror は「君の恐怖、恐ろしさを叫ぶだろう」。
ここでの *horror* は、怪奇的な恐怖というより、過去の苦しみ、愛に傷ついた恐れ、再び
愛することへの怖さです。

El ayer... el dolor... la nostalgia...

昨日のこと.....痛み.....郷愁.....

解説：

ayer は「昨日」ですが、ここでは「過去」。
dolor は「痛み」。
nostalgia は「懐かしさ、郷愁、失われたものへの切なさ」。
単語を断片的に並べることで、感情が一気に噴き出している感じになります。

Pero al fin bajarás la voz

けれど最後には、君は声を落とすだろう

解説：

bajar la voz は「声を低くする、声を落とす」。
最初は叫ぶほど感情が高ぶっていても、やがて落ち着き、静かな告白や和解の雰囲気にな
っていきます。
激しい感情から、親密な沈黙へ向かう流れです。

Y atarás tu ansiedad de distancias.

そして君は、遠く離れていた不安を結びとめるだろう

解説：

atar は「縛る、結ぶ」。
ansiedad de distancias は直訳すると「距離の不安」。
離れていた時間や距離が生んだ不安を、再会によってつなぎ止める、という詩的な表現で
す。
「もう遠くへ行かないように、その不安を縛る」という感じもあります。

Y sabrás por qué, late un corazón

そして君は知るだろう、なぜ心が鼓動しているのかを

解説：

ここで初めて、相手も主人公の心の高鳴りの意味を理解します。
それは単なる未練ではなく、再会と愛への希望だったのです。

Al decir... ¡Qué feliz!...

そう言いながら.....なんて幸せなんだ.....！

解説：

¡Qué feliz! は「なんて幸せなんだ！」。

主語は省略されていますが、「僕は」「私たちは」「君は」など、幸福感全体を表しています。
長い苦しみの後に出てくる、ほとんどため息のような喜びです。

Y un compás, y un compás de amor

そしてひとつの拍子が、愛の拍子が

解説：

compás は「拍子、リズム」。

ここではタンゴの音楽的な拍子と、心臓の鼓動が一体になっています。

「愛の拍子」とは、二人の心が同じリズムで動き始めることです。

Unirá para siempre el adiós.

その別れを、永遠に結び合わせるだろう

解説：

直訳すると「そのさよならを永遠に結びつけるだろう」。

少し不思議な表現です。普通なら「愛が二人を結ぶ」と言いそうですが、ここでは **別れ**

そのものを結び直す のです。

つまり、過去の別れが消えるのではなく、愛の一部として二人の中に取り込まれる。

別れさえも、二人を永遠につなぐ記憶になる、という美しい表現です。

全体の解釈

この歌は、別れた相手が戻ってくることを信じる男の歌です。

ただし、完全に現実的な再会というよりも、**夢、予感、願望、自己暗示**が混ざっています。

冒頭で、

Miente mi soñar...

Déjame mentir...

とあるように、主人公自身も「これは夢かもしれない」「嘘かもしれない」とわかっています。

それでも、その夢を捨てられない。なぜなら心がまだ鼓動しているからです。

この曲の中心にあるのは、

心が動いている限り、愛はまだ終わっていない

という感覚です。

「adiós=別れ」が出てきますが、この歌では別れは完全な終わりではありません。

むしろ、別れの痛みを通して、もう一度二人が結ばれる可能性が歌われています。

重要語句

スペイン語	意味	解説
late	鼓動する	<i>latir</i> の三人称単数。心が鳴る
corazón	心、心臓	感情と生命の象徴
soñar	夢見ること	名詞的に使われている
mentir	嘘をつく	ここでは自分を支える幻想
compás	拍子、リズム	タンゴのリズムと心拍の二重意味
regreso	帰還、戻ること	愛する人が戻ってくること
reproches	責め言葉、恨み言	再会時の感情のもつれ
besos	口づけ	和解と愛情の象徴
adiós	さよなら、別れ	終わりではなく、愛に結び直されるもの

日本語で自然にまとめると

心が鳴っている。

君が戻ってくると信じているから。

それが夢でも、嘘でもいい。

僕にはその嘘が必要なんだ。

君は戻ってきて、過去の痛みや寂しさを叫ぶだろう。

でもやがて声を落とし、僕の心がなぜ鼓動していたのかを知る。

そして愛のリズムが、別れさえも永遠に結び直してくれる。

[Index](#)

Jamás retornarás -42 Miguel Caló con Raúl Berón

Composer: Miguel Caló; Osmar Maderna (Osmar Héctor Maderna)
Author: Miguel Caló; Osmar Maderna (Osmar Héctor Maderna)
Artist : Orquesta Miguel Caló con Raúl Berón
Genre : Tango Recorded : 1942-10-09
JAMÁS RETORNARÁS

この曲は、去っていった女性を待ち続ける男性の絶望を歌っています。タイトル
“**Jamás retornarás**” は「君は決して戻らない」という意味です。

JAMÁS RETORNARÁS

君は決して戻らない

Cuando dijo: “adiós”, quise llorar.

彼女が「さようなら」と言った時、僕は泣きたくなった。

解説：

主語は女性です。別れの言葉を聞いた瞬間、男は感情をこらえきれなくなります。
quise llorar は「泣きたいと思った」「泣きたくなった」。

Luego sin su amor quise gritar.

それから、彼女の愛を失って、僕は叫びたくなった。

解説：

su amor は「彼女の愛」。
愛を失った悲しみが、泣くことからさらに激しい「叫び」へ変わっています。

Todos los ensueños que albergó mi corazón

僕の心が抱いていたすべての夢は、

解説：

ensueños は「夢」「憧れ」「甘い幻想」。
albergó mi corazón は「僕の心が宿していた／抱いていた」。
ここでは、彼女との未来への希望を指しています。

Toda mi ilusión, cayeron a pedazos.

僕のすべての希望は、粉々に崩れ落ちた。

解説：

cayeron a pedazos は「ばらばらに壊れた」「粉々になった」。
文法的には *Todos los ensueños* と *Toda mi ilusión* をまとめて受けているので、動詞が複数形になっています。
恋の夢が一瞬で壊れたイメージです。

“Pronto volveré”, dijo al partir.

「すぐに戻るわ」と、彼女は去る時に言った。

解説：

Pronto volveré は「私はすぐ戻ります」。
女性は別れ際に、完全な別れではないような言葉を残します。

Loco la esperé, ¡Pobre de mí!

僕は狂おしいほど彼女を待った。ああ、哀れな僕よ！

解説：

Loco la esperé は直訳すると「狂ったように彼女を待った」。
¡Pobre de mí! は「なんて哀れな自分だ」「かわいそうな僕」。
自嘲と悲しみが混じっています。

Y hoy que tanto tiempo ha transcurrido sin volver

そして今日、彼女が戻らぬまま長い時間が過ぎて、

解説：

tanto tiempo ha transcurrido は「多くの時間が過ぎた」。

sin volver は「戻ることなく」。
待ち続けた時間の長さが強調されています。

Siento que he perdido su querer.

僕は、彼女の愛を失ってしまったのだと感じている。

解説：

querer は「愛情」「想い」。

ここでは単なる好意ではなく、恋人としての愛です。

まだ信じたくないけれど、もう愛されていないと悟り始めています。

¡Jamás retornarás!

君は決して戻らない！

解説：

jamás は強い否定で「決して ない」。

retornarás は「君は戻るだろう」の未来形ですが、否定されて「君は戻らない」。

タイトルにもなっている絶望の核心です。

Lo dice el alma mía,

僕の魂がそう告げている。

解説：

alma mía は「僕の魂」。

理屈ではなく、心の奥底が「もう彼女は戻らない」と知っている、という表現です。

Y en esta soledad

そして、この孤独の中で、

解説：

soledad は「孤独」。

彼女の不在によって、主人公は完全にひとり取り残されています。

Te nombro noche y día.

僕は夜も昼も君の名を呼んでいる。

解説：

nombrar は「名を呼ぶ」「名前を口にする」。

noche y día は「夜も昼も」、つまり一日中。

忘れられない相手を、心の中で呼び続けています。

¿Por qué, por qué te fuiste de mi lado

なぜ、なぜ君は僕のそばから去ってしまったのか、

解説：

te fuiste は「君は去った」。

de mi lado は「僕のそばから」。

繰り返される *por qué* が、答えのない問いと苦しみを強めています。

y tan cruel has destrozado

そして、こんなにも残酷に壊してしまったのか、

解説：

has destrozado は「君は壊してしまった」。

cruel は「残酷な」。

相手の去り方が、主人公には冷酷に感じられています。

mi corazón?

僕の心を。

解説：

前の行から続いて、

「なぜ君は僕のそばを去り、僕の心を残酷に壊したのか？」

という意味になります。

¡Jamás retornarás!

君は決して戻らない！

解説：

再び同じ叫びが繰り返されます。

彼は戻らないと分かっているのに、その事実を受け入れられません。

Lo dice el alma mía,
僕の魂がそう告げている。

解説：

頭ではなく、心の底が真実を知っている、という表現です。

Y aunque muriendo está
そして、死にかけているような心でありながらも、

解説：

直訳すると「それは死につつつあるけれど」。
ここでの主語は文脈上、彼の魂や心です。
愛を失って心が死にそうになっている状態です。

Te espera sin cesar.
それでも君を絶え間なく待ち続けている。

解説：

sin cesar は「やむことなく」「絶えず」。
戻らないと分かっているのに、待つことをやめられない。
この矛盾が曲の悲しさです。

全体の解釈

この歌の主人公は、去っていった女性に「すぐ戻るわ」と言われ、その言葉を信じて待ち続けます。
しかし時間が過ぎても彼女は戻らず、やがて彼は「君は決して戻らない」という真実を悟ります。

ただし、頭では分かっているけど、心はまだ彼女を待ち続けています。

この歌の悲しさは、単に「失恋した」ということではなく、

戻らないと分かっているのに、待つことをやめられない
というところにあります。

Miguel Caló と Osmar Maderna の美しい旋律に、Raúl Berón の甘く哀しい声が重なり、1940 年代タンゴらしい上品で深い失恋の情感が表れています。

[Index](#)

Esta noche de luna -55 Osvaldo Pugliese con Jorge Maciel

Composer: Graciano Manuel Leopoldo Gómez; José Francisco García
Author: Héctor Marcó (Héctor Domingo Marcolongo)
Artist : Orquesta Osvaldo Pugliese con Jorge Maciel
Genre : Tango Recorded : 1955-09-02
ESTA NOCHE DE LUNA

Esta noche de luna

この月の夜に

※題名は直訳すると「この月夜」。恋を告白するのにふさわしい、夢のような夜を指しています。

Acércate a mí y oírás mi corazón

僕のそばにおいで、そうすれば僕の心臓の音が聞こえるだろう。

「Acércate」は「近づいて」。恋人に身体的にも心情的にも近づいてほしいという呼びかけです。

Contento latir como un brujo reloj,

うれしそうに、魔法の時計のように鳴っている。

「brujo reloj」は直訳で「魔法使いの時計／不思議な時計」。恋で高鳴る心臓を、神秘的な時計にたとえています。

La noche es azul, convida a soñar

夜は青く、夢を見るように誘っている。

「convida a soñar」は「夢へ招く」。青い夜は、現実よりも幻想的な恋の空間です。

El cielo ha encendido su faro mejor.

空は、一番美しい灯台をともした。

ここでの「faro」は月のこと。夜空の月を、恋人たちを照らす灯台のように表現しています。

Si un beso te doy, pecado no ha de ser

もし君に口づけしても、それは罪にはならないだろう。

月夜の雰囲気によって、キスを正当化するような甘い言い方です。

Culpable es la noche que incita a querer,

悪いのは、愛したくなるように誘うこの夜なのだから。

「僕が悪いのではなく、恋を誘う夜が悪い」という、タンゴらしい口説き文句です。

Me tienta el amor, acércate ya

愛が僕を誘惑している、さあ、もう近くへおいで。

「me tienta」は「僕を誘惑する」。理性よりも恋心が勝っている状態です。

El credo de un sueño, nos redimirá.

夢の信仰が、僕たちを救ってくれるだろう。

「credo」は信条・信仰、「redimir」は救済する。恋を一種の宗教のように高めて表現しています。

Corre, corre, barcarola, por un río de ilusión

走れ、走れ、舟歌よ、幻想の川を進んでいけ。

「barcarola」は舟歌。ここでは実際の舟というより、恋心を運ぶ歌・小舟のイメージです。

Que en el canto de las olas, surgirá mi confesión...

波の歌の中から、僕の告白が現れるだろう。

波の音に乗せて、愛の告白が自然に湧き上がるという詩的表現です。

Soy, una estrella en el mar

僕は、海に浮かぶ一つの星。

現実には星は空にありますが、ここでは「海に映る星」または「迷える存在」の比喻です。

Que hoy detiene su andar

今日、その歩みを止めている。

「andar」は進むこと、歩み。恋人の前で運命の動きが止まるような感覚です。

Para hundirse en tus ojos,

君の瞳の中へ沈んでいくために。

恋人の瞳を海のように見立て、そこへ身を沈めるほど惹かれているという意味です。

Y en el embrujo

そして、その魔力の中で、

「embujo」は魔法、妖しい魅力。恋人の魅力に取り憑かれている感じです。

De tus labios muy rojos

君のとても赤い唇の魔力の中で、

赤い唇は情熱、誘惑、官能の象徴です。

Por llegar a tu alma

君の魂にたどり着くためなら、

単なる肉体的な愛ではなく、心の奥深くまで届けたいという表現です。

Mi destino daré...

僕は自分の運命さえ差し出そう。

「destino」は運命。愛のためなら人生そのものを捧げる、という大げさで情熱的な表現です。

Soy, una estrella en el mar

僕は、海に浮かぶ一つの星。

同じ比喩が繰り返されます。孤独で、漂い、消えそうな存在です。

Que hoy se pierde al azar

今日、運命のままに迷い失われていく。

「al azar」は偶然に、成り行き任せに。恋に身を任せている感じです。

Sin amor ni fortuna

愛もなく、幸運もなく。

自分は孤独で恵まれない存在だ、と語っています。

Y en los abismos

そして深い淵の中で、

「abismos」は深淵。月夜の美しさの裏にある、深い情念や危うさです。

De esta noche de luna

この月夜の深淵の中で、

月夜は美しいだけでなく、人を狂わせるような深さを持っています。

Sólo quiero vivir

僕はただ生きたい。

ただし普通に生きたいのではなく、この恋の中だけで生きたいという意味です。

De rodillas a tus pies

君の足元にひざまずいて。

恋人への完全な献身、崇拝の姿勢です。

Para amarte y morir...

君を愛し、そして死ぬために。

タンゴらしい極端な愛の表現です。「愛すること」と「死ぬこと」が同じ情熱の中に置かれています。

Soy, una estrella en el mar

僕は、海に浮かぶ一つの星。

現実には星は空にありますが、ここでは「海に映る星」または「迷える存在」の比喩です。

Que hoy detiene su andar

今日、その歩みを止めている。

「andar」は進むこと、歩み。恋人の前で運命の動きが止まるような感覚です。

Para hundirse en tus ojos,

君の瞳の中へ沈んでいくために。

恋人の瞳を海のように見立て、そこへ身を沈めるほど惹かれているという意味です。

Y en el embrujo

そして、その魔力の中で、

「embujo」は魔法、妖しい魅力。恋人の魅力に取り憑かれている感じです。

De tus labios muy rojos

君のとても赤い唇の魔力の中で、

赤い唇は情熱、誘惑、官能の象徴です。

Por llegar a tu alma

君の魂にたどり着くためなら、
単なる肉体的な愛ではなく、心の奥深くまで届けたいという表現です。

Mi destino daré...

僕は自分の運命さえ差し出そう。

「destino」は運命。愛のためなら人生そのものを捧げる、という大げさで情熱的な表現です。

Soy, una estrella en el mar

僕は、海に浮かぶ一つの星。

同じ比喻が繰り返されます。孤独で、漂い、消えそうな存在です。

Que hoy se pierde al azar

今日、運命のままに迷い失われていく。

「al azar」は偶然に、成り行き任せに。恋に身を任せている感じです。

Sin amor ni fortuna

愛もなく、幸運もなく。

自分は孤独で恵まれない存在だ、と語っています。

Y en los abismos

そして深い淵の中で、

「abismos」は深淵。月夜の美しさの裏にある、深い情念や危うさです。

De esta noche de luna

この月夜の深淵の中で、

月夜は美しいだけでなく、人を狂わせるような深さを持っています。

Sólo quiero vivir

僕はただ生きたい。

ただし普通に生きたいのではなく、この恋の中だけで生きたいという意味です。

De rodillas a tus pies

君の足元にひざまずいて。

恋人への完全な献身、崇拜の姿勢です。

Para amarte y morir...

君を愛し、そして死ぬために。

タンゴらしい極端な愛の表現です。「愛すること」と「死ぬこと」が同じ情熱の中に置かれています。

全体の解釈

この歌は、月夜の海辺を舞台にした情熱的な愛の告白です。

男性は相手に「近くへ来て」と呼びかけ、自分の心臓の高鳴り、甘い言葉、赤い唇への憧れ、魂まで届けたい願いを語ります。

特に印象的なのは、

「海に浮かぶ星」

「舟歌」

「月夜」

「波の歌」

というイメージです。

これらはすべて、現実の恋というより、夢の中の恋、運命に飲み込まれるような恋を表しています。

タンゴとして見ると、これは失恋や恨みの歌ではなく、かなりロマンチックで官能的なタイプです。

ただし明るいだけではなく、

“Para amarte y morir”＝君を愛し、そして死ぬために

という一節に、タンゴ特有の「愛と死が近い」濃い情念が出ています。

[Index](#)

Por una cabeza -35 Carlos Gardel

Composer: Carlos Gardel Author: Alfredo Le Pera
Artist: Carlos Gardel con acomp. de la orquesta dir. por Terig Tucci
Genre Tango Recorded 1935-03-19

この曲は、競馬で「頭ひとつ差」で負ける男と、恋で何度も痛い目を見る男を重ねた歌です。

「Por una cabeza」は直訳すると「頭ひとつ分」。競馬では「僅差で負ける」、恋では「あと少しで理性を失う」という感じです。

POR UNA CABEZA

ポル・ウナ・カベサ

頭ひとつの差で

Por una cabeza

頭ひとつの差で

競馬用語です。馬の「頭ひとつ分」の僅差。

この一言が、曲全体のテーマです。

勝てそうで勝てない。恋も競馬も、いつもあと一歩で負ける。

De un noble potrillo

気高い若駒が

potrillo は若い牡馬。

noble は血統が良い、立派な、気品あるという意味。

ただの馬ではなく、期待をかけた良い馬です。

Que justo en la raya

ちょうどゴールラインで

la raya は線、ここでは決勝線。

勝負の最後の最後、まさにゴール前です。

Afloja al llegar.

着いた瞬間に力を抜いてしまう。

aflojar は緩める、力を抜く。

最後まで走れば勝てたのに、ゴール直前で失速する。

人生や恋の比喻にもなっています。

Y que al regresar

そして戻ってくると

レースに負けて帰ってくる馬の姿です。

でも次の行で、馬がまるで人間に語りかけるように描かれます。

Parece decir:

こう言っているように見える。

馬が主人公に忠告しているように見える。

もちろん実際には馬は話しません。負けた男の心の声です。

“No olvides, hermano,

「忘れるなよ、兄弟、

hermano は兄弟ですが、ここでは親しい呼びかけ。

「なあ、相棒」といった感じです。

Vos sabés, no hay que jugar”.

お前も分かっているだろう、賭け事なんかするもんじゃない」

jugar は遊ぶ、賭ける。ここでは競馬賭博。

負けるたびに「もう賭けるな」と思う。

でもまた賭けてしまう。これが恋にもつながります。

Por una cabeza

頭ひとつの差で

再び同じ言葉。

競馬の僅差が、今度は恋の僅差へ移っていきます。

Metejón de un día,

一日の熱病のような恋、

metejón はアルゼンチンの口語で、急な恋、のぼせ上がり、夢中になること。

長く深い愛というより、突然心を奪われる恋です。

De aquella coqueta

あの媚びる女のために

coqueta は色っぽく振る舞う女性、男心をくすぐる女性。

軽く誘うような魅力があります。

Y burlona mujer,

そして人をからかう女のために、

burlona はからかう、嘲るような。

彼女は本気なのか遊びなのか分からない。

主人公はそれを分かっているが惹かれてしまいます。

Que al jurar sonriendo

微笑みながら誓うとき

彼女は笑顔で愛を誓う。

しかしその笑顔が、すでに危うい。

本気の誓いではなく、誘惑の演技のようです。

El amor que está mintiendo,

嘘の愛を誓いながら、

está mintiendo は「嘘をついている」。

つまり彼女の愛の言葉は嘘。

主人公もどこかでそれを感じています。

Quema en una hoguera

炎の中で焼き尽くしてしまう、

hoguera は焚き火、火刑台、燃え盛る火。

恋の情熱が、温かい火ではなく、すべてを焼き尽くす火として描かれます。

Todo mi querer.

私の愛のすべてを。

querer は愛情、思い。

彼女の嘘の愛が、主人公の本気の愛を燃やしてしまう。

ここで競馬の損失が、恋の破滅へ重なります。

サビ

Por una cabeza

頭ひとつの差で

またこの言葉。

恋でも競馬でも、主人公はいつもわずかな差で負ける。

しかしその「わずかな差」が、人生全体を狂わせるほど大きい。

Todas las locuras,

あらゆる狂気をしてしまう。

locuras は愚かな行為、狂ったような行動。

恋に夢中になって、理性を失うことです。

Su boca que besa

彼女の口づけする唇が

su boca は単に「口」ですが、ここでは唇、キスの象徴。

彼女の魅力の中心です。

Borra la tristeza

悲しみを消し去り、
borrar は消す。
彼女のキスは、一瞬だけ主人公の悲しみを忘れさせる。

Calma la amargura.
苦さを鎮める。
amargura は苦味、つらさ、人生の苦悩。
恋は苦しみの原因でもあるのに、同時に苦しみを癒すものでもある。
この矛盾がこの歌の核心です。

Por una cabeza
頭ひとつの差で
ここでは「たったひとつの誘惑で」とも読めます。
もう少しで忘れられるのに、彼女の存在がまた男を引き戻す。

Si ella me olvida,
もし彼女が私を忘れるなら、
me olvida は「私を忘れる」。
彼女にとって主人公は一時の遊びだったかもしれない。

Qué importa perderme
私が身を滅ぼしたところで、何だというのか。
perderme は「自分を失う」「破滅する」。
恋に敗れても、もう構わないという投げやりな気持ちです。

Mil veces la vida
千回でも命を失って、
mil veces は「千回」、つまり何度でも。
実際に千回ではなく、「何度死んでもいいほど」という誇張です。

Para qué vivir.
生きていて何になる。
彼女に忘れられるなら、生きる意味がない。
タンゴらしい、極端で劇的な愛の表現です。
ただしここには本当に死にたいというより、恋に負けた男の大げさな嘆きがあります。

2 番
Cuántos desengaños
どれほど多くの幻滅があったことか
desengaño は失望、裏切られた思い、夢から覚めること。
恋にも競馬にも何度も裏切られてきた。

Por una cabeza,
頭ひとつの差のせいで。
また僅差。
「ほんの少しの期待」が、いつも大きな失望になる。

Yo juré mil veces
私は千回も誓った。
juré は誓った。
「もうやめる」と何度も自分に誓ったということ。

No vuelvo a insistir.
もう二度と繰り返さないと。
insistir はしつこく続ける、こだわる。
恋にも賭けにも、もう戻らないと決めたはずです。

Pero si un mirar
でも、ひとつの眼差しが
un mirar は一瞥、まなざし。
女性の視線です。
たった一瞬の視線で、誓いは崩れます。

Me hiere al pasar,

通りすがりに私を傷つけるなら、

herir は傷つける。

彼女の視線は優しいものではなく、心を刺すもの。
それでも主人公は惹かれる。

Sus labios de fuego

彼女の炎の唇に

labios de fuego は情熱的な唇。

火は先ほどの hoguera とつながります。
魅力であると同時に、破滅の火です。

Otra vez quiero besar.

私はまた口づけしたくなる。

「もうやめる」と誓っても、また戻ってしまう。

競馬依存と恋愛依存が重ねられています。

Basta de carreras,

競馬はもうたくさんだ。

basta de... は「もう十分だ」「もうやめだ」。

ここで主人公は競馬をやめると言います。

Se acabó la timba,

賭け事は終わりだ。

timba は賭博、博打。

かなり口語的な言葉です。

もうギャンブル人生は終わりだ、と言っている。

Un final reñido

接戦の結末なんて

reñido は争われた、競り合った。

つまり勝つか負けるか分からない、ハラハラするゴール前。

Yo no vuelvo a ver.

私はもう二度と見ない。

もうあんな心臓に悪い勝負は見ない。

しかし次の行で、すぐにその決意は崩れます。

Pero si algún pingo

でも、もしどこかの馬が

pingo は馬を指すアルゼンチンの口語。

少し親しみのある言い方です。

Llega a ser fija el domingo,

日曜日の本命になるなら、

fija は「確実なもの」「鉄板」「本命」。

競馬で「これは勝つ」と思える馬のこと。

el domingo は競馬の日曜日の雰囲気です。

Yo me juego entero

私は全財産を賭けてしまう。

me juego entero は自分を丸ごと賭ける、すべてを投げ出す。

金だけではなく、自分自身まで賭ける感覚です。

¡Qué le voy a hacer!...

どうしようもないじゃないか！

Qué le voy a hacer は「仕方がない」「どうにもならない」。

これが主人公の本音です。

やめると言いながら、恋も競馬もやめられない。

自分の弱さを笑うような、諦めたような結びです。

サビ

Por una cabeza

頭ひとつの差で

またこの言葉。

恋でも競馬でも、主人公はいつもわずかな差で負ける。
しかしその「わずかな差」が、人生全体を狂わせるほど大きい。

Todas las locuras,

あらゆる狂気をしてしまう。

locuras は愚かな行為、狂ったような行動。
恋に夢中になって、理性を失うことです。

Su boca que besa

彼女の口づけする唇が

su boca は単に「口」ですが、ここでは唇、キスの象徴。
彼女の魅力の中心です。

Borra la tristeza

悲しみを消し去り、

borrar は消す。

彼女のキスは、一瞬だけ主人公の悲しみを忘れさせる。

Calma la amargura.

苦さを鎮める。

amargura は苦味、つらさ、人生の苦悩。
恋は苦しみの原因でもあるのに、同時に苦しみを癒すものでもある。
この矛盾がこの歌の核心です。

Por una cabeza

頭ひとつの差で

ここでは「たったひとつの誘惑で」とも読めます。
もう少しで忘れられるのに、彼女の存在がまた男を引き戻す。

Si ella me olvida,

もし彼女が私を忘れるなら、

me olvida は「私を忘れる」。

彼女にとって主人公は一時の遊びだったかもしれない。

Qué importa perderme

私が身を滅ぼしたところで、何だというのか。

perderme は「自分を失う」「破滅する」。

恋に敗れても、もう構わないという投げやりな気持ちです。

Mil veces la vida

千回でも命を失って、

mil veces は「千回」、つまり何度でも。

実際に千回ではなく、「何度死んでもいいほど」という誇張です。

Para qué vivir.

生きていて何になる。

彼女に忘れられるなら、生きる意味がない。
タンゴらしい、極端で劇的な愛の表現です。
ただしここには本当に死にたいというより、恋に負けた男の大きな嘆きがあります。

全体の解釈

この歌の主人公は、競馬にも恋にも負け続けている男です。
しかし本当のテーマは、単なる競馬でも恋愛でもありません。

「分かっているのに、また惹かれてしまう」

「もうやめると誓ったのに、また賭けてしまう」

「傷つくと分かっているのに、彼女の唇に戻ってしまう」

この弱さ、愚かさ、情熱が、非常にタンゴ的です。
競馬では、頭ひとつの差で負ける。
恋では、ひとつの視線で負ける。
どちらも理性では止められない。

だから最後の

¡Qué le voy a hacer!

は、とても重要です。

「仕方がない」

「俺はこういう男なんだ」

「分かっているけど、また賭けてしまう」

という、苦笑いまじりの諦めです。

重要語句

スペイン語	意味	解説
Por una cabeza	頭ひとつの差で	競馬の僅差。恋の比喻にもなる
potrillo	若駒	若い牡馬
raya	ゴールライン	競馬の決勝線
aflojar	力を抜く	ゴール前で失速する
metejón	一時の熱烈な恋	アルゼンチン口語
coqueta	媚びる女	男心を誘う女性
burlona	からかう女	本気か遊びか分からない
hoguera	焚き火、火刑の火	愛を焼き尽くす情熱
timba	博打	口語的な賭博
pingo	馬	アルゼンチン的な言い方
fija	本命、確実な馬	「これは勝つ」と思われる馬

踊る時の感覚

この曲は明るく美しいメロディですが、歌詞はかなり苦いです。

踊る時は、ただロマンチックに踊るだけでなく、少し洒落た諦めや人生の苦笑いがあると合います。

「悲劇」ではなく、

「またやってしまったよ」という大人の男の苦み。

その感じが、Gardel の歌う **Por una cabeza** の魅力です。

[Index](#)

Volver -35 Carlos Gardel

Composer: Carlos Gardel Author: Alfredo Le Pera
Artist Carlos Gardel con acomp. de la orquesta dir. por Terig Tucci
Genre Tango Recorded 1935-03-19

この曲は、単なる「帰郷」ではなく、人生を経て、若い日の恋・痛み・記憶の場所へ戻ってくる男の歌です。

VOLVER
戻る／帰る

第1節

Yo adivino el parpadeo,

私は見分ける、ちらちら瞬く光を。

→ **adivino** は「察する」「見抜く」。遠くの灯りを見て、そこが自分の帰る場所だと直感している。

De las luces que a lo lejos

遠くに見える灯りの。

→ 物理的な町の灯りであり、同時に過去の記憶の灯りでもある。

Van marcando mi retorno.

それらが、私の帰還の道しるべとなっている。

→ **marcando** は「印をつける」「示す」。灯りが帰る道を示している。

Son las mismas que alumbraron

それは、かつて照らしていた同じ灯り。

→ 昔も今も変わらずそこにある灯り。時間の経過と記憶の対比。

Con sus pálidos reflejos

その青白い光で。

→ **pálidos** は「青ざめた」「淡い」。明るい希望というより、痛みを伴う記憶の光。

Hondas horas de dolor.

深い苦しみの時間を。

→ **hondas** は「深い」。ただの悲しみではなく、人生の奥に沈んだ痛み。

Y aunque no quise el regreso

そして、私は戻りたいとは思わなかったのに。

→ 帰りたい気持ちと、帰りたくない気持ちが混ざっている。

Siempre se vuelve al primer amor.

人はいつも、初めての恋へ戻ってしまう。

→ この曲の核心。理性では拒んでも、心は「最初の愛」に引き戻される。

La quieta calle donde el eco dijo:

あの静かな通り、そこでこだまが言った。

→ **quieta calle** は、昔のまま静まり返った通り。記憶の舞台。

Tuya es su vida, tuyo es su querer,

「彼女の命はお前のもの、彼女の愛もお前のもの」と。

→ 若い頃、彼は彼女の愛を信じていた。愛の確信、あるいは幻想。

Bajo el burlón mirar de las estrellas

星たちの嘲るようなまなざしの下で。

→ **burlón** は「からかうような」「嘲笑するような」。星は冷たく見ているだけ。

Que con indiferencia, hoy me ven volver.

その星たちは今日、無関心に私が戻るのを見ている。

→ 人間の恋や苦しみなど、宇宙から見れば小さなもの。星の冷淡さが孤独を強める。

サビ

Volver...

戻る.....

→ ここでは「帰る」以上に、「過去へ戻る」「記憶に戻る」という意味。

Con la frente marchita,

しおれた額をして。

→ **frente marchita** は直訳すると「枯れた額」。老い、疲れ、人生の傷を表す。

Las nieves del tiempo

時の雪が。

→ 白髪^{しろかみ}の比喩。時間が雪のように降り積もった。

Platearon mi sien.

私のこめかみを銀色に染めた。

→ *platear* は「銀色にする」。年齢を重ね、白髪になったということ。

Sentir...

感じる.....

→ ここから人生への実感が語られる。

Que es un soplo la vida,

人生など、ひと吹き^{ひとふき}の風にすぎないのだと。

→ *soplo* は「息」「一吹き」。人生の短さ、はかなさ。

Que veinte años no es nada,

二十年など、何でもないのでと。

→ 非常に有名な一節。二十年も経ったのに、心の痛みや愛は消えていない。

Que febril la mirada,

熱に浮かされたようなまなざしが。

→ *febril* は「熱っぽい」。冷静ではなく、恋や記憶に取りつかれている。

Errante en la sombra

影の中をさまよいながら。

→ *errante* は「さまよう」。過去の闇の中で愛する人を探している。

Te busca y te nombra.

お前を探し、お前の名を呼ぶ。

→ 「お前」はかつての恋人。忘れたはずなのに、心はまだ呼び続ける。

Vivir...

生きる.....

→ 生きるとは何か、という重い響き。

Con el alma aferrada

魂をしがみつかせて。

→ *aferrada* は「しっかり握りしめた」「しがみついた」。離れられない。

A un dulce recuerdo

甘い思い出に。

→ 思い出は甘い。しかし同時に苦しい。

Que lloro otra vez.

その思い出を、私はまた泣いている。

→ 過去の記憶が再び涙を呼ぶ。戻ったことで、癒えていない傷が開く。

第2節

Tengo miedo del encuentro

私はその出会いが怖い。

→ 誰との出会いかというと、恋人だけでなく「過去」との出会い。

Con el pasado que vuelve

戻ってくる過去との。

→ 過去は消えたものではなく、自分に向かって再び現れる。

A enfrentarse con mi vida.

私の人生と向き合うために。

→ *enfrentarse* は「対面する」「立ちはだかる」。過去が現在の自分に挑んでくる。

Tengo miedo de las noches

私は夜が怖い。

→ 夜は記憶がよみがえる時間。

Que pobladas de recuerdos

思い出でいっぱいになった夜が。

→ *pobladas* は「満たされた」「住みついた」。記憶が夜を占領する。

Encadenen mi soñar.

私の夢を鎖で縛ってしまるのが怖い。

→ *encadenar* は「鎖につなぐ」。眠りも夢も過去に囚われる。

Pero el viajero que huye,

だが、逃げ続ける旅人も。

→ 主人公はこれまで過去から逃げてきた「旅人」。

Tarde o temprano detiene su andar,

遅かれ早かれ、その歩みを止めるものだ。

→ 人は永遠には逃げられない。いつか立ち止まり、過去と向き合う。

Y aunque el olvido que todo destruye,

そして、すべてを壊してしまう忘却が。

→ *olvido* は「忘却」。時間が記憶も愛も壊す力として描かれる。

Haya matado mi vieja ilusión,

私の古い夢を殺してしまったとしても。

→ *vieja ilusión* は「昔の夢」「かつての希望」。恋の幻想は死んだかもしれない。

Guardo escondida una esperanza humilde

私は密かに、ささやかな希望を隠し持っている。

→ *humilde* は「つつましい」「小さな」。大きな期待ではなく、かすかな望み。

Que es toda la fortuna de mi corazón.

それこそが、私の心に残されたすべての財産なのだ。

→ *fortuna* は「財産」「幸運」。彼に残っているのは、愛の成功ではなく、わずかな希望だけ。

サビ

Volver...

戻る.....

→ ここでは「帰る」以上に、「過去へ戻る」「記憶に戻る」という意味。

Con la frente marchita,

しおれた額をして。

→ *frente marchita* は直訳すると「枯れた額」。老い、疲れ、人生の傷を表す。

Las nieves del tiempo

時の雪が。

→ 白髪 of 白髪。時間が雪のように降り積もった。

Platearon mi sien.

私のこめかみを銀色に染めた。

→ *platear* は「銀色にする」。年齢を重ね、白髪になったということ。

Sentir...

感じる.....

→ ここから人生への実感が語られる。

Que es un soplo la vida,

人生など、ひと吹き of 風にすぎないのだと。

→ *soplo* は「息」「一吹き」。人生の短さ、はかなさ。

Que veinte años no es nada,

二十年など、何でもないのだと。

→ 非常に有名な一節。二十年も経ったのに、心の痛みや愛は消えていない。

Que febril la mirada,

熱に浮かされたようなまなざしが。

→ *febril* は「熱っぽい」。冷静ではなく、恋や記憶に取りつかれている。

Errante en la sombra

影の中をさまよいながら。

→ *errante* は「さまよう」。過去の闇の中で愛する人を探している。

Te busca y te nombra.

お前を探し、お前の名を呼ぶ。

→ 「お前」はかつての恋人。忘れたはずなのに、心はまだ呼び続ける。

Vivir...

生きる.....

→ 生きるとは何か、という重い響き。

Con el alma aferrada

魂をしがみつかせて。

→ *aferrada* は「しっかり握りしめた」「しがみついた」。離れられない。

A un dulce recuerdo

甘い思い出に。

→ 思い出は甘い。しかし同時に苦しい。

Que lloro otra vez.

その思い出を、私はまた泣いている。

→ 過去の記憶が再び涙を呼ぶ。戻ったことで、癒えていない傷が開く。

全体の意訳

戻りたくなかったはずなのに、私はまた帰ってきた。
遠くの灯りは、昔の苦しみを照らしていた同じ灯りだった。
人は結局、最初の恋へ戻ってしまう。
二十年という歳月が流れ、髪には白いものが混じった。
けれど人生は一瞬の息のようで、二十年など何でもなかった。
私のまなざしは今も、影の中でお前を探し、お前の名を呼ぶ。
過去と向き合うのは怖い。
思い出に縛られる夜も怖い。
それでも、逃げる旅人もいつかは足を止める。
忘却が昔の夢を壊してしまったとしても、
私の心にはまだ、ささやかな希望だけが隠れている。

この歌のポイント

Volver は「帰る」という意味ですが、この歌では単なる帰郷ではありません。
若い日の恋、失われた希望、痛みの記憶、老いの自覚——そのすべてがある場所へ、人生の後半になって戻ってくる歌です。

特に有名な、

Que veinte años no es nada

「二十年など、何でもない」

という一節は、時間が経てば忘れられるはずなのに、愛の記憶だけは消えていない、というタンゴらしい感覚を表しています。

この曲の主人公は、過去を美化しているだけではありません。

むしろ、過去に戻ることを恐れています。

それでも戻ってしまう。

そこに、タンゴ特有の宿命感、郷愁、老い、未練、そして小さな希望があります。

[Index](#)

El día que me quieras -35 Carlos Gardel

Composer: Carlos Gardel Author: Alfredo Le Pera
Artist Carlos Gardel con acomp. de la orquesta dir. por Terig Tucci
Genre Canción Recorded 1935-03-19

この曲は、恋人に愛されるその日を、自然も世界も祝福するように描いた、非常にロマンティックな歌です。タンゴというより、映画音楽的な甘いカンシオンです。

EL DÍA QUE ME QUIERAS

君が僕を愛してくれる日

Acaricia mi ensueño

僕の夢をやさしく撫でてくれる

解説：

acariciar は「撫でる」「愛撫する」。

mi ensueño は「私の夢」「幻想」「甘い夢想」。

現実の恋というより、まだ夢の中にある恋心を、相手の存在がやさしく包んでいる感じです。

El suave murmullo

やわらかなささやきが

解説：

murmullo は「小さなつぶやき」「せせらぎのような音」。

ここでは恋人のため息、息づかいが、音楽のように感じられています。

De tu suspirar.

君のため息の。

解説：

tu suspirar は「君がため息をつくこと」「君の吐息」。

恋人の息づかいだけで、主人公の夢が満たされるという、非常に繊細な愛の表現です。

Como ríe la vida

人生はなんと笑いかけることか

解説：

ríe la vida は直訳すると「人生が笑う」。

つまり、人生そのものが明るく、幸せに輝くという意味です。

Si tus ojos negros

もし君の黒い瞳が

解説：

ojos negros は「黒い瞳」。

ラテン的・タンゴ的な美の象徴です。目線は恋愛の始まりでもあります。

Me quieren mirar.

僕を見つめたいと思ってくれるなら。

解説：

me quieren mirar は「私を見ようとしてくれる」「私を見つめてくれる」。

ただ見るのではなく、愛情をもって見つめてくれることを意味します。

Y si es mío el amparo

そして、もし僕のものとなるなら

解説：

amparo は「保護」「支え」「慰め」「かばってくれるもの」。

ここでは、恋人の微笑みが自分を守ってくれる、という意味です。

De tu risa leve

君の淡い微笑みという支えが

解説：

risa leve は「軽やかな笑い」「やさしい微笑み」。

強い笑いではなく、ふっとこぼれるような微笑みです。

Que es como un cantar,

それはまるで歌のようで、

解説：

恋人の笑顔が、主人公には音楽のように響いている。
ガルデルらしい、歌と恋を重ねる表現です。

Ella aquieta mi herida...

その微笑みが、僕の傷を静めてくれる.....

解説：

herida は「傷」。
心の傷、過去の悲しみ、孤独を指します。
aquietar は「静める」「落ち着かせる」。
愛によって心の痛みが癒やされる、という意味です。

¡Todo, todo se olvida!

すべてが、すべてが忘れられる！

解説：

愛されることで、過去の苦しみも悲しみも消えてしまう。
繰り返しの todo, todo に、感情の高まりがあります。

サビ

El día que me quieras

君が僕を愛してくれる日

解説：

題名そのものです。
querer は「愛する」「好きでいる」。
ここでは深い恋愛感情としての「愛してくれる」です。

La rosa que engalana,

美しく飾られた薔薇は

解説：

engalanar は「飾る」「美しく装う」。
薔薇は愛の象徴。
その薔薇さえも、恋の成就を祝う存在になります。

Se vestirá de fiesta

祭りの衣をまとい

解説：

直訳は「お祭りの服を着る」。
花が祝祭の装いをする、という擬人化です。
自然界全体が恋を祝福しています。

Con su mejor color.

いちばん美しい色で咲くだろう。

解説：

su mejor color は「その最良の色」。
愛される日には、薔薇さえ最高に美しくなる、という誇張表現です。

Al viento las campanas

風に乗って鐘たちは

解説：

campanas は「鐘」。
教会の鐘、祝福の鐘、結婚の鐘を思わせます。

Dirán que ya eres mía,

君はもう僕のものと告げるだろう。

解説：

ya eres mía は「もう君は僕のものの」。
現代的には所有的に聞こえますが、当時のロマンティックな歌詞では「恋が成就した」
「相思相愛になった」という意味合いです。

Y locas las fontanas

そして、はしゃぐ泉たちは

解説：

fontanas は「泉」「噴水」。

locas は「狂ったような」「夢中になった」。

水まで喜びにあふれているイメージです。

Me contarán tu amor.

君の愛を僕に語ってくれるだろう。

解説：

泉の水音が、恋人の愛を語っているように聞こえる。

自然音がすべて愛のメッセージになる、という幻想的な表現です。

夜の場面

La noche que me quieras

君が僕を愛してくれる夜

解説：

昼の「日」から、夜の「二人だけの時間」へ移ります。

より親密で幻想的な雰囲気になります。

Desde el azul del cielo,

青い空の彼方から

解説：

azul del cielo は「空の青」。

夜なのに青と表現することで、月明かりや幻想的な夜空を感じさせます。

Las estrellas celosas

嫉妬深い星たちが

解説：

星が嫉妬するほど、二人の愛が美しいという意味です。

celosas は「嫉妬している」。

星まで人間の恋をうらやむのです。

Nos mirarán pasar.

通り過ぎる僕たちを見つめるだろう。

解説：

二人が寄り添って歩く姿を、星たちが見守る場面です。

映画のワンシーンのような美しいイメージです。

Y un rayo misterioso

そして、ひとすじの神秘的な光が

解説：

rayo は「光線」「一筋の光」。

月光、星の光、あるいは愛の光とも読めます。

Hará nido en tu pelo,

君の髪に巣を作るだろう。

解説：

hacer nido は「巣を作る」。

光が恋人の髪に宿る、という非常に詩的な表現です。

恋人の髪が、光を抱くほど美しいものとして描かれています。

Luciérnaga curiosa, que verá

好奇心に満ちた蛍のように、それは見るだろう

解説：

luciérnaga は「蛍」。

先ほどの光が、蛍のように人格化されています。

curiosa は「好奇心旺盛な」。

二人の愛をのぞき見る小さな光です。

¡Que eres mi consuelo!

君こそが僕の慰めなのだと！

解説：

consuelo は「慰め」「救い」「心の支え」。

この曲の中心にある感情です。

主人公にとって恋人は、単なる恋の相手ではなく、人生の悲しみを癒やす存在です。

Recitado : 語り

El día que me quieras

君が僕を愛してくれる日

解説：

ここからは歌ではなく、語りの部分です。

歌の世界をさらに詩的に広げています。

No habrá más que armonías.

そこには調和だけがあるだろう。

解説：

armonías は「ハーモニー」「調和」。

争いも苦しみもなく、世界が美しい音楽のように整うという意味です。

Será clara la aurora

夜明けは澄みわたり

解説：

aurora は「夜明け」。

新しい人生の始まり、希望の象徴です。

Y alegre el manantial.

泉は喜びに満ちるだろう。

解説：

manantial は「泉」「湧き水」。

生命力、清らかさ、再生を表します。

Traerá quieta la brisa

静かなそよ風は運んでくるだろう

解説：

brisa は「そよ風」。

quieta は「静かな」「穏やかな」。

愛の成就によって、風さえも穏やかになります。

Rumor de melodías.

旋律のざわめきを。

解説：

rumor は「ざわめき」「かすかな音」。

melodías は「メロディー」。

自然の音が音楽になるという、ガルデル＝レ・ペラらしい表現です。

Y nos darán las fuentes

そして泉たちは僕たちに与えるだろう

解説：

fuentes は「泉」「噴水」。

ここでも自然が二人を祝福します。

Su canto de cristal.

水晶のような歌を。

解説：

canto de cristal は「水晶の歌」。

透明で澄んだ水音を表しています。

非常に美しい比喻です。

El día que me quieras

君が僕を愛してくれる日

解説：

再び主題が戻ります。

この一言が、すべての幸福の条件になっています。

Endulzará sus cuerdas

歌う鳥は、その弦を甘く響かせるだろう

解説：

endulzar は「甘くする」。

cuerdas は「弦」。

鳥に弦があるわけではありませんが、鳥の喉・声を楽器にたとえています。

El pájaro cantor.

歌う小鳥が。

解説：

小鳥の歌声も、愛の日にはさらに甘く、美しくなる。

自然界すべてが恋の音楽になります。

Florecerá la vida

人生は花開き

解説：

florecerá は「花咲くだろう」。

恋によって、人生そのものが開花するという表現です。

No existirá el dolor...

苦しみは存在しなくなるだろう.....

解説：

ここがこの曲の大きな核心です。

愛されることで、傷も孤独も痛みも消える。

やや夢想的ですが、それほどまでに主人公は愛に救いを求めています。

繰り返し

La noche que me quieras

君が僕を愛してくれる夜

解説：

最後に再び夜の場面へ戻ります。

昼の祝福から、夜の幻想的な愛へ。

Desde el azul del cielo,

青い空の彼方から

解説：

夜空を「青」と呼ぶことで、暗さよりも透明感、ロマンティックな明るさを出しています。

Las estrellas celosas

嫉妬深い星たちが

解説：

星さえも、二人の愛を羨む。

愛の絶頂を表す美しい擬人化です。

Nos mirarán pasar.

通り過ぎる僕たちを見つめるだろう。

解説：

二人が一緒に歩く。

それだけで宇宙全体が見守るような、壮大な恋のイメージです。

Y un rayo misterioso

そして、ひとすじの神秘的な光が

解説：

愛の奇跡、月光、星の光、希望の光。

いろいろな意味に読めます。

Hará nido en tu pelo,

君の髪に巣を作るだろう。

解説：

光が恋人の髪に宿る。
恋人の姿が、ほとんど聖なるもののよう描かれています。

Luciérnaga curiosa, que verá

好奇心いっぱいの蛍のように、それは見つめるだろう

解説：

小さな光が、二人の秘密の幸福を見届けます。
ロマンティックで、少し夢のような表現です。

¡Que eres mi consuelo!

君こそが僕の救いなのだ！

解説：

最後の consuelo はとても重要です。
「慰め」と訳せますが、ここではもっと深く、
人生の悲しみを癒やしてくれる唯一の存在
という意味です。

全体の解釈

この歌は、単に「君が好きだ」という恋の歌ではありません。
主人公にとって、恋人に愛されることは、世界そのものが変わるほどの奇跡です。

君が僕を愛してくれる日、
薔薇は美しく装い、

鐘は鳴り、

泉は愛を語り、

星は嫉妬し、

光は君の髪に宿り、

人生は花開き、

苦しみは消える。

つまりこの曲の中心は、

愛されることによる救済

です。

タンゴには、失恋、喪失、郷愁、裏切りを歌うものが多いですが、この曲は珍しく、愛
が成就したときの幸福を、非常に甘美に描いています。

ただし、その幸福はまだ「その日が来たら」という未来形で語られています。

だからこそ、完全な幸福の歌でありながら、どこか夢の中のような切なさもあります。

[Index](#)

Poema -35 Francisco Canaro con Robert Maida

Poema

Lyrics: Eduardo Bianco / Music: Mario Melfi

1. Cuando las flores de tu rosal

君のバラ園の花々が

- **Cuando** = ～するとき、～したとき
- **las flores** = 花々
- **de tu rosal** = 君のバラの木／バラ園の
 - **rosa** = バラ
 - **rosal** = バラの木、バラの茂み

この行だけでは文が完結せず、次の **vuelvan ... a florecer** へ続きます。

2. vuelvan más bellas a florecer,

再び、いっそう美しく咲くとき、

- **volver a + 不定詞** = 再び～する
- **vuelvan ... a florecer** = 再び咲く
- **florece** = 花が咲く
- **más bellas** = より美しく

ここで **vuelvan** が接続法現在なのは、未来のまだ実現していない出来事を **cuando** で表しているためです。

つまり 1～2 行をつなげると、

Cuando las flores de tu rosal vuelvan más bellas a florecer

=

君のバラ園の花々が、再びいっそう美しく咲くとき
となります。

3. recordarás mi querer

君は、僕の愛を思い出さだろう

- **recordarás** = 君は思い出さだろう
- **recordar** の未来形
- **mi querer** = 私の愛、私の愛情

querer は通常「愛する・欲する」という動詞ですが、名詞として使うと愛、愛情、想い

という意味になります。

したがって単に「私を思い出す」ではなく、

僕が君に注いだ愛を思い出す

というニュアンスです。

4. y has de saber

そして君は知ることになるだろう

- **y** = そして
- **has de + 不定詞** = ～することになる／～するはずだ／～しなければならない
- **saber** = 知る

haber de + 不定詞 は少し古風で文学的な表現です。

ここでは強い義務の「知らなければならない」より、

やがて君にも分かるだろう

君は思い知ることになるだろう

くらいが自然です。

5. todo mi intenso mal...

僕が味わった、この激しい苦しみのすべてを.....

- **todo** = すべて
- **mi** = 私の
- **intenso** = 激しい、強烈な
- **mal** = 苦しみ、苦悩、悲しみ

mal は普通「悪」「病気」などの意味がありますが、ここでは恋による精神的な苦痛です。

3～5行をまとめると、
**recordarás mi querer
y has de saber
todo mi intenso mal**

→
君は僕の愛を思い出し、
そしていつか知るだろう、
僕がどれほど激しく苦しんだのかを……
という意味になります。

6. De aquel poema embriagador

あの心を酔わせた詩は

- **de** = ～から、～について
- **aquel** = あの
- **poema** = 詩
- **embriagador** = 酔わせる、陶醉させる

embriagar は本来「酒に酔わせる」という意味ですが、恋愛では
うっとりさせる

陶醉させる

という意味になります。

ここでの **poema** は文字通りの詩だけではなく、二人の恋そのものを象徴していると考えられます。

つまり、
あの陶醉するような恋の詩は
というニュアンスです。

7. ya nada queda entre los dos.

もう二人の間には何も残っていない。

- **ya** = もう、すでに
- **nada** = 何も～ない
- **queda** = 残っている
- **entre** = ～の間に
- **los dos** = 二人

quedar = 残る

直訳すると、

あの陶醉させる詩からは、もう二人の間に何も残っていない。

つまり、
かつての美しい恋は、もう完全に終わってしまった
ということです。

8. Con mi triste adiós

僕の悲しい別れの言葉によって

- **con** = ～とともに／～によって
- **mi** = 私の
- **triste** = 悲しい
- **adiós** = さようなら、別れ

ここでの **adiós** は単なる挨拶ではなく、

僕が君に告げる別れ

です。

次の行につながっています。

9. sentirás la emoción

君は胸に感じるだろう

- **sentirás** = 君は感じるだろう
sentir の未来形

- **la emoción** = 感情、心の動揺、胸の高まり

emoción は日本語の「感動」だけではありません。

ここでは、

胸を揺さぶられる感情

心の震え

くらいが適切です。

10. de mi dolor.

僕の苦しみを。

- de = ~の
- mi dolor = 私の痛み、悲しみ

la emoción de mi dolor は直訳すると、
僕の苦しみの感情

ですが、日本語としては、

僕の悲しみがどれほど深いものだったか

僕の苦しみを、君も胸に感じるだろう

と訳した方が自然です。

8～10 行では、

Con mi triste adiós

sentirás la emoción

de mi dolor.

→

僕の悲しい別れの言葉に、

君もきっと胸に感じるだろう、

僕が抱えてきたこの苦しみを。

となります。

全体を自然な日本語にすると

君のバラ園の花々が

再び、いっそう美しく咲くとき、

君は僕の愛を思い出すだろう。

そしていつか知ることになる、

僕がどれほど激しく苦しんだのかを……

あの心を酔わせた恋の詩も、

今では二人の間に何ひとつ残っていない。

僕の悲しい別れの言葉に、

君も胸に感じるだろう、

僕が抱えてきたこの苦しみを。

この歌詞のポイント

特に美しいのが最初の「バラが再び咲く」というイメージです。花は再び咲くのに、二人の恋はもう戻らない。その未来に、相手がかつての愛を思い出し、初めて語り手の苦しみの深さを理解するだろう、と歌っています。

そしてタイトルの **Poema (詩)** は、おそらく単なる「詩」ではなく、二人で作った美しい恋そのものを指しています。

De aquel poema embriagador / ya nada queda entre los dos. はこの曲の核心で、

「あれほど二人を酔わせた美しい恋も、今はもう何も残っていない」

という非常にタンゴらしい喪失感を表しています。

[Index](#)

Dos Corazones -44 Lucio Demare con Horacio Quintana

Composer: Francisco Canaro Author: Ivo Pelay
Artist : Orquesta Lucio Demare con Horacio Quintana
Genre : Vals Recorded : 1944-09-25

「Dos Corazones」 — Lucio Demare / Horacio Quintana

Dos Corazones = 「二つの心」

二人の心が一つに溶け合うことを、露の雫・川の波・雲・光・花園などの自然のイメージで描いた、とてもロマンティックな歌詞です。
一行ずつ、できるだけ原文のニュアンスを残して訳します。

1. Cual dos gotas de claro rocío

澄んだ露の二つの雫のように

文法・語句

- **cual** = ~のように、まるで~のように
詩語的な表現で、通常の **como** に近い意味です。
- **dos gotas** = 二つの雫
- **rocío** = 露
- **claro rocío** = 澄んだ、きらめく露

語順としては、

Cual dos gotas de claro rocío

= **Como dos gotas de rocío claro**

というイメージです。

2. Que en la noche se besan calladas

夜の中で、黙って口づけを交わす二つの雫のように

文法・語句

- **que** = 前行の **dos gotas** を受ける関係代名詞
- **en la noche** = 夜に、夜の中で
- **se besan** = 互いにキスする
 - **besar** = キスする
 - **besarse** = キスし合う
- **calladas** = 黙って、静かに
 - **callado/a** = 黙った、静かな

calladas が女性複数形なのは、**gotas** が女性複数名詞だからです。

直訳すると、

「夜の中で静かに口づけし合う、澄んだ露の二つの雫のように」
となります。

3. Cual dos ondas que van impulsadas

押し流されてゆく二つの波のように

文法・語句

- **ondas** = 波、波紋
- **que** = その波が
- **van impulsadas** = 押されながら進んでいく

ir + 過去分詞 は、状態が進行していく感じを表します。

- **impulsar** = 押す、動かす、勢いを与える
- **impulsadas** = 押されて、突き動かされて

ここでは川の流れに押される二つの波です。

4. A fundirse en la orilla del río

川辺で一つに溶け合うために

文法・語句

- **fundir** = 溶かす
- **fundirse** = 溶け合う、一つになる
- **a + 不定詞**
前行の **van impulsadas a fundirse** で、
「溶け合う方向へ押されていく」

- **la orilla del río** = 川岸、川辺

つまり、
二つの波が流れに運ばれ、最後には一つになる
という、二人の恋の比喻です。

5. Como el fuego que envuelve el estío

夏を包み込む炎のように

文法・語句

- **como** = ~のように
- **el fuego** = 火、炎
- **que envuelve** = ~を包む
- **envolver** = 包む、包み込む
- **el estío** = 夏

estío は日常会話の **verano** より文学的な「夏」です。
炎と夏の暑さを重ね、激しい情熱を表しています。

6. Como nube que abraza otra nube

一つの雲が、もう一つの雲を抱くように

文法・語句

- **nube** = 雲
- **abraza** = 抱きしめる
 - **abrazar** = 抱く、抱擁する
- **otra nube** = もう一つの雲

冠詞が省略された非常に詩的な表現です。

una nube que abraza a otra nube

と考えると分かりやすいでしょう。

タンゴにおいて **abrazo** (抱擁) は特別な意味を持つ言葉なので、「二つの雲が抱擁する」というイメージは印象的です。

7. Así son tu cariño y el mío

あなたの愛と私の愛も、まさにそのようなもの

文法・語句

- **así** = このように、そのように
- **son** = ~である
- **tu cariño** = あなたの愛情
- **el mío** = 私のもの → 私の愛情

el mío は

mi cariño

を繰り返さないための表現です。

つまり、

tu cariño y el mío

= あなたの愛と私の愛

8. Que se funden en un solo ideal

二つは、一つの理想へと溶け合ってゆく

文法・語句

- **que** = 前行の **tu cariño y el mío** を説明
- **se funden** = 溶け合う
- **fundirse** = 一つに溶け合う
- **un solo** = ただ一つの
- **ideal** = 理想、理想像

ここが第一節の核心です。

二人が単に愛し合うだけでなく、

二つの愛 → 一つの理想

へと融合する、と歌っています。

9. Con tu corazón en mi corazón

あなたの心を、私の心の中に抱けば

あるいは詩的に、

あなたの心と私の心が一つになれば

文法・語句

- **con** = ~とともに、~があれば

- **tu corazón** = あなたの心
- **en mi corazón** = 私の心の中に

直訳は、
「私の心の中にあなたの心があれば」
です。

ここからタイトル **Dos Corazones** (二つの心) がはっきり示されます。

10. El lucero azul brillará mejor

青い星は、いっそう美しく輝くだろう

文法・語句

- **lucero** = 明るく輝く星
- **azul** = 青い
- **brillará** = 輝くだろう
 - **brillar** = 輝く
 - 未来形
- **mejor** = よりよく、より美しく

「二人の心が一つなら、世界さえ今まで以上に美しく見える」という恋愛表現です。

11. Con tu corazón en mi corazón

あなたの心と私の心が一つになれば

前と同じ表現です。

ここでは **Con** ～ が次の結果、
Todo en el jardín hablará de amor.
につながっています。

12. Todo en el jardín hablará de amor

花園のすべてが、愛を語るだろう

文法・語句

- **todo** = すべて
- **en el jardín** = 庭で、花園で
- **hablará** = 語るだろう
- **hablar de** ～ = ～について語る
- **amor** = 愛

hablará は未来形。

直訳すると、
「庭園のすべてのものが愛について語るだろう」
花や木々までもが二人の愛を祝福する、という擬人化です。

13. Notas cristalinas llenarán tu oído

透き通った音色が、あなたの耳を満たすだろう

文法・語句

- **notas** = 音、音符、調べ
- **cristalinas** = 水晶のように澄んだ
 - **cristal** = 水晶、ガラス
- **llenarán** = 満たすだろう
 - **llenar** = 満たす
- **tu oído** = あなたの耳、聴覚

notas cristalinas は直訳すれば「水晶のような音」。

日本語では、

澄んだ調べ

透き通った音色

くらいが自然です。

14. Y una luz divina nos envolverá

そして神々しい光が、私たちを包むだろう

文法・語句

- **una luz divina** = 神聖な光、神々しい光
- **nos** = 私たちを
- **envolverá** = 包むだろう
 - **envolver** = 包み込む

前半にも

el fuego que envuelve el estío

がありました。
ここでは炎ではなく **luz divina**（神聖な光） に二人が包まれます。

15. Fijaré mis ojos en tus negros ojos

私は、あなたの黒い瞳をじっと見つめよう

文法・語句

- **fijaré** = 固定するだろう
◦ **fijar** = 固定する、据える
- **mis ojos** = 私の目
- **en tus negros ojos** = あなたの黒い瞳に

fijar los ojos en ～

は重要な熟語で、

～に目を据える

→ ～をじっと見つめる

という意味です。

スペイン語の恋愛詩では **ojos negros**（黒い瞳） は非常によく登場します。

16. Uniré mis labios a tus labios rojos

私の唇を、あなたの赤い唇に重ねよう

文法・語句

- **uniré** = 結びつけるだろう
◦ **unir** = 結ぶ、一つにする
- **mis labios** = 私の唇
- **a tus labios** = あなたの唇に
- **rojos** = 赤い

直訳すると、

「私の唇をあなたの赤い唇に結びつけよう」

つまり キスをしよう という非常に詩的な言い方です。

17. Y mi inspiración volará al cenit

そして私の想いは、天頂へと舞い上がるだろう

文法・語句

- **mi inspiración** = 私の靈感、創造的な思い、インスピレーション
- **volará** = 飛ぶだろう
◦ **volar** = 飛ぶ
- **al** = a + el
- **cenit** = 天頂、頂点

cenit は、空で真上に当たる最も高い点。

したがって比喩的には、

最高点

絶頂

を意味します。

恋人との口づけによって、主人公の心・詩情が最高の境地まで高まるわけです。

18. Con tu corazón en mi corazón

あなたの心と、私の心が一つになれば

ここでサビの最初の言葉に戻ります。

単なる

「あなたを愛している」

ではなく、

あなたの心が私の心の中にある

という「二つの心の融合」が、この歌の中心テーマです。

繰り返し

19. Fijaré mis ojos en tus negros ojos

私は、あなたの黒い瞳をじっと見つめよう

文法は 15 行目と同じです。

fijar los ojos en ～

= ～をじっと見つめる。

20. Uniré mis labios a tus labios rojos

私の唇を、あなたの赤い唇に重ねよう

16 行目の繰り返し。

unir A a B

= A を B に結びつける。

ここでは、

mis labios + tus labios

→ 二人の唇を一つにする

→ **口づけ**

です。

21. Y mi inspiración volará al cenit

そして私の想いは、天頂へと舞い上がるだろう

17 行目の繰り返しです。

volará は未来形なので、

「飛んでいく」

よりも

「舞い上がるだろう」

という、これから訪れる幸福への期待が込められています。

22. Con tu corazón en mi corazón

あなたの心と、私の心が一つになれば

最後までタイトルのテーマで締めくくられます。

全体を自然な日本語にすると

この歌詞で何度も描かれるのは、**「二つのものが一つになる」**というイメージです。

- 二つの露の雫が口づけする
- 二つの波が一つに溶ける
- 一つの雲がもう一つの雲を抱く
- あなたの愛と私の愛が一つになる
- あなたの心が私の心の中に入る
- 私の唇とあなたの唇が一つになる

つまり **Dos Corazones (二つの心)** とは、二つの別々の心でありながら、愛によって一つになろうとする二人を表しています。

特に美しいのは、

Así son tu cariño y el mío

Que se funden en un solo ideal

あなたの愛と私の愛も、まさにそのようなもの。

二つはただ一つの理想へと溶け合ってゆく。

という部分です。

この **fundirse (溶け合う)** が、このタンゴ全体を理解するうえで重要な言葉です。前半の「二つの波が溶け合う」という自然の描写が、そのまま後半の二人の心の融合へとつながっています。

[Index](#)

Ribereña -42 Lucio Demare con Juan Carlos Miranda

Composer: Victor Braña; Santiago Coppola
Author: Enrique Miguel Gaudino
Artist: Orquesta Lucio Demare con Juan Carlos Miranda
Genre: Vals Recorded : 1942-03-13

RIBEREÑA (リベレーニャ)

1. Recuerdo que una tarde

日本語訳：

ある日の夕暮れのことを、私は覚えている。

文法・語句：

- **recuerdo** : 動詞 *recordar* 「思い出す、覚えている」の1人称単数。
- **recuerdo que** ~ : 「～ということを覚えている」。
- **una tarde** : 「ある午後」「ある夕暮れ」。

ここでは、この後続く情景全体を「私は覚えている」と導いています。

2. Templada de otoño,

日本語訳：

秋の、穏やかに暖かな夕暮れだった。

文法・語句：

- **templada** : 「暖かく穏やかな、暑くも寒くもない」。
- 女性形なのは、前の **tarde** が女性名詞だからです。
- **de otoño** : 「秋の」。

つまり

una tarde templada de otoño

= 「秋の穏やかな暖かい午後」。

3. El sol, se recostaba

日本語訳：

太陽は、身を横たえるように沈みかけていた。

文法・語句：

- **el sol** : 「太陽」。
- **se recostaba** : *recostarse* 「横になる、もたれかかる」。
- **-aba** は線過去で、「そのとき～していた」という背景描写。

太陽を人間のように表現した詩的な擬人法です。

4. Detrás de la loma;

日本語訳：

丘の向こうへ。

文法・語句：

- **detrás de** ~ : 「～の後ろに、～の向こうに」。
- **la loma** : 「小高い丘、丘陵」。

前行と合わせて、

El sol se recostaba detrás de la loma.

「太陽は丘の向こうに身を横たえるように沈んでいた。」
となります。

5. Y tú, toda de blanco

日本語訳：

そして君は、全身を白い服に包み、

文法・語句：

- **y tú** : 「そして君は」。
- **toda de blanco** : 「全身白づくめで」。
- **todo/toda de + 色** は「全身～色を身につけている」という表現。

toda が女性形なのは、相手が女性だからです。

6. Como una paloma,

日本語訳：

まるで一羽の白い鳩のように、

文法・語句：

- **como** ～：「～のように」。
- **una paloma**：「鳩」。

白い服を着た女性を、純白の鳩にたとえています。

7. Yacías a la sombra

日本語訳：

君は木陰に横たわっていた。

文法・語句：

- **yacías** : *yacer* 「横たわる」の2人称単数・線過去。
- **a la sombra de** ～：「～の陰で」。

yacías は少し文学的な言葉で、普通の会話なら **estabas acostada** などになります。

8. De un viejo gualaguay.

日本語訳：

一本の古いグアレグアイの木。

つまり、

Yacías a la sombra de un viejo gualaguay.

「君は一本の老いたグアレグアイの木陰に横たわっていた。」

語句：

- **viejo**：「古い、年老いた」。
 - **gualaguay**：南米、とくにアルゼンチンやウルグアイ地域で知られる樹木の名。ここでは川辺の土地らしい植物を登場させ、舞台の地方色を強めています。
-

第2連

9. El viento acariciaba

日本語訳：

風がやさしく撫でていた、

文法・語句：

- **acariciaba** : *acariciar* 「愛撫する、優しく撫でる」の線過去。
- 主語は **el viento** 「風」。

ここでも風を人間のように描いています。

10. Tus sueltos cabellos,

日本語訳：

君の解き放たれた髪を。

文法・語句：

- **tus cabellos**：「君の髪」。
- **suelos** : *suelto* 「ほどかれた、束ねていない」。

前行と合わせて、

El viento acariciaba tus sueltos cabellos.

「風が、ほどいた君の髪を優しく撫でていた。」

11. Y había una sonrisa

日本語訳：

そして微笑みが浮かんでいた、

文法・語句：

- **había** : *haber* の線過去。
 - **hay** ～「～がある」の過去形で、「～があった」。
 - **una sonrisa**：「微笑み」。
-

12. En tu boca pequeña;

日本語訳：

君の小さな口もとに。

合わせると、

Y había una sonrisa en tu boca pequeña.

「君の小さな口もとには微笑みが浮かんでいた。」

- **boca**：「口」。
 - **pequeña**：「小さな」。
-

13. Y el misterioso encanto

日本語訳：

そして神秘的な魅力が、

文法・語句：

- **misterioso** : 「神秘的な、不思議な」。
- **encanto** : 「魅力、魔力、魅惑」。

この文は次の数行まで続きます。

14. De tu cara trigueña,

日本語訳：

君の小麦色の顔の、

文法・語句：

- **cara** : 「顔」。
- **trigueña** : *trigueño*。
 - *trigo* 「小麦」から来た言葉。
 - 「小麦色の肌の」「褐色の」「健康的に日焼けした」。

el encanto de tu cara trigueña

= 「君の小麦色の顔の魅力」。

15. Al ver correr las aguas

日本語訳：

流れてゆく水を眺めながら、

文法・語句：

- **al + 不定詞** : 「～するとき」「～して」。
- **ver** : 「見る」。
- **ver correr** ～ : 「～が流れるのを見る」。
- **las aguas** : 「水、水の流れ」。

ver + 不定詞 は

「～が...するのを見る」という構文です。

16. Del río Uruguay.

日本語訳：

ウルグアイ川の。

前数行を自然につなぐと、

Y el misterioso encanto de tu cara trigueña,

al ver correr las aguas del río Uruguay.

「そして、流れゆくウルグアイ川の水を見つめる、

君の小麦色の顔には、神秘的な魅力があった。」

文法的にはかなり詩的に省略された表現です。

サビ

17. Morochita de ojazos renegridos,

日本語訳：

真っ黒な大きな瞳をした、可愛い褐色の娘よ、

文法・語句：

- **morochita** :
 - *morocha* 「黒髪で褐色の肌をした女性」
 - **-ita** は愛称・縮小辞。
 - 「可愛い黒髪の娘」「可愛い褐色の娘」。
- **ojazos** :
 - *ojos* 「目」 + 強調語尾 **-azo**
 - 「大きく印象的な目」。
- **renegridos** :
 - 「非常に黒い、真っ黒な」。
 - **re-** が強調の働きをしています。

したがって直訳的には

「真っ黒な大きな瞳の可愛いモレーナよ」。

18. Morochita de labios color guinda,

日本語訳：

サクランボ色の唇をした、可愛い娘よ、

文法・語句：

- **labios** : 「唇」。
 - **color guinda** : 「サクランボ色、深い赤紫色」。
 - **guinda** はサワーチェリーの種類。
- つまり、濃く赤い唇を表しています。
-

19. Al mirarte esa tarde, tan linda

日本語訳：

あの夕暮れ、あんなにも美しい君を見つめたとき、

文法・語句：

- **al mirarte** :
 - **al** + 不定詞 = 「～したとき」
 - **mirar** + **te** = 「君を見る」
 - 「君を見たとき」。
- **esa tarde** : 「あの午後、あの夕暮れ」。
- **tan linda** : 「あんなに美しい」。

linda は女性である **tú** を指します。

20. Nuevamente soñó el corazón.

日本語訳：

私の心は、再び夢を見た。

文法・語句：

- **nuevamente** : 「再び、もう一度」。
- **soñó** : *soñar* 「夢を見る」の点過去。
- **el corazón** : 「心、心臓」。

語順を普通にすると、

El corazón soñó nuevamente.

ここでは「心が夢を見る」というロマンティックな擬人表現です。

21. Ribereña, de piel dorada y suave,

日本語訳：

川辺の娘よ、黄金色の柔らかな肌をした君よ、

文法・語句：

- **ribereña** :
 - *ribera* 「川岸、岸辺」から。
 - 「川辺の女性」「川岸に暮らす娘」。
- **piel** : 「肌」。
- **dorada** : 「黄金色の」。
- **suave** : 「柔らかな、なめらかな」。

de piel dorada y suave

= 「黄金色で滑らかな肌をした」。

22. Ribereña que robas mi alegría,

日本語訳：

川辺の娘よ、僕の喜びを奪ってゆく君よ、

文法・語句：

- **que** : 関係代名詞。「～するところの」。
- **robas** : *robar* 「盗む、奪う」の2人称単数。
- **mi alegría** : 「私の喜び」。

直訳は

「私の喜びを盗む川辺の娘よ」。

ここでは恋に心を奪われ、平静でいられなくなるニュアンスです。

23. Por besarte no sé qué daría

日本語訳：

君に口づけできるなら、何を差し出してもいいほどだ。

文法・語句：

- **por besarte** :
 - *besar* 「キスする」
 - **te** 「君に」
 - 「君にキスするためなら」「君にキスできるなら」。
- **no sé** : 「私は分からない」。
- **qué daría** : 「何を差し出すだろう」。

• **daría** は **dar**「与える」の条件法。
no sé qué daría por ～ は重要な表現で、
「～のためなら何を差し出してもかまわない」
「～できるならどんな犠牲でも払いたい」
という強い願望です。

24. **Bella flor, que encontré a la oración.**

日本語訳：

夕べの祈りの時に会った、美しい花よ。
より自然にすると、
「夕暮れ時に会った、美しい花のような君よ。」

文法・語句：

- **bella flor**：「美しい花」。
 - 女性への呼びかけ・比喻。
- **que encontré**：「私が会った」。
 - **encontré**=**encontrar**「見つける、会おう」の1人称点過去。
- **a la oración**：
 - 古風・詩的な表現。
 - 本来は「祈りの時に」。
 - カトリック文化では夕方の祈り、特に **Angelus**（お告げの祈り）の時刻を指し、
 - そこから「夕暮れ時、日暮れ時」の意味になります。

したがって、

que encontré a la oración

= 「夕暮れ時に私が会った」。

全体を自然な日本語にすると

ある秋の、穏やかな夕暮れを私は覚えている。

太陽は丘の向こうに身を横たえるように沈み、

君は白い服に身を包み、

まるで白い鳩のように、

古いグアレグアイの木陰に横たわっていた。

風は君のほどいた髪を優しく撫で、

小さな口もとには微笑みが浮かんでいた。

流れゆくウルグアイ川の水を見つめる

君の小麦色の顔には、

不思議な魅力が宿っていた。

真っ黒な大きな瞳の、可愛い褐色の娘よ、

深紅の唇をした、可愛い娘よ。

あの夕暮れ、あんなにも美しい君を見たとき、

私の心はもう一度、夢を見た。

黄金色の柔らかな肌をした川辺の娘よ、

私の喜びを奪ってゆく川辺の娘よ。

君に口づけできるなら、何を差し出してもいい。

夕暮れ時に会った、美しい一輪の花よ。

この歌では、**「秋の夕暮れ → ウルグアイ川 → 白い服の女性 → 風になびく髪 → 黒い瞳と赤い唇」**という映像が順番に描かれ、最後に「もう一度恋する心」が目覚めます。特に **morochita / trigueña / piel dorada** は、当時のリオ・デ・ラ・プラタの歌詞でよく見られる、黒髪・褐色の肌をした女性の美しさを称える語彙です。

[Index](#)

Se fue -43 Lucio Demare con Raúl Berón

Se fue

作曲：Horacio Salgán

作詞：P. Valdez (Oscar Rubens)

Lucio Demare 楽団 / Raúl Berón

1943 年 7 月 13 日録音・Vals

タイトルの **Se fue** は、

「去っていった」「行ってしまった」という意味です。

irse (立ち去る、行ってしまう) の点過去 3 人称単数です。

この歌では、愛する女性が自分のもとから去ってしまった悲しみを歌っています。

Te encontré, no sé cómo ni cuándo sufriendo y penando sin fe y ya vencido.

君と出会った。いつ、どんなふうにだったのかは分からない。

僕は苦しみ、悲しみ、希望を失い、すでに打ちのめされていた。

文法

Te encontré

- encontrar = 見つける、出会う
- encontré = 私は見つけた／出会った (点過去)
- te = 君を

→ 「僕は君と出会った」

no sé cómo ni cuándo

- no sé = 私は知らない、分からない
- cómo = どのように
- cuándo = いつ
- ni ... = ～も...ない

→ 「いつ、どのようにだったのか分からない」

sufriendo y penando

- sufrir = 苦しむ
- penar = 苦しむ、悲しみに暮れる
- 現在分詞 -iendo / -ando

→ 「苦しみ、悲しみながら」

sin fe

- fe = 信仰、信念、希望
- ここでは宗教的な「信仰」というより、生きる希望・愛への希望を失ってという感じです。

ya vencido

- vencer = 打ち負かす
- vencido = 打ち負かされた、敗れた
- ya = すでに

ここで **vencido** が男性形なのは、語り手である男性の状態を表しているからです。

Y mi alma, que estaba sangrando te estaba esperando sedienta de amor.

そして、血を流していた僕の魂は、

愛に渇きながら君を待っていた。

文法

mi alma

= 私の魂

alma は女性名詞ですが、単数では発音上 el alma となります。ただし形容詞は女性形になります。

que estaba sangrando

- que = ～していた、その～
- estar + 現在分詞
- sangrar = 血を流す

→ 「血を流していた」

もちろん比喻で、

心が深く傷ついていたということです。

te estaba esperando

- esperar a alguien = 人を待つ
- te = 君を
- estaba esperando = 待っていた

sedienta de amor

- sediento / sedienta = 喉が渴いた、渴望している
- sedienta de amor = 愛に渴いた

sedienta は **alma** (魂) を修飾するので女性形です。

→ 非常に詩的な表現で、
「傷ついた僕の魂は、愛を求めて君を待っていた」
ということです。

Sólo sé que te amé locamente y en un beso ardiente juramos querernos.

ただ分かっているのは、僕が君を狂おしいほど愛したこと、
そして熱い口づけの中で、僕たちは愛し合うことを誓ったということ。

文法

Sólo sé que...

= 「ただ～ということだけは分かっている」

te amé

- amar = 愛する
- amé = 私は愛した
- te = 君を

locamente

= 狂ったように、夢中になって

loco → locamente

→ 「狂おしいほど君を愛した」

en un beso ardiente

- beso = キス、口づけ
- ardiente = 燃えるような、熱烈な

→ 「熱い口づけの中で」

juramos

- jurar = 誓う
- juramos = 私たちは誓った

querernos

ここが面白いところです。

- querer = 愛する
- nos = お互いを／私たち自身を

querer + nos

→ 「互いに愛し合う」

したがって、

juramos querernos

= 「私たちは愛し合うことを誓った」

Pero hoy, que no estás a mi lado no sé si he soñado o fue realidad.

けれど今日、君が僕のそばにいない今、
あれは夢だったのか、それとも現実だったのか分からない。

文法

Pero hoy

= しかし今日、今となっては

que no estás a mi lado

- estar al lado de = ～のそばにいる
- no estás a mi lado = 君は僕のそばにいない

この que は、詩的に「君がそばにいない今日という今」という状況を補足しています。

no sé si...

= ～なのかどうか分からない

he soñado

- soñar = 夢を見る
- he soñado = 私は夢を見た／夢だった

現在完了です。

o fue realidad

- fue = ser の点過去
- realidad = 現実

→ 「それとも現実だったのか」

つまり幸福だった日々があまりにも遠く感じられ、
「本当にあったことなのか、夢だったのではないか」
と思っているわけです。

サビ

Llegó...

やって来た.....。

llegar = 到着する、やって来る

llegó = やって来た

ただし、この一語は前後との関係が少し曖昧です。主語が明示されていません。

直訳すれば「やって来た」ですが、何が「やって来た」のかは詩の中では省略されています。

Lo dice el alma mía.

僕の魂がそう言っている。

文法

lo dice

- decir = 言う
- dice = ～が言う
- lo = それを

el alma mía

= 私の魂

通常なら mi alma ですが、

el alma mía

と後ろに所有形容詞を置くことで、文学的・詩的な響きになります。

→ 「この僕の魂がそう告げている」

Partió...

君は去っていった.....。

文法

partir

= 出発する、立ち去る

partió

= 彼／彼女は去った

主語は省略されていますが、文脈上は愛する女性です。

irse よりも少し文学的で、

「旅立った」「去っていった」

という響きがあります。

Repito en mi agonía.

僕は苦悶の中で、そう繰り返す。

文法

repito

- repetir = 繰り返す
- repito = 私は繰り返す

en mi agonía

- agonía = 苦悶、断末魔、激しい苦しみ

ここでは文字通り死にかけているというより、

「耐え難い心の苦しみ」

です。

→ 「苦しみながら僕は何度も繰り返す」

Si te amé y vos juraste amarme,

僕が君を愛し、そして君も僕を愛すると誓ったのなら、

文法

ここにはアルゼンチンらしい **vos** が出てきます。

Si te amé

= もし／～なのに、僕が君を愛した

vos

= 君

アルゼンチン、ウルグアイなどで使われる **tú** に相当する代名詞です。

juraste

- jurar = 誓う
- vos juraste = 君は誓った

点過去です。

amarme

- amar + me
- 私を愛する

juraste amarme

= 「君は僕を愛すると誓った」

¿Cómo fue que has podido dejarme?

それなのに、どうして君は僕を捨てることができたのだろう？

文法

¿Cómo fue que...?

直訳すると

「どのようにして～ということになったのか？」

実際には、

「いったいどうして～したの？」

という強い疑問です。

has podido

- poder = ～できる
- has podido = 君は～することができた

dejarme

- dejar = 残す、置いていく、捨てる
- me = 私を

→ 「どうして僕を捨てられたの？」

単なる「可能」の意味より、

「あれほど愛すると誓ったのに、よくも僕を置いていけたものだ」

という悲しみ・驚きがあります。

Se fue...

君は行ってしまった.....。

この歌のタイトルです。

文法

irse

= 立ち去る、行ってしまう

点過去：

- me fui = 私は行った
- te fuiste = 君は行った
- **se fue** = 彼／彼女は行った

単なる fue より、

「ここからいなくなった」

「去っていった」

というニュアンスが強いです。

Lo dice el alma mía.

僕の魂がそう言っている。

前と同じです。

→ 「君は去った、と僕の魂が告げている」

Se fue...

君は去ってしまった.....。

ここでは繰り返すことで、現実を自分自身に言い聞かせている感じがあります。

Llevando mi alegría.

僕の喜びを連れ去って。

文法

llevar

= llevar (持っていく、連れていく) の現在分詞

主語は se fue の女性。

つまり、

Se fue llevando mi alegría.

というつながりで考えられます。

→「彼女は僕の喜びを持って去ってしまった」
非常にタンゴらしい表現です。
愛する人が去っただけではなく、
彼女と一緒に自分の幸福まで消えてしまった
という意味です。

Y al notar que no ha sido esto, un sueño es vano mi empeño de amar sin morir.

そして、これが夢ではなかったのだと気づけば、
死なずに愛し続けようとする僕の努力など虚しい。
少し難しい一文です。

文法

al + 不定詞

= 「～するとき」「～したとき」

al notar

= 気づいたとき／気づくと

notar

= 気づく、認識する

que no ha sido esto un sueño

語順を普通にすると、

que esto no ha sido un sueño

です。

- esto = これ、このこと
- ha sido = ～だった（現在完了）
- un sueño = 夢

→「このことが夢ではなかった」

つまり、

「彼女が去ったということは悪夢ではなく、本当に起こった現実なのだ」
と悟ります。

es vano mi empeño

- vano = 無駄な、むなしい
- empeño = 努力、懸命な試み

語順は詩的です。

普通なら、

mi empeño es vano

= 私の努力は虚しい

de amar sin morir

- amar = 愛する
- sin = ～せずに
- morir = 死ぬ

直訳すると、

「死なずに愛すること」

つまり、

「こんな苦しみに耐えながら、それでも生きて愛そうとすること」

でしょう。

全体としては、

「これは夢ではなく本当に君が去ったのだと分かった今、君を愛しながら生き続けよう
とすることなど、僕にはできそうもない」
という非常に激しい失恋表現です。

第3節

Fue tan grande la dicha vivida cuan grande es la herida que hoy llevo en el alma.

あのとき味わった幸福が大きかったのと同じくらい、
今、僕の魂に負っている傷も深い。

この一行はとても美しい表現です。

文法

Fue tan grande...

- fue = ～だった
- tan grande = それほど大きかった

la dicha

= 幸福、幸せ

felicidad より文学的な言葉です。

vivida

= vivir の過去分詞

la dicha vivida

= 「経験した幸福」「味わった幸福」

dicha が女性名詞なので vivida も女性形です。

tan ... cuan ...

古典的・文学的な比較表現です。

tan grande ... cuan grande ...

= 「～と同じくらい大きい」

現代の日常会話なら、

tan grande como...

のほうが普通です。

したがって、

Fue tan grande la dicha vivida cuan grande es la herida...

=

「味わった幸福が大きかったのと同じほど、今の傷も大きい」
となります。

la herida que hoy llevo en el alma

- herida = 傷
- que = ～という
- llevo = 私は抱えている
- en el alma = 心／魂の中に

llevar una herida

= 傷を負っている、傷を抱えている

→ 「今、心に抱えている傷」

つまり、

幸福が大きければ大きかったほど、失った今の苦しみも大きい。
という対比です。

Que me paso las horas pensando si estuve soñando o fue cruel verdad.

僕は何時間も、あれは夢を見ていたのか、

それとも残酷な現実だったのかと考えながら過ごしている。

文法

me paso las horas + 現在分詞

これは重要な表現です。

pasarse el tiempo haciendo algo

= 「ずっと～して過ごす」

したがって、

me paso las horas pensando

= 「私は何時間も考えて過ごしている」

si estuve soñando

- estar + 現在分詞
- estuve soñando = 私は夢を見ていたのか

estuve は estar の点過去です。

→ 「あの時間ずっと夢を見ていたのだろうか」

o fue cruel verdad

語順としては詩的で、

o fue una cruel verdad

に近い意味です。

- cruel = 残酷な
- verdad = 真実、現実

→ 「それとも残酷な現実だったのか」

全体の意味

このワルツの主人公は、すでに人生に疲れ、愛への希望まで失っていたときに一人の女性と出会います。

彼女によって再び愛する喜びを知り、

Sólo sé que te amé locamente

ただ、君を狂おしいほど愛したことだけは分かっている。

二人は口づけの中で永遠の愛を誓います。

ところが彼女は突然去ってしまう。

そのため主人公は、

¿Cómo fue que has podido dejarme?

愛すると誓った君が、どうして僕を捨てられたのか。

と問い続けます。

そして面白いのは、第一節と最後が呼応していることです。

最初は、

no sé si he soñado o fue realidad

「夢だったのか、現実だったのか分からない」

最後は、

si estuve soñando o fue cruel verdad

「夢を見ていたのか、それとも残酷な現実だったのか」

となっています。

つまりこの歌全体を貫いているのは、

「あれほど幸福だった愛は、本当に存在したのだろうか」

という感覚です。

そして特に美しいのが、

Fue tan grande la dicha vivida

cuán grande es la herida que hoy llevo en el alma.

「味わった幸福が大きかったのと同じだけ、

今、魂に負っている傷も大きい。」

という部分です。

幸福の大きさ＝現在の傷の大きさという対照が、この曲の核心だと思います。Raúl Berón の柔らかに抑制された歌い方にも非常によく合う歌詞です。

[Index](#)

Nunca supe porque -42 Lucio Demare con Juan Carlos

Miranda

Composer: Raúl Kaplún Author: Luis Rubinstein
Artist : Orquesta Lucio Demare con Juan Carlos Miranda
Genre : Vals Recorded : 1942-07-20

Nunca supe por qué

「なぜなのか、ついに分からなかった」

- **nunca** = 一度も～ない、決して～ない
- **supe** = *saber*「知る、分かる」の点過去 1 人称単数
- **por qué** = なぜ

supe は単なる「知っていた」ではなく、この文脈では「結局、理由を知ることができなかった」というニュアンスです。

Una noche de brumas te vi

霧の立ちこめるある夜、僕は君を見た。

文法

- **una noche** = ある夜
- **de brumas** = 霧の、霧に包まれた
- **te** = 君を
- **vi** = *ver*「見る」の点過去 1 人称単数

直訳すると、

「霧の夜に、私は君を見た」

です。

bruma は「霧、靄」ですが、タンゴではしばしば悲しみや不安を暗示する情景語として使われます。

Sollozando no sé qué penar,

何の悲しみなのか分からないまま、君はすすり泣いていた。

文法

- **sollozando** = *sollozar*「すすり泣く」の現在分詞
- **no sé** = 私には分からない
- **qué** = どんな、何という
- **penar** = 苦しみ、悲しみ

ここでの **penar** は動詞「苦しむ」から来ていますが、詩的に「苦悩、悲しみ」

という名詞的な意味になっています。

no sé qué penar

= 「どんな苦しみなのか私には分からない」

したがって、

「何か得体の知れない悲しみにすすり泣いていた」

という感じです。

Y tus ojos cansados y tristes estaban ardiendo de tanto llorar.

そして、疲れ果てた悲しい君の瞳は、あまりに泣いたために燃えるように赤くなっていた。

文法

- **tus ojos** = 君の目
- **cansados y tristes** = 疲れた、そして悲しい
- **estaban ardiendo** = 燃えていた
- **arder** = 燃える、ひりひりする
- **de tanto llorar** = あまりにも泣いたために

重要なのは、

de + tanto + 不定詞

です。

de tanto llorar

= 「あまりにも泣いたので」

例えば、

- **de tanto trabajar** = 働きすぎて
- **de tanto pensar** = 考えすぎて

となります。

ここで **ardiendo** は文字通り炎が出ているのではなく、
泣き腫らして目が熱く、赤くなっている
という表現です。

Yo llegué como un sueño en tu adiós

君が別れようとしていたその時、僕は夢のように君の前に現れた。

文法

- **yo llegué** = 僕はやって来た
- **como un sueño** = 夢のように
- **en tu adiós** = 君の別れの中に／君が別れようとしていた時に

adiós は普通「さようなら」ですが、ここでは名詞として
「別れ」

を意味します。

en tu adiós は非常に詩的で、

「君が何かに別れを告げようとしていた人生の瞬間に」
という感じがあります。

Y te traje la luz de mi fe,

そして僕は、君に僕の信じる心の光をもたらした。

文法

- **te** = 君に
- **traje** = *traer* 「持ってくる」の点過去 1 人称
- **la luz** = 光
- **de mi fe** = 僕の信念／信じる心の

fe は本来「信仰、信念」ですが、この歌では宗教的というより、
愛を信じる心、人生への希望

でしょう。

つまり、

「絶望していた君に、僕は希望を与えた」

という意味です。

Mas no sé por qué raro destino te perdí, nunca supe por qué.

けれど、どんな不思議な運命のせいで君を失ったのか、僕には分からない。ついにその理由を知ることはなかった。

文法

- **mas** = しかし
※アクセントなしの **mas** は古風・文学的な **pero**
- **no sé** = 分からない
- **por qué raro destino** = どんな奇妙な運命によって
- **te perdí** = 君を失った
- **nunca supe por qué** = なぜなのか、ついに分からなかった

perdí は *perder* 「失う」の点過去。

ここが曲の中心です。

彼女が去った理由が明確に語られないため、

「僕の何が悪かったのか」

「君に何があったのか」

「なぜ愛が終わったのか」

すべてが分からないままなのです。

Qué raro sentimiento está en tu ser,

君の心の奥には、いったいどんな不思議な感情があるのだろう。

文法

- **qué raro sentimiento** = なんという奇妙な感情／どんな不可思議な感情
- **está** = ある
- **en tu ser** = 君という存在の中に

ser はここでは動詞「～である」ではなく名詞。

tu ser

= 「君の存在」「君の心の奥」「君という人間そのもの」
かなり詩的な表現です。

qué rutas insondables de dolor,

どんな測り知れない苦しみの道を、君は歩いてきたのだろう。

文法

- **qué rutas** = どんな道
- **insondables** = 測り知れない、底知れない
- **de dolor** = 苦しみの

insondable は

- **sondar** = 深さを測る、探る
- **in-** = 否定

から、

「深すぎて測ることのできない」

という意味。

文としては動詞が省略されています。

前後から、

Qué rutas insondables de dolor [hubo en tu vida]?

のようなニュアンスです。

que fue interminable padecer

どれほど果てしない痛みだったのだろう、

文法

この部分は歌詞特有の倒置・省略があります。

- **interminable** = 終わりのない
- **padecer** = 苦しむこと、苦悩

padecer は不定詞ですが、名詞的に

「痛み」

を意味しています。

自然には、

「いったいどれほど果てしない痛みだったのだろう」

と取れます。

que hicieron que te olvidas del amor.

それらの痛みが、君に愛を忘れさせてしまったのだろう。

文法

ここは重要です。

hacer que + 接続法

= 「～するようにさせる」

- **hicieron** = *hacer* の点過去 3 人称複数
- **que te olvidas** = 君が忘れるように
- **olvidarse de ~** = ~を忘れる
- **del amor** = 愛を

te olvidas が接続法なのは、

hacer que が「人に～させる」という働きかけを表すからです。

主語は前の

sentimientos / rutas / padecer

など、彼女が経験したさまざまな痛みだと考えられます。

つまり、

「どんな痛みが、君から愛する心を奪ってしまったのか」

と問いかけています。

Qué ansias torturaban tu existir,

どんな苦悩が、君の人生を責めさいなんでいたのだろう。

文法

- **qué ansias** = どんな苦悩、どんな焦燥
- **torturaban** = 苦しめていた
- **tu existir** = 君の生、君の存在

ansia は文脈により、

- 渴望
- 不安
- 焦燥
- 苦悩

などを意味します。

ここでは明らかに暗い意味なので、

「苦悩」「焦燥」

が適切です。

existir も不定詞が名詞化して、

tu existir = 君の生、君の人生

となっています。

qué angustia cobijó tu desamor,

どんな苦悶が、君の愛を失った心を包み込んでいたのだろう。

文法

- **angustia** = 苦悶、不安、胸を締めつける苦しみ
- **cobijó** = *cobijar*「覆う、かくまう、包む」の点過去
- **tu desamor** = 君の愛の喪失、愛さなくなった心

desamor は訳しにくい言葉です。

amor (愛) に否定・反対の **des-** がついて、

- 愛の欠如
- 愛が冷めたこと
- 愛さなくなった状態

を意味します。

ここでは、

「何が君の心を覆い、愛することをやめさせたのだろう」

という問いです。

tan sólo me dejaste al partir, tu corazón.

君が去る時、僕に残していったのは、ただ君の心だけだった。

文法

- **tan sólo** = ただ～だけ
- **me dejaste** = 君は僕に残した
- **al partir** = 去る時に
- **tu corazón** = 君の心

al + 不定詞

= 「～するとき」

したがって、

al partir

= 「去る時に」

語順としては、

Tan sólo me dejaste tu corazón al partir.

が普通ですが、詩では **tu corazón** を最後に置いて強調しています。

ただし意味として少し逆説的です。

彼女自身は去ったのに、主人公の中には、

彼女の心の記憶だけが残された

ということなのでしょう。

Tal vez no fue mi amor, tu realidad,

たぶん僕のアは、君が求めていた現実ではなかったのだろう。

文法

- **tal vez** = たぶん、もしかすると
- **no fue** = ～ではなかった
- **mi amor** = 僕のア

- **tu realidad** = 君にとっての現実

語順としては、

Tal vez mi amor no fue tu realidad.

と考えれば分かりやすいです。

ここで主人公は初めて、

もしかしたら自分の愛そのものが彼女には合わなかったのでは

と考え始めます。

ni hallaste en mi cariño, tu sentir,

そして僕の愛情の中にも、君自身の想いを見いだすことができなかったのだろう。

文法

- **ni** = ~もまた...ない
- **hallaste** = *hallar* 「見つける」の点過去 2 人称
- **en mi cariño** = 僕の愛情の中に
- **tu sentir** = 君の感情、君の心

sentir も不定詞ですが名詞として使われています。

tu sentir

= 「君の感じ方」「君の心」「君の想い」

つまり、

「僕は君を愛していた。でも、その愛の中に君は自分の求めるものを見つけられなかったのかもしれない」

という意味です。

yo solo sé la única verdad

僕に分かっているただ一つの真実は、

文法

- **yo sólo sé** = 僕が知っているのはただ～
- **la única verdad** = 唯一の真実

現在形 **sé** です。

過去のこととは分からないけれど、

今**確実に**分かっていることが一つだけある

と続きます。

que tengo en tu recuerdo, mi sufrir.

君の思い出の中に、僕の苦しみがあるということだけだ。

より自然に言えば、

君を思い出すたび、そこにあるのは僕の苦しみだけだ。

文法

- **tengo** = 私は持っている
- **en tu recuerdo** = 君の思い出の中に
- **mi sufrir** = 僕の苦しみ

ここでも **sufrir** が名詞化しています。

mi sufrir

= 「僕の苦しみ」

通常なら **mi sufrimiento** と言えますが、歌詞では不定詞を使うことで詩的になります。

この二行はまとめて、

Yo solo sé la única verdad:

que tengo en tu recuerdo mi sufrir.

と理解できます。

つまり、

「僕に分かる唯一の真実は、君の思い出が僕に苦しみを与えているということだ」
です。

Por eso, sos un sueño que se fue,

だから君は、去ってしまった一つの夢なのだ。

文法

- **por eso** = だから
- **sos** = 君は～である
- **un sueño** = 夢

- **que se fue** = 去っていった

sos はアルゼンチン・リオプラテンセススペイン語の **voseo**。
標準スペイン語の
tú eres
に相当します。
タンゴでは非常によく出てきます。
se fue
= 「去ってしまった」
なので、
un sueño que se fue
= 「消えてしまった夢」
という美しい表現です。

un sueño que quizás no vuelva más,
もしかすると、もう二度と戻ってこない夢。
文法

- **quizás** = たぶん、もしかすると
- **no vuelva** = 戻らない
- **más** = もう、これ以上

vuelva は *volver* の接続法現在。
なぜ接続法かというと、
quizás が不確実な可能性を表しているからです。
quizás no vuelva más
= 「もしかすると、もう戻ってこないかもしれない」

llevándose mi amor y mi fe
僕の愛と、信じる心を持ち去りながら、
文法

- **llevándose** = 持ち去りながら
- **llevarse** = 持っていく、持ち去る
- **mi amor** = 僕の愛
- **mi fe** = 僕の信じる心、希望

これは前の
un sueño que se fue
を説明しています。
夢＝彼女が去っていき、その時に主人公の
愛、希望、魂、心の平安
まですべて持っていったという構造です。

mi alma y mi paz.
僕の魂も、僕の心の安らぎも。
文法

- **mi alma** = 僕の魂
- **mi paz** = 僕の平安、心の安らぎ

前の行から続いて、
llevándose
mi amor y mi fe,
mi alma y mi paz
=
「僕の愛も、希望も、魂も、安らぎも持ち去って」
という一つの文になっています。

繰り返し
Yo llegué como un sueño en tu adiós
君が別れようとしていたその時、僕は夢のように君の前に現れた。

Y te traje la luz de mi fe,
そして僕は、君に希望の光をもたらした。

Mas no sé por qué raro destino te perdí, nunca supe por qué.

けれど、どんな奇妙な運命のせいで君を失ったのか、僕には分からない。
なぜなのか、僕はついに知る事ができなかった。

全体の意味

この曲のおもしろいところは、単なる

「恋人に捨てられた」

という歌ではないことです。

主人公が彼女と出会った時、彼女はすでに、

Sollozando...

「すすり泣き」

tus ojos cansados y tristes...

「疲れた悲しい目をして」

深い苦しみを抱えていました。

そこに主人公が現れて、

te traje la luz de mi fe

「僕は君に希望の光をもたらした」

と言います。

つまり彼は、彼女を救ったつもりだった。

ところが彼女は去ってしまう。

そこで主人公は彼女を責めるよりも、

Qué raro sentimiento...

Qué ansias...

Qué angustia...

と、

「君の心の中には、僕には理解できないどんな苦しみがあったのだろう」

と問い続けます。

そして最後には、

Tal vez no fue mi amor, tu realidad

「もしかしたら、僕の愛は君が求めていたものではなかったのかもしれない」

と、自分の愛さえ疑い始めます。

しかし結局答えは得られません。

だから題名の

Nunca supe por qué

は、単純な

「なぜか分からなかった」

以上に、

「君がなぜ去ったのか、どれだけ考えても最後まで理解できなかった」

という、非常に切ない言葉になっています。

特に最後の

un sueño que se fue,

un sueño que quizás no vuelva más,

llevándose mi amor y mi fe

mi alma y mi paz

は、

「君は消えていった夢。もう二度と戻らないかもしれない夢。僕の愛も希望も、魂も安らぎもすべて持ち去ってしまった夢」

という、このワルツの核心だと思います。

[Index](#)

Estan Sonando Las Ocho - 44 Lucio Demare con Horacio

Quintana

Composer: Juan Larenza Author: Cátulo Castillo
Artist : Orquesta Lucio Demare con Horacio Quintana
Genre : Tango Recorded 1944-07-24

Están sonando las ocho

8 時の鐘が鳴っている

estar + 現在分詞→「今まさに している」

- **están sonando** = 鳴っている
- **las ocho** = 8 時、8 時を告げる鐘

直訳すると「8 時が鳴っている」ですが、日本語では「8 時の鐘が鳴っている」が自然です。

1 Las ocho de un reloj de ya hace mucho

ずっと昔の、ある時計の 8 時の鐘が

文法

- **las ocho** = 8 時／8 時を告げる鐘
- **de un reloj** = ある時計の
- **hace mucho** = ずっと昔に
- **ya hace mucho** = もうずいぶん昔のこと

de ya hace mucho は非常に詩的な言い方で、「もうずっと昔の」という意味です。

したがって、

un reloj de ya hace mucho= 「遠い昔の時計」という感覚です。

2 Que vuelve en esta noche a desplomar,

今夜また、重くのしかかってくる、

文法

volver a + 不定詞= 再び する

- **vuelve a desplomar** = 再び崩れ落ちる／再び重く落ちかかる
- **en esta noche** = この夜に、今夜

desplomar(se) は本来、

崩れ落ちる倒れるという強い動詞です。

ここでは時計が 8 時を打つ音が、まるで重いもののように「落ちてくる」という比喻。

→ 「今夜もまた重くのしかかる」と訳すと雰囲気が出ます。

3 Sobre este mismo nido que te tuvo

かつて君を抱いていた、この同じ愛の巣の上に、

文法

- **sobre** = の上に
- **este mismo** = まさにこの同じ
- **nido** = 巣
- **te tuvo** = 君を持っていた、君を宿していた

tener a alguien= 誰かをそこに置いている／抱えている

nido (巣) はここでは文字通りの鳥の巣ではなく、二人が暮らした家愛の巣の比喻です。

que te tuvo→「君がかつてここにいた」という意味になります。

4 Sus ocho puñaladas de ansiedad...

不安に満ちた八つの刃を突き立てながら.....

直訳：

「その八つの、不安の短剣の一撃を」

文法・語彙

- **ocho** = 八つ
- **puñalada** = ナイフ・短剣で刺すこと、一刺し

- **ansiedad** = 不安、焦燥、胸を締めつける思い
- **de ansiedad** = 不安の／苦悶の

8 時なので、時計が 8 回打つ。その一打ち一打ちを **puñalada**（短剣の一刺し）にたとえています。つまり、**8 回の鐘 = 胸を 8 回刺されること**です。
非常にタンゴらしい表現です。

ここまでつなげると

ずっと昔からある時計の 8 時の鐘が、今夜もまた、かつて君を抱いていたこの愛の巢に、苦悶の八つの刃となって重く突き刺さる.....というイメージです。

5 Fantasmas de un ayer con el que lucho

僕が今も抗い続ける過去の亡霊たち、

文法

- **fantasmas** = 幽霊、亡霊
- **un ayer** = ある過去、昔
- **con el que** = それと
- **lucho** = 私は戦う

luchar con ~ = ~と戦う

el que の **el** は **ayer** を受けています。

un ayer con el que lucho 私が戦っている過去つまり、忘れられない過去の記憶を「亡霊」と呼んでいます。

6 Bajo este mismo techo en que esperé,

僕が待ち続けた、この同じ屋根の下に、

文法

- **bajo** = ~の下で
- **este mismo techo** = このまさに同じ屋根
- **en que** = そこで
- **esperé** = 私は待った

techo は「屋根」ですが、家、住まいを象徴しています。

en que = en el que です。

7 Alguna noche así, de ya hace mucho

こんな夜に、もうずっと昔のある夜に、

文法

- **alguna noche** = ある夜
- **así** = このような
- **hace mucho** = ずっと昔
- **de ya hace mucho** = もう遠い昔の

語順がかなり詩的です。

普通に整理すると、**alguna noche así, hace ya mucho**

「もうずっと昔、こんな夜に」という感じです。

8 Perdida en el dolor con que te amé...

君を愛したあの痛みの中に、今では消えてしまった夜.....

文法

- **perdida** = 失われた、埋もれた
- **en el dolor** = 痛みの中に
- **con que te amé** = それでもって私は君を愛した

perdida は女性形なので、前の **noche** を修飾しています。

つまり、**alguna noche ... perdida**

「失われてしまった、ある夜」です。

el dolor con que te amé

直訳すると、「君を愛した、その痛み」愛そのものが苦痛だった、あるいは愛した記憶が今は苦痛になっている、という二重の意味があります。

サビ

9 Ya están sonando las ocho

もう 8 時の鐘が鳴っている

文法

- **ya** = もう、すでに
- **están sonando** = 鳴っている

タイトルより **ya** が入ることで、「ああ、またその時間が来てしまった」という感じが強くなります。

10 Y al repetir su din dan,

そして「ディン、ダン」と鐘の音を繰り返すたび、

文法

al + 不定詞

= ～するとき／～する際に

- **al repetir** = 繰り返すとき
- **su din dan** = その「ディン・ダン」という音

din dan は時計の鐘の擬音です。

日本語ならカーン、カーンゴーン、ゴーンに近いですが、歌詞としては「ディン・ダン」のままでもよいでしょう。

11 Dicen tu nombre otro poco

もうひとたび、君の名を呼ぶ

文法

- **dicen** = 彼らは言う
- **tu nombre** = 君の名前
- **otro poco** = もう少し、もうひとしきり

主語は暗黙的に

las ocho / las campanadas (8 時を告げる鐘の音) です。

decir el nombre de alguien = 人の名前を口にする

ここでは鐘が鳴るたびに、亡き女性の名前を呼んでいるように聞こえる。

12 Dicen tu nombre... y se van...

君の名を呼んで.....そして消えてゆく.....

文法

- **se van** = 去っていく

irse = 立ち去る、消えていく

鐘の音が一つずつ響き、名前を呼んでは消えていくという幻想的な描写です。

13 Ya están sonando las ocho

もう 8 時の鐘が鳴っている

同じフレーズの繰り返しです。

しかしここでは、単なる時刻ではなく**毎晩訪れる記憶の時間**になっています。

14 Y en mi inútil añorar,

そして、叶うことのない僕の追慕の中で、

文法

- **inútil** = 無駄な、何の役にも立たない
- **añorar** = 懐かしむ、恋しく思う

面白いのは **añorar** が本来動詞なのに、**mi añorar** と名詞のように使われていることです。

詩語で、私が恋しく思うこと私の追慕という意味。

inútil añorar → どれほど恋しく思っても彼女は戻らないので、「むなしい追慕」です。

15 Yo sé, también, que es en vano

僕にも分かっている、それが虚しいことは、

文法

- **yo sé** = 私は知っている
- **también** = ～もまた
- **en vano** = 無駄に、むなしく

ser en vano = 無駄である、むなしい次の行と続きます。

16 Que espere tu mano...

君の手を待ち続けることが.....

文法

ここは少し難しいです。

que espere は **esperar** の接続法現在。

sé que es en vano que espere... = 「私が～を待つことが無駄だと分かっている」

通常の散文なら、**Sé que es en vano esperar tu mano.**とも言えます。

tu mano は単に「君の手」ですが、ドアを叩く彼女の手自分へ差し伸べられる手を暗示していると考えられます。

17 Ya están sonando las ocho

もう 8 時の鐘が鳴っている

18 Y ella, nunca llamará...

そして彼女が扉を叩くことは、もう二度とない.....

文法

- **ella** = 彼女
- **nunca** = 決して～ない
- **llamará** = **llamar** の未来形

llamar は普通、

呼ぶ電話するですが、スペイン語では

llamar a la puerta = ドアをノックするという意味にもなります。

この歌では前に **tu mano** 君の手を待つとあるため、

ella nunca llamará は、「彼女はもう扉を叩きに来ない」と理解すると非常に自然です。

そして次の節で、その理由がはっきりします。

第 2 節

19 Las ocho del reloj te lloran muerta

時計の 8 時の鐘が、死んだ君を悼んで泣いている

ここで初めて、彼女が亡くなっていることが明示されます。

文法

- **las ocho del reloj** = 時計の 8 時の鐘
- **te lloran** = 君を悼んで泣く
- **muerta** = 死んだ状態で

llorar a alguien

スペイン語の **llorar** は、**llorar a una persona** で「人の死を嘆く、悼む」という意味になります。

したがって、**te lloran muerta** は単なる「君を泣く」ではなく、死んでしまった君を悼んでいるという意味です。

20 Y en esta ausencia amarga de tu voz,

そして、君の声がないこの苦い空白の中で、

文法

- **ausencia** = 不在、欠如
- **amarga** = 苦い、つらい
- **de tu voz** = 君の声の

直訳：

「君の声の、この苦い不在の中で」日本語なら、

「君の声が失われた、このつらい空白の中で」くらいが自然です。

amargo はタンゴ歌詞でよく、苦しい悲しいやるせないという感情を表します。

21 Regresas, cada noche, hasta mi puerta

君は毎晩、僕の扉まで帰ってくる

文法

- **regresas** = 君は戻ってくる
- **cada noche** = 毎晩
- **hasta mi puerta** = 私の扉まで

実際には彼女は死んでいるので戻ってきません。それでも鐘の音によって、記憶の中の彼女だけが毎晩帰ってくるのです。

ここが非常に美しいところです。

22 Golpeando en las campanas del adiós...

別れの鐘を打ち鳴らしながら.....

直訳に近くすると、

「別れの鐘の中で、扉を叩きながら」

文法

- **golpeando** = golpeando、叩きながら
- **golpear** = 叩く、打つ
- **campanas** = 鐘
- **del adiós** = 別れの

ここでは二つのイメージが重なっています。

彼女が扉をノックする音と、時計が8時を打つ鐘の音が同じものになっています。

つまり鐘が鳴るたび、「彼女が帰ってきて扉を叩いている」ように主人公には聞こえる。

しかしそれは、**campanas del adiós**「別れの鐘」でしかありません。

最後のサビ

23 Ya están sonando las ocho

もう8時の鐘が鳴っている

24 Y al repetir su din dan,

そして「ディン、ダン」と鐘の音を繰り返すたび、

25 Dicen tu nombre otro poco

もうひとたび、君の名を呼ぶ

26 Dicen tu nombre... y se van...

君の名を呼んで.....そして消えてゆく.....

全体を自然な日本語でまとめると

この歌の中心にあるのは、「毎晩8時になると、時計の鐘が亡くなった恋人の記憶を呼び戻す」という情景です。

特に印象的なのが、**sus ocho puñaladas de ansiedad** 苦悶の八つの刃です。

8時を告げる8回の鐘が、そのまま主人公の胸を刺す8回の短剣になっています。

そして後半では、

Regresas, cada noche, hasta mi puerta

君は毎晩、僕の扉まで帰ってくると言いながら、その直前には **te lloran muerta** 死んだ君を悼んで泣いているとあります。

つまり彼女は現実には帰ってきません。帰ってくるのは記憶の中だけです。

そして時計の鐘が、

彼女が扉をノックする音

↓

彼女の名前を呼ぶ音

↓

永遠の別れを告げる鐘へと変化していきます。

特に重要な4つの表現

スペイン語 意味

volver a + 動詞 再び～する

al + 不定詞 ～するとき、～する際に

en vano むなしく、無駄に

llorar a alguien 人の死を嘆く、悼む

この曲は「恋人に捨てられた男」の歌ではなく、死によって永遠に失った女性を、毎晩同じ時刻に思い出す男の歌だと分かったら、サビの「**Ya están sonando las ocho**」が非常に重く聞こえてきます。

[Index](#)

Y suma y sigue... -55 Juan D'Arienzo con Alberto

Echagüe

作詞 : Carlos Bahr

作曲 : Juan D'Arienzo / Fulvio Salamanca

歌 : Alberto Echagüe

録音 : 1952 年 8 月 13 日

タイトル

Y suma y sigue...

訳 : そして、まだまだ続く.....／そして勘定は積み重なっていく.....

- **sumar** = 足す、加算する
- **seguir** = 続く
- **suma y sigue** は「次から次へと続く」「まだまだ続く」という慣用的表現。
- この歌では、人生で味わう失望や世間の冷たさが次々と積み重なっていくという皮肉が込められています。

第 1 節

No me gusta andar con vivos y a los giles les doy pase,

訳 : ずる賢い奴らとは付き合いたくないし、間抜けな奴らは相手にしない。

- **No me gusta + 不定詞**
「私は～するのが好きではない」
- **andar con ~**
直訳は「～と歩く」ですが、「～と付き合う、行動を共にする」。
- **vivo**
本来は「生きている」「賢い」。ここでは俗語で「抜け目のない奴、ずる賢い奴」。
- **gil**
ルンファルドで非常に重要な語。
「間抜け、世間知らず、騙されやすい奴」。
- **dar pase a alguien**
ここでは「通り過ぎさせる」→「相手にしない、無視する」。

A los otros, si es preciso, los atiendo y se acabó,

訳 : それ以外の奴なら、必要とあれば相手をして、それで終わりだ。

- **a los otros** = その他の人々には
- **si es preciso** = 必要なら
- **atender a alguien** = 人に応対する、相手をする
- **los atiendo**
los は **a los otros** を受けています。
- **se acabó**
「終わった」→
「それまでだ」「それでおしまいだ」

Si la mala se encabrita, me la aguanto hasta que amanse

訳 : 不運が荒れ馬のように暴れ出しても、おとなしくなるまで俺は耐える。

- **la mala**
ここでは **la mala suerte** 「不運」の省略と考えると分かりやすい。
- **encabritarse**
馬が後脚で立ち上がる、暴れる。
比喩的に「手に負えなくなる」。
- **aguantarse algo** = ～を我慢する、耐える
- **me la aguanto**
la = **la mala**
- **hasta que + 接続法**
「～するまで」

- **amanse** は **amansar / amansarse**
「おとなしくなる、飼い慣らされる」。

Y aunque siempre hay un amigo, curo a solas mi dolor.

訳：友と呼べる奴がいつも一人くらいはいても、俺は自分の苦しみを一人で癒す。

- **aunque** = ～とはいえ、～にもかかわらず
- **hay un amigo** = 友人がいる
- **curar** = 治す、癒す
- **a solas** = 一人きりで
- **mi dolor** = 私の苦しみ、悲しみ

ここには「結局、本当の苦しみは自分一人で背負うものだ」という主人公の人生観があります。

第2節

Me enseñó la mala racha, que la suerte es mina ilusa

訳：不運続きの日々が俺に教えた。運というものは気まぐれで当てにならない女だと。

- **me enseñó** = 私に教えた
- 主語は **la mala racha**
- **mala racha** = 不運続き、悪い時期
- **suerte** = 運、幸運
- **mina**
ルンファルドで「女」。
- **ilusa**
「幻想的な、夢見がちな、当てにならない」

つまり「幸運」を女性に擬人化しています。

Y al final se queda siempre con aquel que está “guiyao”,

訳：そして結局、幸運はいつも懐の豊かな奴のところに居座る。

- **al final** = 結局
- **quedarse con alguien** = ～のところに残る
- **aquel que** ～ = ～するあの者
- **guiyao / guiyao**
歌詞注釈にある通り
「ポケットがいっぱいの＝金を持っている」。

したがって、

la suerte se queda con aquel que está guiyao

= 「幸運は金持ちの味方をする」
という皮肉です。

Y aprendí en los desencantos que si afloja el de la zurda

訳：そして数々の失望から学んだ。左胸のやつが弱ってしまったなら――

- **aprendí** = 私は学んだ
- **desencanto** = 幻滅、失望
- **aflojar** = 緩む、弱くなる
- **zurda**
本来は「左手、左側」。
- **el de la zurda**
直訳は「左側にあるもの」。

ここでは婉曲的に

「左胸にあるもの＝心臓」
を指しています。

Es mejor que te amasijes, porque al fin irás palmao.

訳：いっそ自分でくたばってしまったほうがいい、どうせ最後には死ぬんだから。
かなり荒っぽく、投げやりな表現です。

- **es mejor que + 接続法**
「～したほうがよい」

- **amasijar**
ルンファルドで「殴り殺す、殺す」。
amasijarse なら「自分を殺す／くたばる」といった非常に強い表現。
- **palmar**
俗語で「死ぬ」。
- **palmao** = *palmado* の口語的発音
- **irás palmao**
「最後には死んでいるだろう」

ここは文字どおりの勧めではなく、主人公の極端にシニカルな人生哲学を表しています。

第3節

Aunque seas bien derecho, si andás seco te dan pifia

訳：どれほど真っ正直な人間でも、金がなければ相手にもされない。

- **aunque seas**
ser の接続法 *seas*。
「たとえ～であっても」
 - **derecho**
ここでは「まっすぐな」→
正直な、まともな人物。
 - **andás**
リオプラテンセ・スペイン語の **vos** 活用。
標準語の *andas*。
 - **seco**
本来「乾いた」。俗語では
「金欠の、無一文の」。
 - **dar pifia**
無視する、相手にしない、はねつける、というニュアンス。
-

Trabajando sos cualquiera y afanando sos señor,

訳：真面目に働いていればただの凡人、盗んで稼げば旦那様扱いだ。

- **trabajando** = 働いて
- **sos** = *ser* の **vos** 活用
tú の *eres* に相当。
- **cualquiera** = ただの人、取るに足りない人
- **afanar**
ルンファルドで
「盗む、かっぱらう」。
- **señor** = 紳士、旦那、立派な人物

非常に皮肉な対比です。

trabajar → **cualquiera**

afanar → **señor**

つまり、

「正直者より悪党の金持ちのほうが尊敬される社会」
を批判しています。

Porque al fin hasta la grela que comparte tu cobija

訳：というのも、同じ布団で寝る女でさえ、結局は――

- **hasta** = ～でさえ
 - **grela**
ルンファルドで「女」。
文脈によっては軽蔑的な響きがあります。
 - **compartir** = 分かち合う
 - **cobija** = 毛布、寝床
 - **compartir tu cobija**
「君と同じ寝床を共にする」
→ 恋人・妻・愛人などを指す。
-

Cuando ve mangos en fila no pregunta cuántos son.

訳：札束が並んでいるのを見れば、それがいくらあるのかなんて聞きもしない。

- **cuando ve** = ～を見ると
- **mangos**
アルゼンチン俗語で「金、ペソ」。
現代アルゼンチンでも使われます。
- **en fila** = 一列に並んだ
- **cuántos son** = いくつあるのか／いくらなのか

要するに、
「金さえ見えれば、その金の素性など気にしない」
という意味につながります。

第4節

Además, nadie pregunta de qué lado salió la buena

訳：それに、誰もその金がどこから転がり込んできたのかなんて聞きはしない。

- **además** = さらに、それに
 - **nadie** = 誰も～ない
 - **de qué lado** = どちら側から、どこから
 - 歌では発音を反映して **lado < lado**
 - **salió** = 出てきた
 - **la buena**
文脈上「幸運・儲け・金」を指す俗語的表現。
-

La importancia está en los mangos, aunque salgan de lo peor,

訳：大事なのは金があること、それがどんな汚いところから出た金だろうとかまわれない。

- **la importancia está en** ～
「重要なのは～にある」
 - **mangos** = 金
 - **aunque salgan**
salir の接続法。
「たとえ～から出てきたとしても」
 - **de lo peor**
「最悪のところから」
→ 不正、犯罪、汚い手段などを暗示。
-

Y aprendés al triste precio, de tu credo en esta feria

訳：そして、この世という市で信念を貫いた、その悲しい代償として学ぶのだ。

- **aprendés** = vos の「君は学ぶ」
- **al precio de** ～ = ～を代償として
- **triste precio** = 悲しい代償
- **credo** = 信条、信念
- **feria** = 市場、見世物市

ここでは **esta feria** が、
「この世、人間社会」
の比喻です。

Que ni tiñe la vergüenza, ni la guita tiene honor.

訳：恥は金に色を付けることもなく、金そのものに名誉などありはしない、と。
少し詩的で難しい一節です。

- **teñir** = 染める、色をつける
- **vergüenza** = 恥、羞恥
- **guita**
ルンファルドで「金」。
- **tener honor** = 名誉がある

つまり、
「汚い方法で得た金だからといって、札に“恥”の色が付いているわけではない」
という強烈な皮肉です。
言い換えれば、
「金には、きれいな金も汚い金も見目の区別はない」
ということです。

第5節

Me enseñaron los “amigos”, que estás firme si hay rebusque

訳：「友人たち」が教えてくれた。金になる話がある間だけ、人間関係は安泰なのだと。

- **me enseñaron** = 私に教えた
- **los “amigos”**
引用符付きなので、本当の友人ではない皮肉。
- **estar firme** = 安定している、しっかりしている
- **rebusque**
アルゼンチン俗語で
「小遣い稼ぎ、儲け口、何とか金を作る手段」。

つまり、
「利用価値がある間だけ友達でいてくれる」。

Aprendí de los extraños que hay que abrirse del favor,

訳：他人からは、人の好意など当てにせず距離を置くべきだと学んだ。

- **aprendí de** ～ = ～から学んだ
- **extraños** = 他人、見知らぬ人
- **hay que + 不定詞** = ～しなければならない
- **abrirse**
俗語的に「離れる、立ち去る、避ける」
- **favor** = 親切、好意、恩恵

abrirse del favor

= 「他人の好意を当てにするな」というニュアンス。

Y la vez que por humano, le di cuarta a un gil cualquier

訳：そして一度、人情から、どこの馬の骨とも知れない間抜けに手を貸したら――

- **la vez que** ～ = ～した時
 - **por humano**
「人間らしい情から」
→ 人情にほだされて。
 - **dar cuarta**
ルンファルド的表現で
「助ける、手を貸す、援助する」。
 - **gil** = 間抜け、愚か者
 - **cualunque**
イタリア語の影響を感じさせる俗語形で、標準語なら **cualquiera**。
「どこの誰とも知れない奴」。
-

Me dejó en la puerca vía, sin confianza y sin colchón.

訳：そいつは俺をどん底に放り出し、信用も寝床も何もかも失わせた。

- **me dejó** = 私を～の状態に残した
- **puerca** = 汚い、ひどい
- **vía** = 道
- **en la puerca vía**
文字どおりなら「ひどい道端に」。
意味としては
「惨めな状態に、路頭に」。
- **sin confianza** = 信用を失って
- **sin colchón** = マットレスもなく

colchón は実際の寝具であると同時に、
「最低限の生活基盤まで失った」というイメージがあります。

第6節

Los demás te van sacando, por la pinta, como al naípe

訳：世間の奴らは、カードを見抜くように、見た目だけでお前がどんな人間か値踏みしていく。

- **los demás** = 他の人々、世間の人々

- **ir + gerundio**
van sacando
「次第に判断していく、見抜いていく」
- **sacar a alguien**
文脈によって「～だと判断する、見抜く」
- **pinta** = 外見、風貌
- **naipe** = トランプ札
- **como al naipe**
「カードを読むように」

Y al marcarte, “gil en puerta”, pregonando fe y amor,

訳：そしてお前を「カモが来たぞ」と見定めると、信頼だの愛情だのを大声で並べ立てる。

- **al + 不定詞**
al marcarte = お前を見定めると
- **marcar** = 印をつける、目を付ける
- **gil en puerta**
直訳は「入口に間抜けがいる」。

ここでは、
「カモが来た」「騙しやすい奴を見つけた」
という意味。

- **pregonar** = 声高に宣伝する、触れ回る
- **fe** = 信頼、信念
- **amor** = 愛

つまり詐欺師のように、
「友情」「信用」「愛情」といった美しい言葉を使って近づくわけです。

Te saquean hasta el alma y después te dan el raje

訳：奴らはお前の魂まで根こそぎ奪い、そのあとで追い払う。

- **saquear** = 略奪する、根こそぎ奪う
- **hasta el alma** = 魂まで
- **después** = その後
- **dar el raje**

アルゼンチン俗語で
「追い払う、クビにする、捨てる」。

rajar = 逃げる、立ち去る、追い出す。

Pero nadie mira nunca, que tenés un corazón.

訳：だが、お前にも心があるということには、誰一人目を向けてくれない。

- **nadie ... nunca**
強い否定で
「誰も決して～ない」
- **mirar que ~**
ここでは「～ということに目を向ける」
- **tenés**
vos 活用。標準語 *tienes*。
- **un corazón** = 一つの心

最後に初めて、主人公の本音が出ます。

それまで

「金だ」

「人は信用できない」

「騙されるほうが悪い」

と強がってきた主人公が、

「でも俺にだって心はある」

と漏らすところが、この歌の核心です。

全体の意味

この歌の主人公は、人生経験から非常に冷めた考えを持つようになっています。

「世の中では、正直に働く人間より、金を持っている人間が尊敬される。

金の出所など誰も気にしない。

友人も恋人も、金や利益があるうちは近づいてくる。
親切にすれば裏切られ、善意を見せれば利用される。」
しかし最後に、

Pero nadie mira nunca, que tenés un corazón.

「でも、お前にも心があるということを誰も見てくれない。」

と結びます。

そのため、単純な「世の中は金だ」という歌ではありません。

むしろ、

何度も傷つけられた人間が、皮肉と強がりで自分を守ろうとしている歌

と読むと、アルベルト・エチャグエの力強く荒々しい歌唱にもよく合います。

特に重要なルンファルド

原語	意味
vivo	抜け目のない奴、ずる賢い奴
gil	間抜け、カモ、騙されやすい人
mina	女
guiyao	金を持っている、懐が豊かな
seco	金欠、無一文
afanar	盗む
grela	女、情婦
mango	金、ペン
guita	金
rebusque	儲け口、小遣い稼ぎ
dar cuarta	手を貸す、助ける
dar el raje	追い払う、捨てる
palmar	死ぬ、くたばる

一言で表すなら

「金と打算で動く世間に何度も裏切られ、それでも心の傷だけは消えない男のタンゴ」
です。

[Index](#)

Mendocina -42 Edgardo Donato con Romeo Gavioli

作曲 : Miguel Bruno

作詞 : Benigno Palmeiro

Edgardo Donato 楽団 / 歌 : Romeo Gavioli

Vals / 1942 年 8 月 6 日録音

Una casita en la loma

丘の上の小さな家

- **una casita** = 小さな家
casa (家) + 縮小辞 **-ita** → 「小さな家」「かわいらしい家」
- **en la loma** = 丘の上に
loma は「小高い丘、なだらかな高台」。

動詞が省略された名詞句で、「丘の上に一軒の小さな家がある」という情景を提示しています。

Toda cubierta de flores,

すっかり花々に覆われている。

- **toda** = 全体が、すっかり
女性名詞 **casita** を受けて女性形。
- **cubierta** = 覆われた
cubrir 「覆う」の過去分詞。これも **casita** に合わせた女性形。
- **de flores** = 花々で

前の行の **Una casita** を説明しています。

→ 「丘の上に、花でいっぱいに覆われた小さな家がある」

Es el lugar de la cita

そこは逢瀬の場所、

- **es** = ～である
ser の 3 人称単数現在。
 - **el lugar** = 場所
 - **de la cita** = 約束の、待ち合わせの、逢瀬の
 - **cita** は恋人同士の「デート、逢瀬」という意味にもなります。
-

De los jilgueros cantores.

歌うヒワたちが集う場所。

- **de los jilgueros** = ヒワたちの
- **jilguero** = ゴシキヒワなどの小鳥
- **cantores** = 歌う、さえずる
cantor 「歌い手、歌うもの」の複数形。

前の行とつなげると、

Es el lugar de la cita / de los jilgueros cantores.

= 「そこは、歌う小鳥たちが集う場所」
となります。

Ahí vive una mendocina

そこには、一人のメンドーサ娘が暮らしている。

- **ahí** = そこに
- **vive** = 暮らしている
vivir 「生きる、住む」の 3 人称単数。
- **una mendocina** = メンドーサ出身の女性

mendocina は、アルゼンチン西部の **Mendoza** (メンドーサ) 出身の女性を指します。

Tan hermosa como un sol,

太陽のように美しい娘が。

- **tan ~ como ...** = 「...と同じくらい～」 「...のように～」
- **hermosa** = 美しい
- **un sol** = 太陽

直訳では

「太陽と同じくらい美しい」。

スペイン語では **un sol** が、美しく輝く人物への比喻として使われます。

Todos celosos, le cantan

みんな彼女を想い、嫉妬しながら歌いかける、

- **todos** = みんな
ここでは前述の *jilgueros* (小鳥たち) を受けていると考えられます。
- **celosos** = 嫉妬して、やきもちを焼いて
- **le** = 彼女に
- **cantan** = 歌う、歌いかける
cantar の3人称複数。

le cantan

= 「彼女に歌いかける」。

Toda su trova de amor.

それぞれの愛の歌を、余すところなく。

- **toda** = すべての
- **su trova** = 彼らの恋の歌、吟唱
- **trova** = 詩的な歌、吟遊詩人の歌、恋歌
- **de amor** = 愛の

trova de amor は単なる「歌」よりも、
「恋心を込めた詩歌」「セレナーデ」のような響きがあります。

サビ

Mendocina, sugestiva

メンドーサの娘よ、心惹きつける君、

- **Mendocina** = メンドーサの女性よ
- **suggestiva** = 魅惑的な、想像をかき立てる、心惹きつける

sugestivo/a は英語の *suggestive* と似ていますが、この歌では性的な意味より、
「人を惹きつける」「魅力に満ちた」という意味です。

Y perfumada cual una flor,

そして花のように香り立つ君、

- **y** = そして
- **perfumada** = 香りをまとった、芳しい
- **cual** = ~のように
文語的・詩的な **como** に近い表現。
- **una flor** = 一輪の花

cual una flor

= 「花のように」。

Todas las noches, muy suavemente

毎晩、とても優しく、

- **todas las noches** = 毎晩
- **muy** = とても
- **suavemente** = 優しく、柔らかく、そっと

次の行の **te brinda** にかかります。

Te brinda trinos un ruiseñor.

一羽のナイチンゲールが、君にさえずりを贈る。

- **te** = 君に
- **brinda** = 差し出す、贈る
brindar = 「提供する、捧げる」
- **trinos** = さえずり、鳥の美しい鳴き声
- **un ruiseñor** = 一羽のナイチンゲール

語順を普通にすると、

Un ruiseñor te brinda trinos.

＝「ナイチンゲールが君にさえずりを贈る」。
詩のために語順が倒置されています。

La la la la

Mi mendocina, ángel de amor.

僕のメンドーサ娘よ、愛の天使よ。

- **mi mendocina** = 僕のメンドーサ娘
- **ángel** = 天使
- **de amor** = 愛の

動詞を使わず、呼びかけだけで終える詩的表現です。
「僕の愛しいメンドーサ娘、愛の天使よ」
という余韻を残しています。

全体の自然な日本語訳

丘の上に小さな家がある。

花々にすっかり覆われた家。

そこは歌う小鳥たちが

集い、さえずる場所。

そこにはメンドーサの娘が住んでいる。

太陽のように美しい娘。

小鳥たちはみんな恋敵のように

彼女に愛の歌を歌いかける。

メンドーサの娘よ、魅惑的な君、

花のように芳しい君。

毎晩、そっと優しく

ナイチンゲールが君にさえずりを贈る。

君はなんて美しいんだ、僕のメンドーサ娘。

神々しい女性、神様からの贈り物。

もし君が、僕がどれほど君を愛しているか知っていたなら――

僕のメンドーサ娘、愛の天使よ。

この歌のポイント

この作品には失恋や別れといったタンゴによくある暗さはほとんどなく、メンドーサの美しい女性への憧れを、自然の風景と小鳥のさえずりを使って描いた牧歌的な恋の歌です。

特に、

jilgueros（ヒワ） → 恋の歌を歌う求愛者たち

ruiseñor（ナイチンゲール） → 毎晩セレナーデを贈る歌い手

flor（花） → 女性の美しさと香り

という形で、鳥や花そのものが彼女に恋しているように描かれています。

そして最後の

Si vos supieras cómo te adoro

「もし君が、僕がどれほど君を愛しているか知っていたなら」

が、単なる美人礼賛から歌い手自身の恋心の告白へ変わるポイントです。

また **vos / sos** が使われているため、非常にアルゼンチンらしい言葉遣いになっています。

[Index](#)